

# 第 3 部

# 資 料 編







神奈川県  
教育委員会

KANAGAWA

# 活力と魅力ある県立高校をめざして

県立高校改革推進計画（概要）

平成11年11月



# 目 次

第1章 計画の趣旨 .....	1
第2章 計画の基本的な考え方 .....	1
第3章 多様な教育の提供 .....	2
第4章 柔軟な学びのシステムの実現 .....	6
第5章 地域や社会に開かれた高校づくりの推進 .....	7
第6章 県立高校の規模及び配置の適正化の推進 .....	8
第7章 改革推進のための条件整備等 .....	12



## 第1章 計画の趣旨

---

この計画は、社会の変化や生徒の多様化、少子化の進行など、県立高校をめぐるさまざまな課題に対応するため、県立高校の将来像を示すとともに、その実現に向けて取り組むべき施策を総合的にまとめた計画です。

この計画では、平成12年度を初年度として、おおむね10か年の間に実施する計画の目標と内容を明らかにします。計画期間を前期と後期にわけ、平成12年度から平成16年度までの5か年に実施する計画を「前期計画」とし、その内容を示した「実施計画」を定めています。平成17年度以降に実施する計画を「後期計画」としますが、その「実施計画」については、「前期計画」の進展を踏まえ、今後策定することとしています。

なお、この計画に位置づけられた施策のうち可能なものは、平成11年度から実施していきます。

この計画に基づいて改革を推進し、21世紀の新たな県立高校をめざします。

## 第2章 計画の基本的な考え方

---

### 1 県立高校をめぐる現状と課題

---

国際化・情報化の進展や少子・高齢化の進行など社会の急速な変化とともに、生徒の興味・関心、学習希望・進路希望などが一層多様なものになっています。そうした現状に対応するため、県立高校の多様化や特色づくり、柔軟な体制づくりを進める必要があります。

また、生涯学習社会を展望する中で、開かれた高校づくりの一層の推進が期待されています。

さらに、今後も生徒数の減少が進む中で、高校としての良好な教育条件を維持するため、適正な学校規模を確保するとともに、県立高校の適正な配置を行う必要があります。

### 2 高校教育に求められる基本的な視点

---

高校教育においては、生徒が将来、社会の発展や調和に貢献する自立した人間となるよう、一人ひとりの個性が生きる教育、豊かな人間性や望ましい社会性を育む教育の充実がこれまで以上に求められています。この計画では、こうした視点を基本において、改革の推進に取り組みます。

### 3 県立高校改革の基本方向

---

この計画では、次の事項を基本方向として施策展開を図り、県立高校の改革を推進します。

#### 【県立高校改革の基本方向】

- 多様で柔軟な高校教育の展開
- 地域や社会に開かれた高校づくり
- 活力ある教育活動を展開するための規模及び配置の適正化

# 第3章 多様な教育の提供

## 1 新しいタイプの高校の拡大

### (1) 単位制による普通科高校の拡大

一人ひとりの特性や進路希望、興味・関心に応じるため、特色ある分野の充実や多様な分野の科目展開を図るなど、教育内容に特色をもつ単位制による普通科高校の設置拡大を図ります。

#### 単位制による普通科高校の設置例

- 設置の趣旨 興味・関心のある分野を重点的に学び、個性の発揮をめざす
- 教育課程の特色 普通科で学ぶ科目を発展させ、多様な分野を展開
  - 文学系 文学研究、表現研究など 郷土系 郷土文学、郷土史など
  - 社会系 時事問題、アジア史など 情報系 情報システム、ネットワークなど
  - 科学系 物理研究、バイオ基礎など 国際系 国際交流、外国事情など
  - 数学系 情報数理、数学研究など 健康系 生涯スポーツ、野外活動など

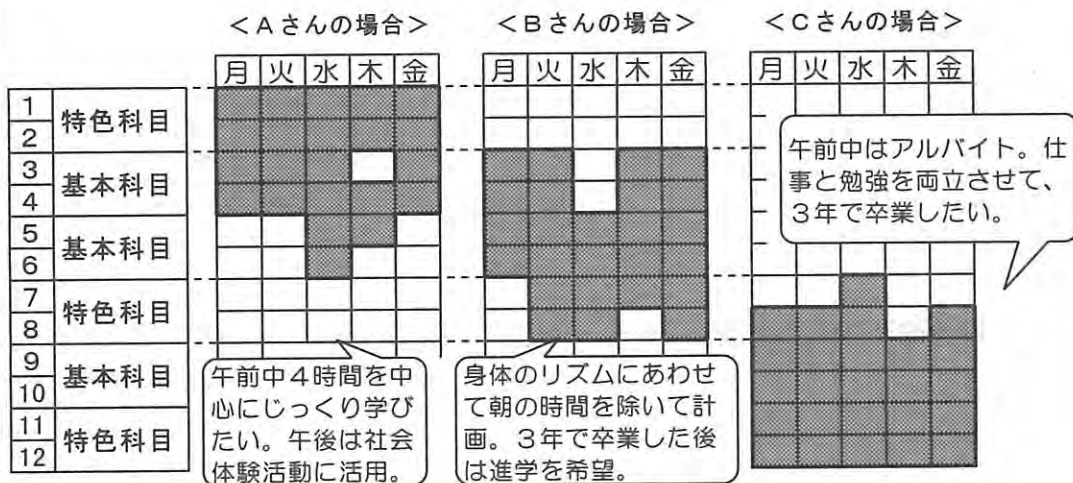
### (2) フレキシブルスクールの設置

個別学習を重視して、一人ひとりの生活スタイルや学習ペースに応じることができるよう柔軟な形態の高校を設置します。

8時間や12時間の幅広い時間帯から、フレキシブルに時間帯を選択し、生活スタイルに応じて学習計画を立て、得意な分野の伸長を図ることやじっくりと学ぶことができます。

#### フレキシブルスクールの展開例

○単位制のしくみにより 基本科目を学んだ上で特色ある科目等を選択して学習  
自分の目的やペースに応じて1日4～6時間を学習



- 特色ある科目の設定 <例1> 普通教科の科目を深化・充実させ、人文科学・自然科学などの分野を集中して設定
- <例2> 教科の枠を越えて、環境、国際、生活系など生活実践や体験的学習を中心に設定 など

○学習センター校の機能 他校との学校間連携や、県民の方と共に学ぶ講座の設定

### (3) 総合学科高校の拡大

進路への自覚を深め、幅広い普通科目と専門科目の中から主体的に科目を選択して学ぶことができる総合学科の設置拡大を図ります。

個性や適性を発見する学習を基盤としながら、系列（情報科学・社会福祉等）の開設の仕方を工夫し、特色ある教育内容を提供します。

#### 総合学科の設置例

○設置の趣旨	将来の進路への自覚を深め、自己の適性の発見をめざす				
○教育課程の特色	個性や適性の発見ができるよう、普通科目と専門科目を幅広く用意				
○系列	普通科目を発展させて総合的に専門分野を設置				
情報科学	文書処理	情報処理	プログラミング	情報管理	など
社会福祉	福祉概論	ボランティア学習	社会福祉実習	など	
造形文化	基礎造形	デザイン	映像表現	クラフト	環境造形など
国際文化	国際社会	各国文化	第2外国語	外国事情	など
地域環境	環境概論	環境調査	地域環境	など	

### (4) 新たな専門高校・専門学科の設置

産業界に必要とされる人材の育成や高齢化・国際化・情報化の進展など社会の変化に柔軟に対応することができるよう新たな専門高校・専門学科を設置します。

#### 新たな専門高校・専門学科

■総合技術分野の高校	工業の基礎・基本を共通に学んだ上で、進路希望や適性などに応じて、機械系・電子系・環境システム系・都市工学系など専門的な系（コース）を選択して学ぶ。
■総合産業分野の高校	産業の複合化に対応し、工業・情報・環境など幅広い専門分野を、科学技術という視点で総合的に学ぶ。 工学・情報・国際・環境・科学・バイオなどの系を設置
■国際分野の高校	国際情報・国際文化・国際コミュニケーションなどの国際分野の系を選択して国際性を身につける
■福祉に関する学科	福祉・看護を幅広く学び、介護福祉士の資格取得や進学してより専門的に学ぶ希望に応える
その他、環境・海洋科学・芸術・スポーツなどの新たな学科の設置を検討	

## 2 普通科高校の特色づくりの推進

### (1) 専門コースの改善・充実

普通科目を主としながら、特定の分野を集中して学びたいという目的意識をもった生徒のニーズに応えることができるよう、1校に複数のコースを設置することも含めて専門コースの新たな設置を進めるとともに、既設専門コースの改善・充実を図ります。

#### 専門コースの改善・充実

○専門コースの新たな設置	自然科学、福祉、芸術などの専門コースの設置
○既設専門コースの改善・充実	学習希望に応じた教育内容を充実 入学後の進路に弾力的に対応する柔軟なシステムづくり



## (2) 特色ある教育活動の展開

一人ひとりの特性や進路希望、興味・関心に応じた学校づくりをこれまで以上に進めるため、学校全体の活動を通じて特色ある教育活動の展開を図ります。

### 普通科の特色ある高校づくり

◆すべての高校生が学ぶ基礎・基本の学習、特別活動の展開に加え、

- ①多様な学習希望や進学・就職といった進路希望に対応する学校づくり
  - ・基礎から応用まで幅広い科目の設置やいずれかに重点を置いた教育課程の編成
  - ・進路希望（進学・就職など）に応じた学校づくり
- ②興味・関心に応じるための特色ある教育内容の充実
  - ・特色ある分野の科目を充実することや複数の分野での多様な科目の設置<特色ある内容のテーマ例>  
国際・情報・福祉・環境・人文科学・自然科学・芸術・  
体育・郷土・家庭・職業教育 など
- ③豊かな社会性、人間性を深めるための学校行事・部活動の充実など多彩な教育活動の展開
  - ・地域の特性を生かした学校づくり
  - ・特色ある学校行事・部活動の充実
  - ・福祉やボランティア活動の推進
  - ・異文化交流や体験活動の促進 など

### 特色ある高校づくりの展開例

- |        |                                   |                                       |
|--------|-----------------------------------|---------------------------------------|
| A<br>校 | ①大学等への進学希望に対応し、<br>応用的・発展的な科目を充実  | ②国際社会に貢献できる資質育成のため<br>外国語や異文化理解の科目を充実 |
| B<br>校 | ①職業意識を高めるため、職業に<br>関する科目や体験的学習を充実 | ②情報教育、福祉教育、郷土学習など<br>複数の分野を類型として展開    |
| C<br>校 | ①科学技術の進展に対応する<br>自然科学教育・理数教育を充実   | ②環境に関する学校設定科目の設置や<br>理数系に関する科目も充実     |
- ③海外との姉妹校交流や地域の特性を生かし、  
諸外国の人々との交流活動を展開
- ③地域の福祉施設との交流や地域の環境美化活動など  
ボランティア活動を積極的に展開
- ③地域の社会人講師による環境分野の講演会や  
学校行事における環境ボランティアを展開

## 3 専門高校の魅力づくり

スペシャリストとしての専門性を身につけることや、卒業後も継続的に学ぶといった多様な希望に応えるための教育内容の展開や職業意識を高めるインターンシップ（就業体験）の拡大を図ります。

### 専門高校の魅力づくり

- |                   |                       |            |             |
|-------------------|-----------------------|------------|-------------|
| ○多様な学習ニーズへの対応     | 選択科目の拡大               | 体験的学習の重視   | 進学希望への対応 など |
| ○社会の変化に応じる分野の導入   | 国際化、情報化、科学技術の進展などへの対応 |            |             |
| ○地域や産業界とのパートナーシップ | インターンシップの拡大           | 施設・設備の提供など |             |

#### 4 定時制課程・通信制課程の改善

選択科目の拡大など柔軟な教育活動を推進するとともに、実務代替など、働きながら学ぶ生徒の便宜を図るさまざまな制度の活用を促進します。

また、定時制課程においても単位制、総合学科など新たなタイプの高校を設置します。

さらに、通信制教育に対する期待に対応できるよう、スクーリング機会の拡大など、今後の通信制のあり方を検討します。

##### 定時制・通信制課程の改善

- 柔軟な形態による教育活動の推進 多様な選択科目 単位制の活用 など
- 新しいタイプの高校設置 単位制による普通科、総合学科等への改編 など
- 通信制教育のあり方検討 スクーリング機会の拡大 特色ある教育内容 など

#### 5 中高一貫教育校の検討・設置

中高一貫教育実践協力推進校などの研究成果を踏まえ、神奈川の地域性を生かし、国際性に富み、豊かな社会性を身につけることをめざした神奈川らしい中高一貫教育のモデル校を、後期計画において、設置します。

##### 中高一貫教育モデル校の例

- ◆21世紀に生きる人材育成と個性の発見・伸長をめざすゆとりある教育の提供
  - 神奈川の特性を生かした教育内容の設定
    - 国際、環境、人文、科学などの分野へのアプローチ
    - 6年間を見通した知の総合化を図るための教科の枠を越えた学習展開
  - 大幅に弾力化した教育課程による多彩な学習
    - 個に応じた学習の展開 得意な能力の伸長を図る習熟度別学習 など
    - 主体的な選択学習 多様な選択科目の展開 など
  - 幅広い年齢集団による豊かな人間性・社会性を育む学校生活
    - 体験活動の重視・幅広い年齢集団による学校生活・個別の生活指導など

## 第4章 柔軟な学びのシステムの実現

### 1 個に応じた学習活動の充実

一人ひとりの学ぶ目的や特性・学習状況に着目し、学習者が主体となった学びの場をつくるため、学習指導の改善、学習支援の充実を図るとともに学習環境の整備を進めます。

#### 個を生かす学習指導・学習支援

- 個を生かす学習指導 小集団学習、習熟度別学習、チームティーチングなど
- 外国籍生徒や障害のある生徒などに対応する学習環境 必要に応じた整備の推進

### 2 教育課程の弾力化の推進

一人ひとりの能力や適性を伸長し、主体的な選択により学習を進めることができるよう、幅広い選択科目の展開や単位制の活用などを図り、教育課程の弾力化を進めます。

#### 選択中心の弾力的な教育課程

- 選択中心の教育課程 多様な選択科目の設置、自由に選択できる科目の拡大
- 総合的な学習の時間 社会体験の重視、多様な学習形態など創意工夫ある取り組み

#### 単位制を活用した柔軟な教育課程

- 単位制の積極的活用 学年を越えた選択科目の設置や進級等の認定の弾力化 など

### 3 多様な学習機会の拡大

得意な能力や各自が努力した成果、自分の学校以外での学習活動の成果を生かすことができるようさまざまな学習機会を設定します。

#### 自校以外での学習成果の活用

- 学校間連携・課程間併修 特色科目を相互に学習する学校間連携、課程間併修など
- 学校外における学習 大学での講座の受講やボランティア活動の単位認定など

### 4 柔軟な受け入れ体制の確立

転編入学の弾力化や社会人の受け入れを図るなど柔軟な体制づくりを進めます。

#### 柔軟な受け入れ体制

- 転編入学機会の拡大 進路変更を希望するなどの理由による転入学  
再入学の制度の活用による中途退学者の積極的な受け入れ
- 社会人の受け入れ 一部科目の履修機会、生涯学習講座の拡大

### 5 中途退学等の課題への対応

不本意な入学をなくし、一人ひとりの特性や学習状況などに応じた学習活動の展開やきめ細かな個別の教育相談体制づくりを進めるなど、計画全体にわたる取り組みを総合して、中途退学等の課題に対応します。

#### 中途退学等の課題への計画全体にわたる対応

- ◆中学校の進路指導の充実
- ◆新しいタイプの高校の拡大
- ◆柔軟な学びのシステムの実現
- ◆教育相談等の充実



## 第5章 地域や社会に開かれた高校づくりの推進

### 1 地域・社会との連携・交流の推進

地域・社会との相互交流を進め、地域のみなさまの力で高校の教育活動を実りあるものにしていただくことや、高校が地域の学習活動やコミュニティづくりに協力し、高校の施設や学習機能を地域活動に役立てていただくなど、地域・社会と共にあゆむ高校づくりを一層推進します。

#### 中学生や保護者、中学校等との連携強化

- 学習活動における連携 中高連携等による教科活動、部活動など
- 特色づくり広報 紹介冊子の充実、インターネット広報など
- 中高連携による進路指導 高校の特色を実感する体験プログラム  
中学校進路指導担当者との連携充実など

#### 地域・社会との連携による学校教育活動の展開

- 学校支援ボランティア さまざまな教育活動を支援していただく学校支援ボランティアの体制づくり
- 地域の施設等の活用 地域の博物館、文化財等を活用した教育活動 など
- 体験学習の促進 企業でのインターンシップなどの就業体験学習の推進
- 大学等との連携・交流 公開講座の受講など

#### 地域住民の学習の支援、地域コミュニティづくりへの協力

- 地域の学習活動への支援 学校施設開放やコミュニティ・スクールなど
- 生涯学習講座の充実 高校生と地域の方々と共に学ぶ場づくり
- 学校施設の有効活用 住民の交流の場、防災や福祉などの多目的な活用 など

#### 地域との連携・交流を促進する体制の整備

- 連携を促進する総合的な組織づくり

### 2 地域の意見を反映した学校づくり

各学校が地域に親しまれ、地域のみなさまの学校に対する理解がより深まるよう、学校からの積極的な情報発信に取り組むとともに、地域の意見を反映した学校づくりを進めます。

#### 地域・社会への情報発信

- 情報発信と学校のオープン化 学校行事等のお知らせなど身近な広報活動の充実  
学校説明会の実施、学校見学の受け入れなどの促進

#### 地域の意見を反映する仕組みづくり

- 学校評議員の設置 学校の教育目標や教育活動、教育環境などについて意見や助言をいただく学校評議員を設置
- 学校モニターの導入 幅広く地域からの学校に対する意見を聴取
- 学校評価システムの導入 教育活動や教育環境などについて、地域の意見を生かしながら改善を図るための総合的な学校評価システム

学校評議員・学校モニターなどの導入検討にあたっては、モデル地区（モデル校）による実践を行い、その成果を踏まえ、順次拡大していく。

## 第6章 県立高校の規模及び配置の適正化の推進

### 1 現状と課題

#### (1) 生徒数の動向を踏まえた適正規模の確保

県内の公立中学校卒業生数は、昭和63年3月の122,167人をピークに減少に転じ、平成11年3月には、77,424人となっています。減少傾向は今後も続き、最も少なくなると見込まれる平成18年3月には、63,000人程度になると推計しています。

生徒数の減少にともなって、学校の小規模化が進んでおり、普通科高校では、現在、約3分の1の学校で18学級規模（1学年6学級）になっています。学校の小規模化がさらに進んだ場合には、学区によっては、やがて1学年3～4学級の学校ばかりになってしまうところもあり、学校運営上、次のようなさまざまな課題が生じてきます。

- ・ 教員配置数の減少により、高校教育に求められる多様な教科・科目の展開が困難となる
- ・ 生徒数が少なく、学校行事や生徒間の交流などの面で、活気がとぼしくなる
- ・ 部活動では、部員や顧問が不足し、活力ある活動ができなくなる
- ・ 教員一人あたりの校務分掌が多くなり、学校運営に支障を生じることがある

高校としての良好な教育条件を確保し、各学校が活力ある教育活動を円滑に展開するためには、一定の学校規模の確保が必要です。そのため、今後、県立高校の再編統合を進める必要があります。

### 2 全日制課程の再編整備の基本的な考え方

#### (1) 学校数適正化の基礎条件

今後の生徒数の動向を踏まえるとともに、次のような基礎条件に基づいて計画を策定し、再編整備を推進します。

- 計画進学率 全日制の高校への進学希望等を考慮し、段階的に引き上げ
- 私立高校受入枠 生徒数の減少や進学実績に応じて、公立高校と私立高校の間で調整
- 適正な学校規模 学級数だけではなく、学校全体の生徒数を確保する観点から、学校全体で18学級から24学級（1学年6～8学級）、生徒数では720人から960人を標準（算定基礎は1学級40人）  
（学区の事情や専門学科などの学科の特性等によっては、標準以外の規模とすることもある）

#### (2) 学校数の適正化

各学校の適正な規模を確保していくため、上記の基礎条件を踏まえ、今後、県立高校の再編統合を行い、学校数の適正化を図ります。

再編統合の実施にあたっては、それまでの各学校の取り組みを生かしながら、教育内容や施設面などの課題を改善し、より特色が明確となるよう、適切な学校を選定します。

その際、各学校の立地条件や周辺環境、通学の便、校舎・敷地の状況、歴史や特色づくり等の共通性なども十分に考慮し、総合的な観点から選定します。

(3) 新しいタイプの高校等の設置

再編整備の実施にあたっては、学区ごとの生徒数の動向に基づき、既設高校を発展的に統合し、新しいタイプの高校等の設置を進めます。

また、こうした高校を県内にバランス良く配置するため、統合だけではなく、一つの学校を単独で改編し、新しいタイプの高校等の拡大を図ります。

【新しいタイプの高校等の設置】

新しいタイプの高校等の種類		前期計画	後期計画
普通科 高 校	単位制による普通科高校	4校	4校程度
	フレキシブルスクール	3校	
	専門コース設置校	3校	3校程度
総合学科高校		6校	8校程度
専 門 高 校	総合技術分野の高校	2校	
	総合産業分野の高校	1校	
	国際分野の高校	—	1校程度
	福祉に関する学科	1校	
	その他の学科	—	3校程度
中高一貫教育校		—	2校程度

3 全日制課程の適正配置

前期計画では、14組（28校）の高校で再編統合を実施し、統合後は新しいタイプの高校等に生まれ変わり、単独校の改編もあわせ、新しいタイプの高校等が20校誕生します。前期計画の再編整備後には、現在の県立高校166校が152校となります。

また、計画期間全体を通して、再編統合により25～30校減となります。

【全日制課程の適正配置】

	平成11年度 学 校 数	前 期 計 画	平成17年度 学 校 数	後 期 計 画
普通科高校	143校*1	▲17校	126校	▲17～22校程度
普通科高校	122校	▲25校	97校	▲20～25校程度
単位制による普通科高校	1校	+ 4校	5校	+ 4校程度
フレキシブルスクール		+ 3校	3校	
専門コース設置校	20校	+1校 (+2校*2) ▲1校	21校	▲ 1校程度 (+3校程度) ▲4校程度
総合学科高校	1校	+ 6校	7校	+ 8校程度
専 門 高 校	22校	▲ 3校 (+3校) ▲6校	19校	▲ 2校程度 (+1校程度) ▲3校程度
合 計	166校	▲14校	152校	▲11～16校程度
中高一貫教育校				2校程度*3

\*1 学校数を算出するため、普通科と専門学科を併置する学校は普通科として算出する。

\*2 このほかに従来のコースに加え、新たなコースを設置する学校が1校ある。

\*3 中高一貫教育校の数は、全体の学校数に算入していない。



#### 4 定時制課程・通信制課程の適正配置

定時制課程では、生徒数の減少が長期的に続いています。一方、通信制課程では、近年、生徒数の増加が見られます。こうした生徒の動向やニーズの多様化などを踏まえ、定時制課程・通信制課程の適正配置を図ります。

前期計画では、全日制課程の再編にあわせ、定時制における新しいタイプの高校として、単位制による普通科高校1校、総合学科高校1校を設置します。

このほか、フレキシブルスクールとして、全日制課程と一体化した運営を行う高校が2校あります。

また、通信制課程では、別途、検討委員会を設置し、今後のあり方を検討します。

#### 5 県立高校の再編整備

##### 【前期再編整備計画】

No	<設置地区> 再編整備内容 (設置年度)	再編整備対象校	備 考
1	<横浜東部学区> 総合学科高校 (平成16年度)	平安高校 寛政高校	平成14年度から移行期間
2	<横浜北部学区> 複数専門コース設置高校 (平成14年度)	白山高校	国際教養コースに加え、美術コースを設置
3	<横浜西部学区> 単位制による普通科高校 (平成16年度)	都岡高校 中沢高校	平成14年度から移行期間
4	<横浜西部学区> 福祉科設置高校 (平成12年度)	衛生短期大学付属 二俣川高校	衛生看護科を改編し、衛生看護科と福祉科を設置
5	<横浜中部学区> フレキシブルスクール (平成15年度)	汲沢高校 豊田高校	平成13年度から移行期間
6	<横浜南部学区> 専門コース設置高校 (平成15年度)	横浜日野高校 野庭高校	平成13年度から移行期間 健康福祉コースを設置
7	<横浜南部学区> 総合学科高校 (平成16年度)	清水ヶ丘高校 大岡高校	平成14年度から移行期間
8	<横浜臨海学区> 総合学科高校 (平成16年度)	富岡高校 東金沢高校	平成14年度から移行期間
9	<川崎南部学区> フレキシブルスクール (平成16年度)	川崎高校 ※建替 川崎南高校	平成14年度から移行期間 川崎高校定時制課程は新校に移設し、フレキシブルスクールに改編
10	<川崎北部学区> 総合学科高校 (平成16年度)	柿生西高校 柿生高校	平成14年度から移行期間

No	<設置地区> 再編整備内容 (設置年度)	再編整備対象校	備 考
11	<横須賀三浦学区> 単位制による普通科高校 (平成16年度)	初声高校 三崎高校	平成14年度から移行期間
12	<鎌倉藤沢学区> 総合技術高校 (平成15年度)	藤沢工業高校 大船工業技術高校	平成13年度から移行期間(大船工業技術高校は、平成13年度から募集停止)
13	<鎌倉藤沢学区> 総合学科高校 (平成16年度)	長後高校 藤沢北高校	平成14年度から移行期間
14	<茅ヶ崎学区> 単位制による普通科高校 (平成17年度)	茅ヶ崎北陵高校 ※建替	茅ヶ崎北陵高校単独で改編
15	<平塚学区> 総合技術高校 (平成15年度)	平塚工業高校 平塚西工業技術高校	平成13年度から移行期間(平塚西工業技術高校は、平成13年度から募集停止)
16	<県西学区> 単位制による普通科高校 (平成16年度)	小田原高校 ※建替 小田原城内高校	平成14年度から移行期間(小田原城内高校は、平成14年度から募集停止。ただし、専門コースを除く) 小田原城内高校定時制課程は新校に移設し、単位制による普通科に改編
17	<県西学区> 専門コース設置高校 (平成17年度)	西湘高校 ※建替	西湘高校単独で改編 自然科学コースを設置
18	<厚木海老名愛甲学区> フレキシブルスクール (平成17年度)	厚木南高校 ※建替	厚木南高校単独で改編
19	<相模原南部学区> 総合産業高校 (平成17年度)	相模台工業高校 ※建替 相模原工業技術高校	平成15年度から移行期間(相模原工業技術高校は、平成15年度から募集停止) 相模台工業高校定時制課程は新校に移設し、総合学科に改編
20	<相模原北部津久井学区> 総合学科高校 (平成15年度)	大沢高校	大沢高校単独で改編

\* 再編整備対象校の欄に、学校名が2校記載してある学校は再編統合を実施する。統合前の移行期間には、教育活動を中心に緊密な連携を図ることとする。

\* 再編整備対象校の欄の上段に記載した学校の敷地・校舎を活用し、新校を設置する予定。

## 第7章 改革推進のための条件整備等

---

### 1 教職員の資質向上及び計画的配置

---

教職員の資質向上と意識改革に向け、民間企業等への派遣体験研修の充実や、各学校が主体的に取り組む校内研修体制の充実など研修の活性化を図ります。

また、高い意欲と教育力を持つ人材を育成するため、教職員の職務に対する評価を一層適切に行い、その結果の活用などについて改善を図ります。

さらに、県立高校の再編整備を円滑に実施するため、計画的な教職員配置を行います。

### 2 学校運営等の改善・充実

---

各学校が主体的に改革に取り組むことができるよう、校内組織やその運営のあり方について見直しを行います。

校長がリーダーシップを発揮し、教育活動が円滑かつ効果的に実施できるよう、職員会議の位置づけの明確化や校長を支える校内組織の整備など、管理運営規則の見直しを含め、学校運営組織の改善に取り組みます。

### 3 学校施設設備の整備充実

---

県立高校の再編整備にあたっては、新しいタイプの高校等の設置や特色づくりの推進などとともに、必要な施設設備の整備を行います。

また、安全対策として、老朽化した校舎の改修や耐震診断に基づく補強工事など、建替を含めた計画的な整備を行っていきます。

### 4 入学者選抜制度改善の推進と通学区域の検討

---

県立高校の再編整備の進展にともない、今後、入学者選抜制度や通学区域（学区）のあり方について、検討が必要になると考えられます。そのため、「後期計画」の進展を踏まえ、教育関係者や県民のみなさまのご意見も広くいただきながら検討を行います。

「前期計画」においては、入学者選抜制度の一層の改善を図るとともに、隣接する学区の高校への通学を可能にする扱いなど弾力的な対応を進めます。

### 5 市立高校、県内私立高校との連携

---

県立高校の再編整備を進めるにあたって、市立高校の再編整備計画や、県内私立高校への進学者数の動向などとの関連に配慮する必要があるため、関係機関との連携や調整を十分に図っていきます。

### 6 県立高校改革のPR活動の推進

---

県立高校改革の内容や進行状況について、十分にご理解いただくとともに、これからの中学生が新しい県立高校の姿をよく知って高校選択ができるよう、リーフレットの配布やインターネットなどを活用したきめ細かな広報に努め、県立高校改革のPR活動を積極的に展開していきます。



活力と魅力ある県立高校をめざして  
～県立高校改革推進計画（概要）～

---

---

平成11年11月発行

発行 神奈川県教育庁管理部総務室  
県立高校改革推進担当  
〒231-8509 横浜市中区日本大通33  
TEL 045-201-1111（代表）

---

---

★ お知らせ ★

県庁の電話番号は、ダイヤルイン化に伴い、  
平成12年1月4日から変更されます。  
変更後の代表番号は：045-210-1111





古紙配合率70%再生紙を使用しています



神奈川県

教育庁管理部総務室  
横浜市中区日本大通33〒231-8509





活力と魅力ある県立高校をめざして

県立高校改革推進計画

## 後期実施計画（概要）



平成17年 3月

神奈川県教育委員会



## ■ 目 次 ■

### ◇ 県立高校改革推進計画の展開

第1章 計画の趣旨 .....	1
第2章 計画の基本的な考え方 .....	1
第3章 前期実施計画の進展状況と成果 .....	2

### ◇ 後期実施計画の具体的展開

序 章 後期実施計画の概要 .....	5
第1章 多様な教育の提供 .....	7
第2章 柔軟な学びのシステムの実現 .....	11
第3章 地域や社会に開かれた高校づくりの推進 .....	12
第4章 県立高校の規模及び配置の適正化の推進 .....	13
第5章 教職員の意識改革と資質向上 .....	18
第6章 改革推進のための条件整備等 .....	18

## ◇ 県立高校改革推進計画の展開

### 第1章 計画の趣旨

この計画は、社会の変化や生徒の多様化、少子化の進行など、県立高校をめぐるさまざまな課題に対応するため、これからの県立高校のあり方を示し、その実現のための取り組みを明らかにした総合的な計画です。

この計画は、平成12年度を初年度として、計画期間を前期と後期にわけ、「前期計画」は平成16年度（平成17年4月の開校を含む。）までの5か年とし、「後期計画」は平成17年度から平成21年度（平成22年4月の開校を含む。）までの5か年に実施します。<sup>(\*)</sup>

この計画に基づいて改革を推進し、活力と魅力ある県立高校をめざします。

<sup>(\*)</sup> 後期計画における施設や設備の整備については、県の財政状況を踏まえ、計画期間を超えて整備することもあります。

### 第2章 計画の基本的な考え方

#### 1 県立高校をめぐる現状と課題

国際化・情報化の進展や少子・高齢化の進行など社会の急速な変化とともに、生徒の興味・関心、学習希望・進路希望などが一層多様なものになっています。そうした現状に対応するため、県立高校の多様化や特色づくり、柔軟な体制づくりを進める必要があります。

また、生涯学習社会を展望する中で、開かれた高校づくりの一層の推進が期待されています。

さらに、今後も生徒数の減少が進む中で、高校としての良好な教育条件を維持するため、適正な学校規模を確保するとともに、県立高校の適正な配置を行う必要があります。

#### 2 高校教育に求められる基本的な視点

高校教育においては、生徒が将来、社会の発展や調和に貢献する自立した人間になるよう、一人ひとりの個性が生きる教育、豊かな人間性や望ましい社会性を育む教育の充実がこれまで以上に求められています。この計画では、こうした視点を基本において、改革の推進に取り組みます。

#### 3 県立高校改革の基本方向

この計画では、次の事項を基本方向として施策展開を図り、県立高校の改革を推進します。

##### 県立高校改革の基本方向

- 多様で柔軟な高校教育の展開
- 地域や社会に開かれた高校づくり
- 活力ある教育活動を展開するための規模及び配置の適正化

1 多様な教育の提供

<新しいタイプの高校等の拡大>

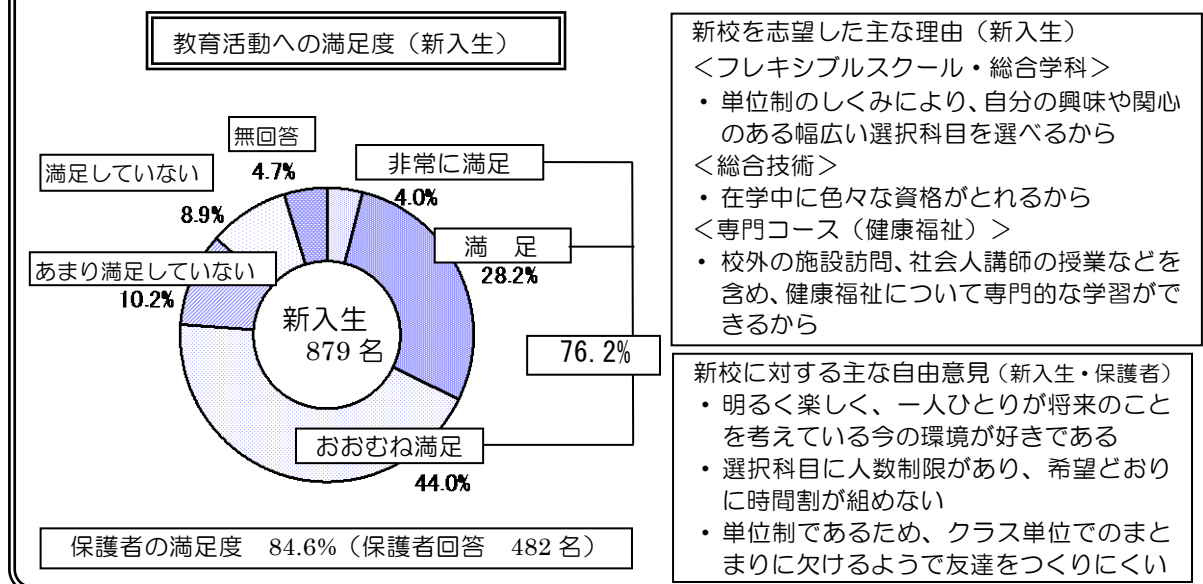
- 一人ひとりの個性を生かすことができるよう、単位制による普通科高校、フレキシブルスクール、総合学科高校、新たな専門高校である総合技術高校、総合産業高校など新しいタイプの高校や専門コースを設置

単位制による普通科高校：学年の区分がなく、一人ひとりの進路希望や興味・関心などに応じた学習計画を立てて学ぶ  
 フレキシブルスクール：個別学習を重視して、一人ひとりの生活スタイルや学習ペースに応じることができるよう、8時間や12時間といった幅広い授業時間帯から、午前・午後・夜間といった時間帯を選択できる柔軟な形態  
 総合学科高校：将来の進路への自覚を深め、普通科目から専門科目にわたる幅広い科目から主体的に選択して学ぶ  
 総合技術高校：工業の基礎・基本を共通に学んだうえで機械系・電子系・環境システム系など専門的な系（コース）を選択して学ぶ  
 総合産業高校：産業の創出や科学技術の進展にかかわる人材を育成するため、産業を総合的に学ぶ新たな専門高校

<前期実施計画に基づき設置する新しいタイプの高校等> (開校年度：校数)

新しいタイプの高校等の種類	平成12	平成13	平成14	平成15	平成16	平成17	計
単位制による普通科高校					3		3
フレキシブルスクール				1	1	1	3
総合学科高校				1	5		6
新たな専門高校・専門学科	総合技術高校			2			2
	総合産業高校					1	1
福祉科	1						1
普通科専門コース			1	1		1	3
合計	1		1	5	9	3	19

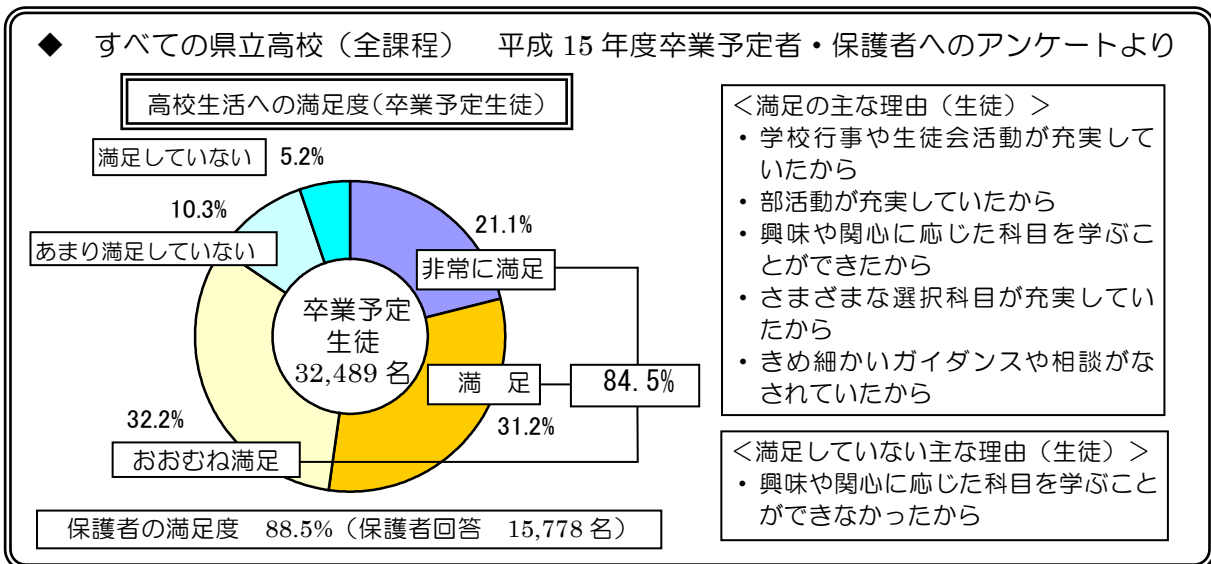
◆ 新しいタイプの高校 新入生・保護者へのアンケート（平成15年度開校5校）より



<普通科高校の特色づくり・専門高校の魅力づくり>

- 各高校の個別計画に基づき推進校の指定、特色の定着を図るための教育活動支援、設備整備の充実
- 定時制・通信制の課程についても、選択科目の拡大、定時制と通信制の課程間の併修による単位認定など教育内容の改善を推進





## 2 柔軟な学びのシステムの実現

### ＜個に応じた学習活動の充実・教育課程の弾力化＞

- 推進校を指定して取り組みの充実を図るとともに必要な設備整備の実施
- 少人数学習や習熟度別学習の実施校の拡大、一人ひとりの特性に応じた指導の充実
- 総合的な学習の時間の充実を含め、弾力的な教育課程編成の進展

### ＜多様な学習機会の拡大＞

- 高校間の連携、大学等との連携、ボランティア活動等の単位認定等の拡大
- 進路変更など積極的な理由による転入学の機会の拡大

## 3 地域や社会に開かれた高校づくり

- インターネット広報の実施、高校体験プログラムの実施など、広報活動の活性化
- 地域の施設の活用や地域の方々の協力を得るなど地域社会との連携による教育展開
- 社会人が高校生とともに学ぶ「社会人聴講生」制度による社会人の学習機会の提供
- 地域の意見を反映した学校づくりを進める学校評議員を全校に設置
- 学校運営の改善を図るため、すべての高校で学校評価システムを活用した取り組み

## 4 県立高校の規模及び配置の適正化

- 生徒数の動向に基づき、平成 17 年度までに 14 組（28 校）の統合を実施
- 単独校の改編もあわせて、19 校の新しいタイプの高校等の設置

## 5 改革推進のための条件整備等

### (1) 教職員の資質向上

- 教職員の資質向上を図るため、研修の充実
- 新たな人事評価システムを全校で導入
- 優秀な成果をあげた教職員に対する表彰制度を導入
- 校長がリーダーシップを発揮できるよう、職員会議を校長の補助機関として位置づけるとともに、教頭の複数配置、若手管理職の登用、校長の在任期間の長期化など学校運営改善の取り組み
- 総合学科高校及び総合産業高校で民間人校長 2 名の登用

(2) 教職員の計画的配置

- 県立高校の再編整備を円滑に実施するため、計画的な教職員配置を推進

<教職員の定数> 再編統合により平成15年度に開校する新校の再編対象校が入学者の募集人員を減じた平成13年度から、在籍生徒数がボトムとなる平成19年度にかけて、全体で約1,300人の減（このうち約1,100人は教員の減）

(3) 財政状況を踏まえた効率的な教育環境整備

- 新しいタイプの高校等の設置などにともなう必要な施設設備の整備
- 安全対策として、老朽化した校舎の改修や耐震診断に基づく補強工事などの整備
- 建替えの見直し等による事業費の節減など、県の財政状況を踏まえた効率的な教育環境の整備

【前期実施計画の総事業費】

- ・平成11年策定時見込み450億円程度、現時点見込み325億円程度
- ・総事業費約325億円のうち施設整備費は約300億円で、そのうち耐震・老朽化対策の費用が約220億円

(4) 県立高校の再編統合にともなう跡地の活用

- 県立高校の再編統合にともなう生じる14校の跡地の有効活用
  - ・市町村や民間への売却による収入を見込む
  - ・県立養護学校や県立職業技術校などに転用するなど、県自らの利用

6 入学者選抜制度の改善と通学区域（学区）の改正

- 再編整備の進展等にともない、これまで以上に個が生きる選抜となるよう制度改善
- 特色に応じた高校選択の幅を拡大するため、平成17年度からは学区を撤廃

【前期実施計画における再編整備状況】

開校年度	新校の種類	再編整備対象校(*)	新校の校名
12年度	福祉科設置校	衛生短期大学付属二俣川高校	二俣川看護福祉高校 (15.4.1に校名変更)
14年度	複数専門コース設置校 (国際教養コース・美術コース)	白山高校	単独改編による専門コース設置のため校名変更なし
15年度	フレキシブルスクール	汲沢高校・豊田高校	横浜桜陽高校
	総合学科高校	大沢高校	相模原総合高校
	総合技術高校	藤沢工業高校・大船工業技術高校	藤沢工科高校
		平塚工業高校・平塚西工業技術高校	平塚工科高校
専門コース設置校 (健康福祉コース)	横浜日野高校・野庭高校	横浜南陵高校	
16年度	単位制普通科高校	都岡高校・中沢高校	横浜旭陵高校
		初声高校・三崎高校	三浦臨海高校
		小田原高校・小田原城内高校	小田原高校
	フレキシブルスクール	川崎高校・川崎南高校	川崎高校
	総合学科高校	平安高校・寛政高校	鶴見総合高校
		清水ヶ丘高校・大岡高校	横浜清陵総合高校
		富岡高校・東金沢高校	金沢総合高校
柿生西高校・柿生高校		麻生総合高校	
長後高校・藤沢北高校	藤沢総合高校		
17年度	フレキシブルスクール	厚木南高校	厚木清南高校
	総合産業高校	相模台工業高校・相模原工業技術高校	神奈川総合産業高校
	専門コース設置校 (理数コース)	西湖高校	単独改編による専門コース設置のため校名変更なし

\* 学校名が2校記載してある学校は、再編統合を実施し、左側に記載した学校の敷地に新校を設置

## ◇ 後期実施計画の具体的展開

### 序 章 後期実施計画の概要

後期実施計画は、本県が策定している県政運営の総合的・基本的指針である「神奈川力構想・プロジェクト 51」に基づき、県立高校改革推進計画の基本的な考え方を継承しながら、社会、経済のグローバル化やIT（情報技術）社会の一層の進展、これからの社会に求められる「生きる力」としての確かな学力育成の必要性など前期実施計画策定後のさまざまな社会状況の変化を踏まえて展開する具体的な取り組みを示すものです。

また、公立高等学校入学者選抜制度の改善や県立高校における学区撤廃にともない、各校がその特色と役割を鮮明に示し、多様な学習希望に応えるための特色づくりの深化が求められていることなど、前期実施計画の進展を踏まえた展開を図ります。

#### 1 社会状況の変化に伴う後期実施計画における課題と対応

##### (1) 社会・経済・文化のグローバル化の一層の進展

- 自らの文化と世界の多様な文化の理解や幅広い視野をもち、深い教養と高度な専門知識に裏付けられた知的リーダーシップの育成の必要性
  - 国際社会において地球規模での交流を進め、世界に貢献しつつ、主体的に生きる国際人を育成する教育の充実
  - グローバルな知識や情報を吸収、発信し、対話するための基本的な能力として外国語によるコミュニケーション能力を育成

##### (2) IT社会の一層の進展と科学技術の急速な発展に対応した専門性の育成

- 主体的な情報収集、分析、判断、再創造、情報発信の力といった情報活用能力（情報リテラシー）の育成の必要性
  - 先進的なITを活用した教育の充実を図るとともに、学校間ネットワークなどの整備

##### (3) 学ぶ意欲の低下、確かな学力向上への期待

- 学力低下の懸念に対し、個に応じたきめ細かな教育展開により、基礎・基本の着実な定着と、学ぶ進度に応じた指導による個別の学力伸長
  - 学ぶ意欲を高め、確かな学力を身につけることができるよう、これまで以上に一人ひとりの興味・関心に応じた特色ある教育内容の提供、個を生かす学習展開の充実

##### (4) 規範意識の低下、交流・体験活動の希薄化、不登校、中途退学などの課題への対応

- 地球社会の一員として、責任ある個人としての自覚をもち、さまざまな人々と共生し、社会とのかかわりの中で自らを位置づけ、他者の立場に立って考えることができる豊かな人間性と望ましい社会性の育成、不登校、中途退学などの課題への対応
  - 社会の構成員として豊かな人間性を身につけるための社会奉仕活動、ボランティア活動の促進
  - 多様な生徒の学習への希望をかなえる学びの場やシステムづくりを一層推進するなど計画全体を通じた不登校、中途退学などの課題への対応



## 2 前期実施計画の進展を踏まえた課題と対応

### (1) 前期実施計画における新しいタイプの高校の検証を踏まえた設置拡大

- 前期実施計画において設置した新しいタイプの高校の新入生やその保護者などによる評価や社会状況の変化を踏まえながら新しいタイプの高校の設置を拡大

### (2) 公立高等学校入学者選抜制度の改善・県立高等学校の学区制度の改正

- これまで以上に、生徒一人ひとりの個性が一層生かされるよう、個性や能力、適性を多面的にとらえ、生徒の特性や長所に着目した選抜制度、自らの進路希望に基づいて学校選択ができる選抜制度となるよう、平成16年度の入学者の選抜から改善
- 生徒が自らの進路希望に基づいて、特色に応じた学校を主体的に選択できるよう、平成17年度の入学者の選抜から、県立高校の学区を撤廃
  - 一元的な評価尺度にとらわれず、一人ひとりの長所や優れた点を多面的に評価することができるよう、それぞれの高校の特色に応じた選抜の実施を着実に進めるとともに、特色ある高校づくりの一層の深化・拡充

### (3) 民間活力や地域・社会の連携による学校教育活動の展開

- 企業でのインターンシップ（就業体験）の実施、高校と大学との連携の推進、地域の方々に講師として協力をいただくなど、地域社会との連携による地域にねざした高校づくりの進展や民間人校長の登用
  - 民間活力や地域の人々が有する専門的な知識・経験などを学校の学習活動の展開や学習環境の整備に生かしていただくなど、地域・社会と共にあゆむ高校づくりを一層推進

### (4) 生徒数動向を踏まえた再編整備計画の策定

- 県内の公立中学校卒業生数は、新たな推計では社会増などにより70,000人程度で推移する見込み
  - 今後の中期的な生徒数の動向を踏まえた後期実施計画における学校数の適正化、適正配置

### (5) 県の財政状況を踏まえた効率的な教育環境整備、再編整備の実施

- 依然として厳しい財政状況が続く中、ゼロ成長の時代に対応した簡素で効率的な事業展開が必要
  - 新しいタイプの高校等の設置や特色づくりの推進などにとともなう施設設備の整備にあたっては、現有の施設設備の有効利用を原則とするなど効率的な整備

### (6) 「神奈川県県有施設長寿命化指針」を踏まえた生徒の安全対策（長寿命化対策・耐震対策）の実施

- 「神奈川県県有施設長寿命化指針」（平成14年12月策定）
  - 再編整備にあたって建築後の経過年数や老朽化の進行状況、耐震性等を勘察し、必要な老朽化対策や耐震対策を進め、生徒が安全に学習できる環境整備を実施

1 新しいタイプの高校の拡大

(1) 単位制による普通科高校の拡大《継続》

- 一人ひとりの進路希望、興味・関心などに応じるため、特色ある分野の充実や多様な分野の科目展開など、教育内容に特色をもつ単位制による普通科高校の設置拡大

**設置例**

- ◆ 設置の趣旨 進路希望や興味・関心に応じた分野を重点的に学び、個性の伸長をめざす。
- ◆ 教育課程の特色 普通科で学ぶ科目を発展させ、多様な分野を展開  
 人文科学系：文学研究、時事問題など 郷土系：郷土史、神奈川の経済など  
 数学系：情報数理、数学研究など 自然科学系：物理研究、環境科学など  
 国際理解系：国際交流、外国事情など 健康福祉系：生涯スポーツ、福祉基礎など  
 情報科学系：情報システム、ネットワークなど  
 (系＝学習のまとまりとして設置した科目群。どの系の科目も自由に選択できる。)

(2) 総合学科高校の拡大《継続》

- 進路への自覚を深め、幅広い普通科目と専門科目の中から主体的に科目を選択して学ぶことができる総合学科高校の設置拡大

**設置例**

- ◆ 設置の趣旨 幅広い普通科目や商業・工業などの専門科目から主体的に科目を選択し、将来の進路への自覚を深め、自己の特性・適性の発見や適性を生かした専門性を高めることをめざす。
- ◆ 教育課程の特色 普通科目と専門科目を幅広く提供  
 <原則履修科目> 産業社会と人間  
 <系列> (体系性や専門性など関連ある科目によって構成した総合選択科目群)  
 情報デザイン系列      メカトロニクス系列      環境科学系列  
 国際ビジネス系列      生活福祉系列      人文社会系列

(3) 新たな専門高校・専門学科の設置《拡充》

- これからの社会に必要とされる人材の育成や高齢化、国際化、情報化、科学技術の高度化などに柔軟に対応できるように、新たな専門高校の設置拡大

後期実施計画における新たな専門高校

- 総合技術高校 <ねらい> これからの工業分野で総合的な視野をもって活躍する人材の育成  
 <特色> 工業の基礎・基本を共通に学んだうえで機械系・電子系・環境システム系など専門的な系(コース)を選択して学ぶ。
- 総合ビジネス高校 <ねらい> ビジネスに対する望ましい心構えや理念を身につけ、起業家精神に富んだ創造性豊かな人材の育成  
 <特色> ビジネスの基礎・基本を共通に学んだうえで、国際ビジネス・ビジネスマネジメント・情報ビジネスなど専門的な系(コース)を選択して学ぶ。
- 国際情報高校 <ねらい> 国際化・情報化の進展に対応し、国際的な視野を養い、国際人としての教養とコミュニケーション能力、IT社会に対応する情報活用能力を身につけた人材の育成  
 <特色> 国際情報・国際文化・国際コミュニケーションなどの系を設け、主体的な選択による学習を進める。
- 海洋科学高校 <ねらい> 海洋をとりまく産業の多様化に対応し、海洋という新しい視点から教育の充実を図る中で、海洋関連産業で活躍できる人材の育成  
 <特色> 海洋技術、海洋工学、海洋環境、海洋レクリエーション産業など幅広い視点から海洋に関する内容を専門的に学ぶ。

- 集合型専門高校 <ねらい> 多様な学習ニーズや産業のグローバル化、産業区分のボーダレス化に対応し、普通科の教育内容を発展させた分野や横断的な分野の専門的知識・技能を身につけ、これからの社会に活躍する人材の育成

<特色> これまでの専門学科の内容の幅を広げ、国際科、芸術科、スポーツ科学科、理数科、福祉科など複数の学科を設置し、学習ニーズに応じて専門性の高い内容を学ぶ。

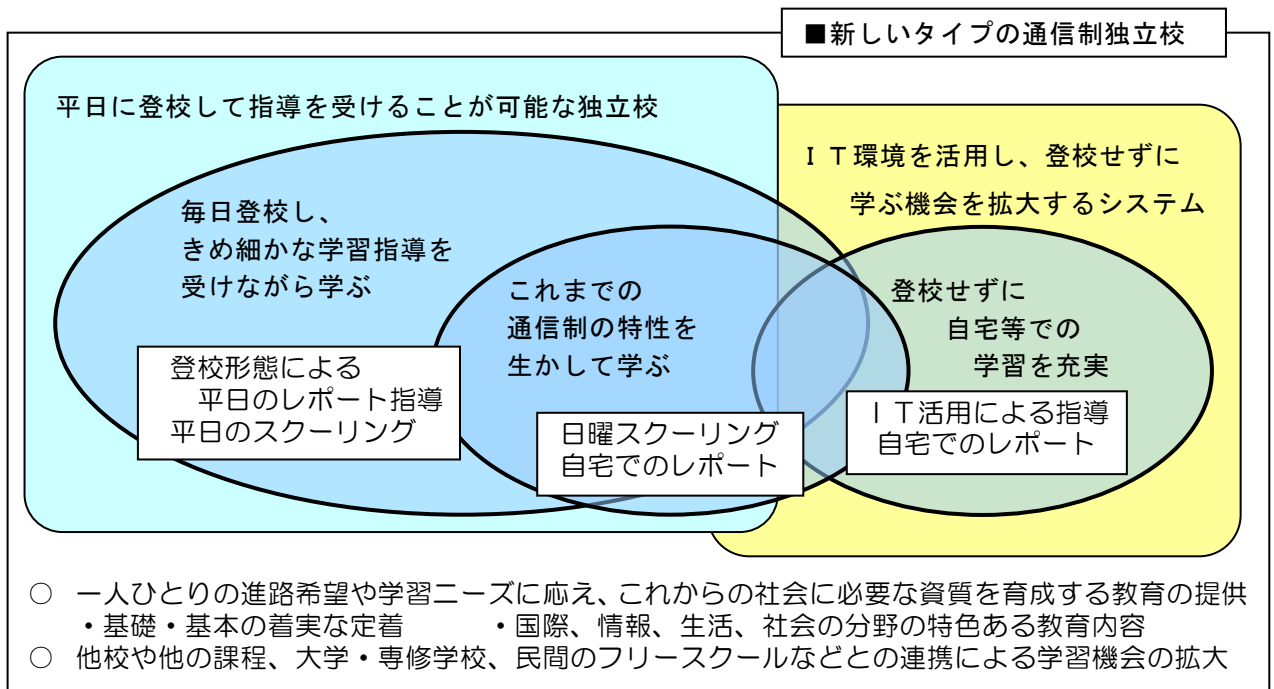
設置例		<国際科・芸術科・スポーツ科学科・理数科の集合型専門高校>			
		国際	芸術	スポーツ科学	理数
学科 専門 科目	総合英語 英語理解 時事英語 英語表現 異文化理解 等	国際社会に対応する外国語の学習とともに異文化理解、日本文化理解の学習を充実	音楽・美術を核にしながら、幅広い創造性・芸術性を身につける学習を充実	個別の種目の技術向上を図るとともに生涯スポーツに関する学習を充実	科学技術の基盤となる理科・数学教育に重点を置き、理数分野の専門内容を充実
	総合 選択	日本文化 地域研究 国際理解 比較文化 第2外国語 等	音楽理論 美術概論 演奏法 環境造形 声楽 素描 等	体育理論 体づくり運動 スポーツマネジメント 等	理数数学 理数物理 理数化学 数学探究 情報と表現 等
		民族音楽 演劇基礎 コンピュータ音楽 等	生理学概論 レクリエーションスポーツ フィットネス 等	科学史 環境概論 マルチメディア表現 情報数理 等	

#### (4) 定時制課程における新しいタイプの高校の拡大《拡充》

- 特色ある定時制課程としての展開を図るため、全日制課程の再編にあわせた改編、定時制単独の改編による単位制による普通科や、総合学科の設置

#### (5) 通信制課程における新しいタイプの高校の設置《新規》

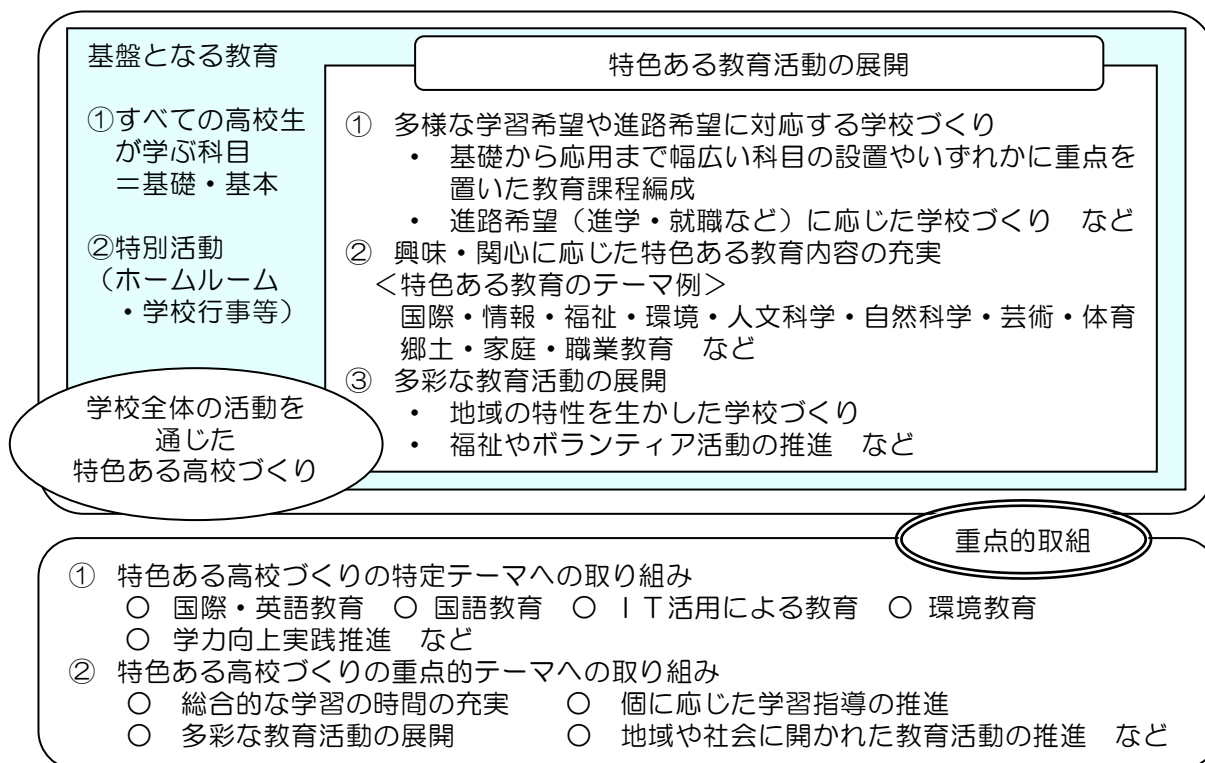
- 再編整備による跡地を活用し、通信制課程を集約することにより、不登校への対応も含め、きめ細かな学習サポートシステムを備えた通信制の独立校を設置
- これまでの通信制課程設置校を協力校としてスクーリングなどの場を拡大



## 2 普通科高校の特色づくりの推進《拡充》

- 一人ひとりの学習希望に応じることができるよう既設専門コースの改善・充実

- 一人ひとりの特性や進路希望、興味・関心に応じた学校づくりをこれまで以上に進めるため、学校全体の活動を通じて特色ある教育活動を展開
- 社会・経済・文化のグローバル化やIT社会の進展、確かな学力育成の必要性などさまざまな状況変化に対応し、国際・英語教育、国語教育、ITを活用した教育、環境教育、福祉教育などについて重点的な取り組みを推進



### 3 専門高校の魅力づくりの推進《拡充》

- スペシャリストとしての専門性を身につけることや、卒業後も継続して学ぶといった多様な希望に応えるための教育内容を充実
- 主体的な職業選択や職業への意識を高めるインターンシップの拡大
- 既設の専門学科について、新タイプの専門高校等の成果を踏まえながら、社会の変化に柔軟に対応できる教育課程をもつ学科に改編する取り組みを推進

### 4 定時制課程・通信制課程の改善《継続》

- 多様な選択科目の設置や単位制の活用などの改善、実務代替など働きながら学ぶ生徒の便宜を図るさまざまな制度の活用を促進
- 定時制課程・通信制課程における新しいタイプの高校の設置

### 5 中高一貫教育校の設置《新規》

中高一貫教育は、6年間というスパンで、多彩で豊かな教育内容の展開を通じて、個性や創造性を伸ばす教育を進めることができるとともに、生徒や保護者の学校選択の幅を広げることができます。

- 後期実施計画では、県立の中等教育学校2校を設置
- 既存の市町村立中学校と県立高校の連携による中高一貫教育についても、市町村教育委員会に引き続き働きかけを実施

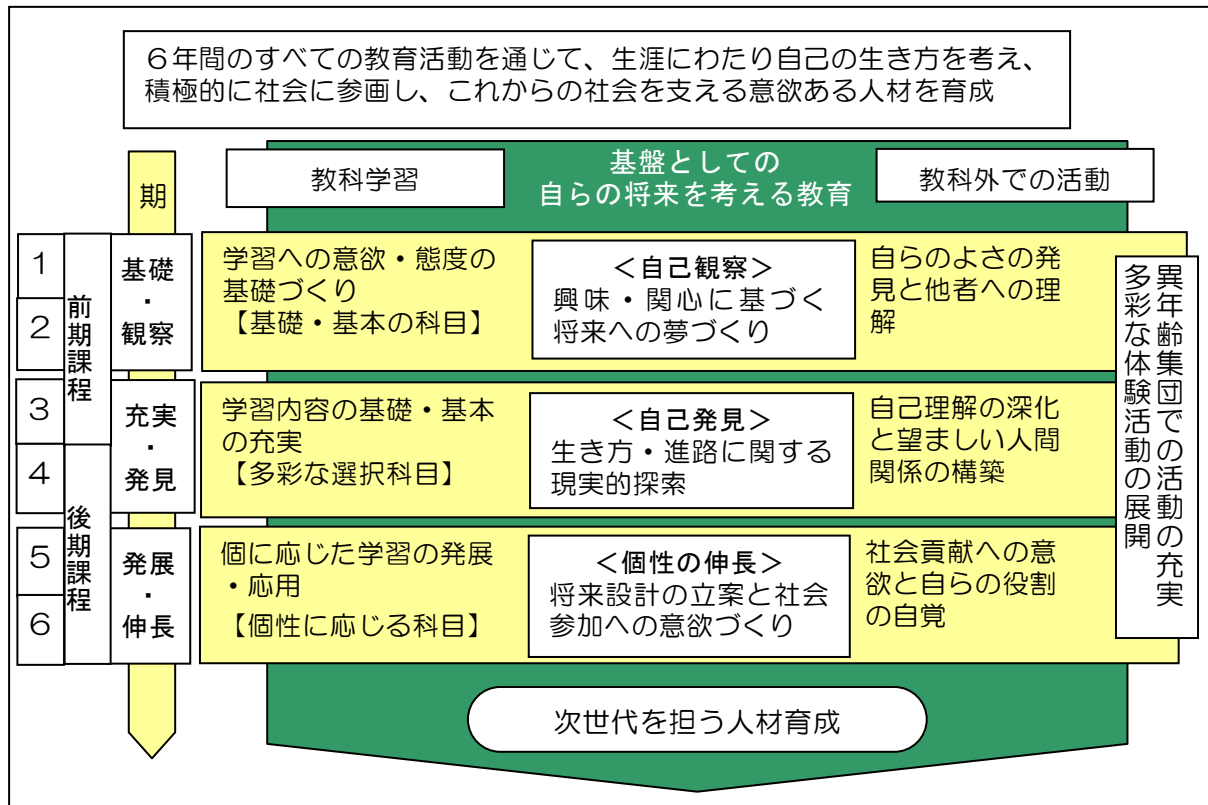


## ■ 神奈川における中等教育学校

### 設置のねらい

- ◆ 6年間というスパンで、多彩で豊かな教育内容の展開を通じて、個性や創造性を伸長
- ◆ 国際社会に対応する幅広い教養と社会性・独創性を備えた次世代を担う人材の育成
- ◆ 異年齢集団での活動などを通じて相手を思いやる心を養い、人間性豊かな人材の育成

### コンセプト



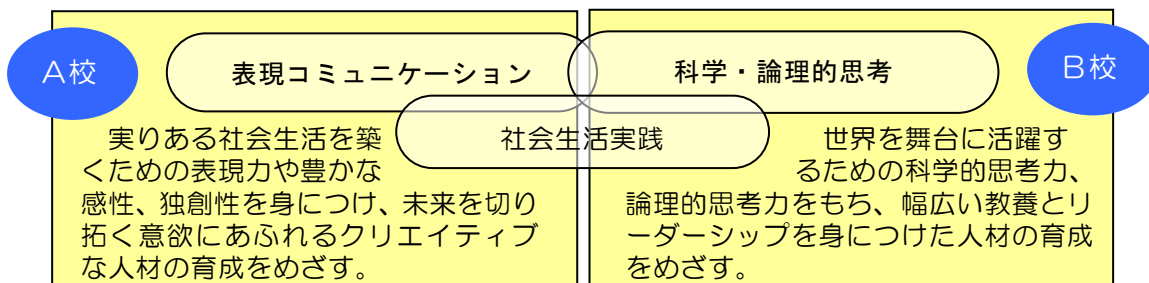
### 教育課程の特色

- 基礎・基本の学習の重視と進学など将来の自己実現のための進路希望に対応した学習
- 神奈川の豊かな国際性や歴史・自然など地域の特性を生かし、これからの社会に必要な分野の学習内容を充実

6年間で継続した必修科目

英語コミュニケーション学習 伝統文化・歴史学習  
地球環境学習 IT活用学習

- 次世代を担う人材に必要とされる資質・能力の観点からの領域別教育課程



### 入学者の決定

- 入学者の決定にあたっては、学力検査は行わず、総合的に選考できるよう工夫する。
- 県内どこからでも志願することができる。

1 個に応じた学習活動の充実《拡充》

- 授業クラス編成の工夫……習熟度別学習展開、少人数学習、チームティーチングなど
- 個人の能力・才能の伸長…科学技術・理数分野、国際・英語分野、総合的な学力伸長など、学力向上のための学習内容の深化・充実
- 学びやすい環境づくり……外国籍生徒や障害のある生徒などに対応する環境整備

2 教育課程の弾力化の推進《拡充》

- 選択中心の教育課程編成……多様な選択科目の設置の充実、自由選択科目の拡大など
- 総合的な学習の時間の充実…教科・科目の枠をこえて、自ら学び、自ら考える力といった「確かな学力」の育成を図るため、各校の特色ある教育内容を生かした展開を充実
- 単位制の積極的な活用……学年制にあっても、単位制を積極的に活用した選択科目の拡大や単位制の趣旨を生かした進級等の認定の弾力化を推進
- 生徒による授業評価の実施…授業の内容や進め方などを評価したり、生徒自身が学習活動を振り返ったりするなど、授業改善や学習活動への意欲を高めるための評価を実施

3 多様な学習機会の拡大《継続》

- 学校間連携・課程間併修……それぞれの高校の特色ある科目を相互に学習することができる学校間連携や定時制と通信制の課程相互などの併修の推進
- 学校外における学習……大学での講座受講など高大連携の一層の充実やボランティア活動、スポーツ活動などの成果の積極的な単位認定の促進

4 柔軟な受け入れ体制の確立《継続》

- 転入学機会の拡大……高校入学後に新たな目的や目標を発見し、進路変更を希望するなどの積極的な理由による転入学の実施
- 中途退学者の受け入れ……再入学の制度の活用促進
- 社会人の受け入れ……高校の一部の科目を履修する「社会人聴講生」の受け入れ拡大、生涯学習講座の拡大

5 中途退学等の課題への対応《継続》

- 不本意入学をなくし、一人ひとりの特性や学習状況などに応じた学習活動の展開やきめ細かな個別の教育相談体制づくりを進めるなど、計画全体にわたる取り組みを総合して対応

- きめ細かな進路指導……主体的な高校選択ができるよう、中高連携による進路指導の充実など
- 新しいタイプの高校の拡大……一人ひとりの学習歴や生活スタイルに応じたり、進路への自覚を深め、学ぶ意欲を高める学習を充実
- 柔軟な学びのシステムの実現…個に応じた学習活動の充実、教育課程の弾力化、進級・卒業認定の弾力化や進路変更による転入学の拡大など
- きめ細かな指導体制の充実……進路決定や学習の進め方などのガイダンスやカウンセリングの充実、ホームルーム担任の複数化など

### 第3章 地域や社会に開かれた高校づくりの推進

#### 1 地域・社会との連携・交流の推進《継続》

- 地域・社会と相互交流を進め、地域・社会と共にあゆむ高校づくりを一層推進

##### 地域・社会との連携による教育活動の展開

- 中学生や保護者、中学校等との連携強化
  - ・教科活動や教科外活動における積極的な交流
  - ・各校の特色広報の充実や体験入学・学校説明会などの実施拡大
  - ・中学校進路指導担当者との連絡協議の場の充実、インターネット広報の拡大など、中高連携による進路指導の充実
- 地域・社会との連携による学校教育活動の展開
  - ・さまざまな教育活動を支援していただく「学校支援ボランティア」の活用を促進するため、学校支援ボランティアバンクの活用により、ボランティア情報を提供
  - ・インターンシップや体験学習、公開講座の受講など、企業や大学等との連携を充実
  - ・社会奉仕・ボランティア活動に積極的に参加する意欲の向上
- 地域住民の学習の支援、地域コミュニティづくりへの協力
  - ・施設開放や高校での公開講座など、地域の学習活動への支援
  - ・生涯学習講座の拡充や社会人聴講生の受け入れ促進
  - ・施設の有効な活用を図るため、学習活動等をととした住民の交流の場、防災や福祉など、多目的な活用

#### 2 地域の意見を反映した学校づくり《継続》

- 各学校が地域に親しまれ、地域の方々の学校に対する理解がより深まるよう、学校からの積極的な情報発信に取り組み、地域の意見を反映した学校づくりを推進

- 積極的な地域への情報発信・学校のオープン化
  - ・学校説明会などの実施、学校見学の機会拡大などの促進、広報活動の充実
- 地域の意見の反映
  - ・学校評議員……………学校の教育目標や教育活動、教育環境などについて、意見や助言をいただく学校評議員を活用し、地域の意見を反映した学校づくりを推進
  - ・学校評価システム……………学校運営の改善を図るため、教育活動等についての学校目標の達成状況を学校評議員や保護者などの意見をいただきながら学校自ら評価し、次年度の教育活動等に生かしていく学校評価システムを活用し、地域の意見を反映した学校運営を推進

## 第4章 県立高校の規模及び配置の適正化の推進

### 1 全日制課程の規模及び配置の適正化

#### (1) 生徒数の動向を踏まえた適正規模の確保

- 県内の公立中学校卒業生数の動向をもとに、今後の県立高校生徒の受け入れを考えると必要

#### 県内の公立中学校卒業生数の動向

- ・ 昭和63年3月の122,167人をピークに減少し、平成16年3月は67,958人
- ・ 最も少なくなると見込まれる平成18年3月には63,500人程度と推計
- ・ 平成18年以降は、ゆるやかな増加傾向で、70,000人程度で推移の見込み

- 生徒数の減少にともなう学校の小規模化が進んでおり、平成元年度に10.0学級であった第1学年の平均学級数は、平成16年度には、6.4学級に減少

#### 学校の小規模化がもたらす影響

- ・ 教員配置数の減少により、高校教育に求められる多様な教科・科目の展開が困難となる
- ・ 生徒数が少なく、学校行事や生徒間の交流などの面で、活気がとぼしくなる
- ・ 部活動では、部員や顧問が不足し、活力ある活動ができなくなる
- ・ 教員一人あたりの校務分掌が多くなり、学校運営に支障を生じることがある

- 高校としての良好な教育条件を確保し、各学校が活力ある教育活動を円滑に展開するためには、一定の学校規模の確保が必要であり、前期実施計画に引き続き、県立高校の再編統合を実施

#### (2) 特色を生かした高校の適正配置

- 生徒の学習希望や通学条件等に配慮し、普通科、総合学科、専門学科など各学科の適正な配置
- 生徒のさまざまな学習希望や進路希望に対応し、より多様な教育を提供するため、新しいタイプの高校を県内にバランスよく配置

### 2 全日制課程の再編整備の基本的な考え方

#### (1) 学校数適正化の基礎条件

- 今後の生徒数の動向を踏まえるとともに、次のような基礎条件に基づいて計画を策定し、再編整備を推進

- 【計画進学率】<sup>(注1)</sup> 過去の動向を踏まえ、94%で見込みます。
- 【公立高校受入率】<sup>(注2)</sup> 今後の生徒数の動向やこれまでの公私立高校の受入率の実績等を踏まえ、公立高校65%で見込みます。
- 【適正な学校規模】 学校全体の生徒数を確保する観点から、学校全体で18学級から24学級（1学年6～8学級）、生徒数では720人から960人（算定基礎は1学級40人）を標準とします。

毎年の計画進学率については、全日制高校への進学希望者等を考慮して設定していきます。また、公私立高校の受入率については、今後も公立高校と私立高校との協議によって、生徒数の減少や進学実績に応じた調整を図っていきます。

(注1) 計画進学率：県内の公立中学校卒業予定者が、全日制高校に進学する率をあらかじめ見込んだもの

(注2) 公立高校受入率：県内の公立中学校を卒業し、全日制高校に進学する者のうち、県内の公立高校で受け入れる者の比率（計画ベース）



## (2) 学校数の適正化

- 各学校の適正な規模を確保していくために、県立高校の再編統合を実施
- 再編統合の実施にあたっては、これまでの各学校の取り組みを生かしながら、教育内容や施設面の課題を改善し、より特色が明確となるよう、適切な学校を選定
- 各学校の立地条件や周辺環境、通学の便、校舎・敷地の状況、歴史や特色づくりなどの共通性、跡地の活用の可能性なども十分に考慮し、総合的な観点から選定

## (3) 新しいタイプの高校等の設置

- 後期実施計画においても、新しいタイプの高校等を県内にバランスよく配置するため、再編統合や単独改編により、新しいタイプの高校等を拡大

### 《全日制課程》

新しいタイプの高校等の種類		設置の考え方	前期計画	後期計画	合計
普通科高校	単位制による普通科高校	より多くの生徒が学べるよう、通学可能な範囲に設置	3校	4校	7校
	フレキシブルスクール	全県的なバランスに配慮して設置	3校	—	3校
	専門コース設置校	コースの内容や地域バランスに配慮して設置	3校	—	3校
総合学科高校		より多くの生徒が学べるよう、通学しやすい範囲に設置	6校	5校	11校
専門高校	総合技術分野の高校	学科の内容や地域の特性、交通の利便性等に配慮して設置	2校	1校	3校
	総合ビジネス分野の高校		—	1校	1校
	総合産業分野の高校		1校	—	1校
	国際情報分野の高校		—	1校	1校
	海洋科学分野の高校		—	1校	1校
	集合型の専門高校		—	2校	2校
福祉に関する学科			1校	—	1校

### 《中高一貫教育校》

中等教育学校	全県的なバランスに配慮して設置	—	2校	2校
--------	-----------------	---	----	----

計	19校	17校*	36校
---	-----	------	-----

\* 通信制課程の新タイプ校（後掲）を含めると、後期実施計画での新しいタイプの高校等の校数は18校となります。

## 3 定時制課程・通信制課程の適正配置

### (1) 現状

- 定時制課程 生徒数は、平成10年度の3,185人まで減少、その後増加し、平成16年度には、3,857人
- 通信制課程 平成16年度には、6,411人が在籍

### (2) 定時制課程・通信制課程の適正配置

- 定時制課程に学ぶ生徒の増加傾向も踏まえ、多様で柔軟な教育の展開を図るため、新しいタイプの高校の設置を拡大
- 通信制課程に学ぶ生徒の多様な学習ニーズや生活スタイルに応じる通信教育の充実

### (3) 新しいタイプの高校の設置

《定時制課程》\*定時制課程の新しいタイプの高校については、全日制課程との併置校

新しいタイプの高校の種類		設置の考え方	前期計画	後期計画	合計
普通科高校	単位制による普通科高校	全日制課程の再編に併せた改編を含め全県的なバランスに配慮して設置	1校	1校	2校
	フレキシブルスクール	全県的なバランスに配慮して設置	2校	—	2校
総合学科高校		全日制課程の再編に併せた改編を含め全県的なバランスに配慮して設置	1校	4校	5校
計			4校	5校	9校

《通信制課程》

普通科高校	フレキシブルスクール	全県的なバランスに配慮して設置	1校	—	1校
	通信制新タイプ校	通信制独立校として設置	—	1校	1校
計			1校	1校	2校

#### 4 県立高校の適正配置

- 後期実施計画では、11組（22校）の高校で再編統合を実施し、前期実施計画での14組（28校）と合わせ、計画全体では25組（50校）の高校で再編統合を実施
- 通信制課程の独立校を1校設置するとともに、県立高校2校をそれぞれ単独改編して、中高一貫教育校（中等教育学校）を2校設置
- 全体計画策定時の平成11年度に166校あった県立高校は、後期実施計画終了後には、再編統合等により、県立高校140校と中高一貫教育校（中等教育学校）2校を合わせて、142校

【県立高校の学校数】

	平成11年度 学校数	前期計画	平成17年度 学校数	後期計画	平成22年度 学校数
普通科高校	143校 <sup>*1</sup>	▲17校	126校	▲19校	107校
普通科高校	122校	▲24校	98校	▲16校	82校
単位制による普通科高校	1校	+3校	4校	+4校	8校
フレキシブルスクール		+3校	3校		3校
専門コース設置校	20校	+1校 +2校 <sup>*2</sup> ▲1校	21校	▲7校	14校
総合学科高校	1校	+6校	7校	+5校	12校
専門高校	22校	▲3校 +3校 ▲6校	19校	+1校 +6校 ▲5校	20校
通信制新タイプ校				+1校	1校
中高一貫教育校（中等教育学校）				+2校	2校
合計	166校	▲14校	152校	▲10校 +1校 ▲11校	142校

\*1 学校数を算出するため、普通科と専門学科を併置する学校は普通科として算出する。

\*2 このほかに従来のコースに加え、新たなコースを設置する学校が1校ある。

## 5 県立高校の再編整備

### 【 後期再編整備計画 】

#### (1) 全日制課程

No.	設置場所 (地域)	再編整備内容	開校年度	再編整備対象校	備考
1	横浜市泉区 〔横浜西部 横浜中部〕	総合学科高校	平成 20 年度	岡津高校 和泉高校	平成 18 年度から 移行期間
2	横浜市 保土ヶ谷区 〔横浜西部 横浜中部〕	総合学科高校	平成 22 年度	商工高校	商工高校単独で 改編
3	横浜市栄区 〔横浜南部 横浜臨海〕	単位制による 普通科高校	平成 21 年度	上郷高校 港南台高校	平成 19 年度から 移行期間
4	横浜市南区 〔横浜南部 横浜臨海〕	国際情報高校	平成 20 年度	六ツ川高校 外語短期大学 付属高校	平成 18 年度から 移行期間（六ツ川 高校は、情報科学 コースのみ募集）
5	川崎市中原区 (川崎)	総合技術高校	平成 22 年度	川崎工業高校	川崎工業高校単独 で改編
6	横須賀市 (横須賀三浦)	集合型専門高校 (国際・福祉)	平成 20 年度	久里浜高校 岩戸高校	平成 18 年度から 移行期間
7	横須賀市 (横須賀三浦)	海洋科学高校	平成 20 年度	三崎水産高校	三崎水産高校単独 で改編
8	藤沢市 〔鎌倉藤沢 茅ヶ崎〕	単位制による 普通科高校	平成 22 年度	大清水高校 藤沢高校	平成 20 年度から 移行期間
9	平塚市 〔平塚 秦野伊勢原〕	単位制による 普通科高校	平成 21 年度	神田高校 五領ヶ台高校	平成 19 年度から 移行期間
10	秦野市 〔平塚 秦野伊勢原〕	総合学科高校	平成 20 年度	秦野南が丘高校 大秦野高校	平成 18 年度から 移行期間
11	開成町 (県西)	総合学科高校	平成 22 年度	吉田島農林高校	吉田島農林高校単 独で改編
12	小田原市 (県西)	総合ビジネス高校	平成 20 年度	小田原城東高校 湯河原高校	平成 18 年度から 移行期間（湯河原 高校は平成 18 年 度から募集停止）
13	座間市 〔厚木海老名愛甲 大和座間綾瀬〕	総合学科高校	平成 21 年度	栗原高校 ひばりが丘高校	平成 19 年度から 移行期間
14	相模原市 〔相模原 津久井〕	単位制による 普通科高校	平成 22 年度	相武台高校 新磯高校	平成 20 年度から 移行期間
15	相模原市 〔相模原 津久井〕	集合型専門高校 (国際・スポーツ 科学・芸術・理数)	平成 20 年度	弥栄東高校 弥栄西高校	平成 18 年度から 移行期間

(2) 定時制課程

No.	設置場所 (地域)	再編整備内容	開校年度	再編整備対象校	備考
1	横浜市磯子区 〔横浜南部 横浜臨海〕	総合学科	平成 19 年度	磯子工業高校	定時制課程を単 独で改編
2	川崎市多摩区 (川崎)	総合学科	平成 19 年度	向の岡工業高校	定時制課程を単 独で改編
3	藤沢市 〔鎌倉藤沢 茅ヶ崎〕	単位制による 普通科	平成 21 年度	湘南高校	定時制課程を単 独で改編
4	平塚市 〔平塚 秦野伊勢原〕	総合学科	平成 19 年度	平塚商業高校	定時制課程を単 独で改編
5	秦野市 〔平塚 秦野伊勢原〕	総合学科	平成 20 年度	秦野南が丘高校 大秦野高校	平成 20 年度から 大秦野高校の在籍 生徒は新校に移籍

(3) 通信制課程

No.	設置場所 (地域)	再編整備内容	開校年度	再編整備対象校	備考
1	横浜市泉区 〔横浜西部 横浜中部〕	単位制による 普通科	平成 20 年度	新設 (和泉高校敷地)	湘南高校、横浜平 沼高校の通信制の 課程を集約

(4) 中高一貫教育校

No.	設置場所 (地域)	再編整備内容	開校年度	再編整備対象校	備考
1	平塚市 〔平塚 秦野伊勢原〕	中等教育学校	平成 21 年度	大原高校	平成 21 年度から 平成 23 年度まで は、後期課程への 入学者も募集
2	相模原市 〔相模原 津久井〕	中等教育学校	平成 21 年度	相模大野高校	

- \* 再編整備対象校の欄に学校名が2校記載してある学校は、再編統合を実施する。  
統合前の移行期間には、教育活動を中心に緊密な連携を図ることとする。
- \* 再編整備対象校の欄の上段に記載した学校の敷地・校舎を活用し、新校を設置する予定。  
(弥栄東・弥栄西高校については、両校の敷地・校舎を活用する。また、通信制の課程の新しい  
タイプの高校は、和泉高校の敷地・校舎を活用する。)



### 1 教職員の意識改革と資質向上、計画的配置

- 基本研修・専門研修・今日的教育課題に対応する研修など体系的に研修を実施
- 民間企業等への派遣体験研修、ボランティア体験を含む社会体験研修、教育相談やコーディネーター養成研修など、社会性や専門性を高める各種研修をより一層充実
- 教員自らが授業の改善について工夫していくことができるよう生徒による授業評価を導入し、授業の質を高める取り組みを推進
- 教職員のやる気と能力を引き出す観点から、今後、教職員からの職員提案制度の導入についても検討
- 教職員の人事評価システムの制度を運用する中で、学校管理職による授業観察等に基づく指導・助言により、教職員の能力向上を図るとともに、教職員のモラールアップや資質向上につなげるよう、評価結果を蓄積して人事・給与上の処遇に活用
- 再編整備を円滑に実施することができるよう、計画的に教職員を配置

### 2 学校運営の活性化

- 校長がリーダーシップを発揮するとともに、教職員の協力体制を確立し、改革に主体的に取り組むことができるよう、学校運営のあり方を改善
- 学校予算については、校長の考えを反映した予算編成に努めるとともに、人事配置等の面においても校長の権限の拡大を検討
- 教育活動が円滑かつ効果的に実施できるよう、従来の校務分掌・各種委員会の見直しや校長・教頭を補佐する職のあり方を検討
- 校長の各校あたりの在任期間の長期化、若手管理職の登用や教頭の複数配置を拡大
- 個性や特色ある教育活動を展開していくため、優れた人材を確保するという観点から、民間企業などさまざまな分野から校長を登用

### 1 学校施設設備整備の充実

- 県立高校の再編整備にあたっては、新しいタイプの高校等の設置や特色づくりの推進などにもなって、必要な施設設備の整備を行うとともに、老朽化した校舎の改修や耐震診断に基づく補強工事などの安全対策も併せて実施

### 2 市立高校・県内私立高校との連携

- 県立高校の再編整備を進めるにあたって、市立高校の再編整備計画や、県内私立高校への進学者数の動向などとの関連に配慮するための関係機関との連携・調整

### 3 県立高校改革のPR活動の推進

- 県立高校改革の内容や進行状況について、十分にご理解いただくとともに、中学生が新しい県立高校の姿をよく知って高校選択ができるよう、インターネットの活用やリーフレットの配布などきめ細かな広報に努め、県立高校改革のPR活動を展開

おわりに

県立高校改革推進計画は、生徒数の減少と生徒の多様化が進む中で、①多様で柔軟な高校教育の展開、②地域や社会に開かれた高校づくり、③活力ある教育活動を展開するための規模及び配置の適正化の三つを基本方向として、平成12年度を初年度として概ね10年間の計画として、活力と魅力のある県立高校の実現を目指した高校改革を推進しています。

この後期実施計画は、計画の基本的な考え方は継承しながら、今後の生徒数の動向や前期実施計画の成果の検証、さらには社会状況の変化などを踏まえ、策定したのですが、県教育委員会としましては、後期実施計画に位置づけた内容を着実に推進し、県立高校への進学を目指す生徒、その保護者の皆様の期待に応える高校づくりに努めてまいります。

一方、教育をめぐる環境は絶えず変化しており、高校教育に対するニーズも更なる多様化が見込まれます。このため、県立高校改革は、この後期実施計画をもって終了するものではなく、その成果の検証はもとより、今後の更なる社会状況の変化やニーズの多様化に応じて、不断の高校改革を続けていくことが必要と考えています。

今後とも、県立高校改革に対する県民の皆様のご理解とご協力をお願いします。



教育庁管理部総務室

横浜市中区日本大通33 〒231-8509電話 (045) 210-1111 (代表)

平成13年10月

## 新校設置計画

横浜中部方面フレキシブルスクール

汲沢高校・豊田高校

神奈川県教育委員会



## 1 再編対象・設置場所・設置年度

- (1) 再編対象校 汲沢高等学校及び豊田高等学校
- (2) 設置場所 汲沢高等学校敷地（横浜市戸塚区汲沢町973番地）
- (3) 設置年度 平成15年度

## 2 設置の目的

- 単位制の特性を生かし、一人ひとりの生活スタイルに応じることができる柔軟な学びのシステムを持つ新たなタイプの高校として設置する。
- 自己の適性に応じて得意科目の伸長を図ることや特性に応じて自己のペースで基礎的な学習や発展的な学習を充実することなどに対応するため、多様な科目を設置し、自らの個性の伸長を図りつつ、自己の可能性を開拓していくための教育を行う。
- 学校間連携による他校生の一部科目履修、生涯学習講座による社会人の一部科目履修に対応する学習センターとしての機能をあわせて提供する。

## 3 基本的コンセプト

- 弾力的な履修形態による教育の提供  
各自の生活スタイルに応じた時間割編成が可能となるよう、幅広い時間帯による授業展開を図り、午前や午後といった各自が学習の中心とする時間帯の選択を可能にし、多様な学習ニーズや学習ペースに応じた学習ができる弾力的な教育課程を提供する。
- 特色ある教育活動の展開  
教育の情報化を推進するなかで、自ら課題を解決し、表現する能力を高める。また、自己の生き方を探求する活動を支援するため、体験的な学習内容を重視した情報分野、環境分野、福祉分野などの科目を設置するとともに、基礎的な科目も含めて多様な学習内容を提供し、生徒の興味・関心などに応じた特色ある教育活動を展開する。
- 特別活動の活性化・ガイダンス機能の充実  
単位制の特性を生かし、異年齢集団による活動を展開するなどの工夫を行うとともに、特色ある学校行事の活性化を図る。また、個別の学習や生活面・進路指導におけるガイダンス機能を充実する。
- 柔軟な受け入れの推進  
学校間連携による他校生の受け入れ、中途退学者や進路変更による転学の積極的な受け入れを図る。また、生涯学習講座の設置により、社会人に対して、幅広く学習の機会を設ける。

#### 4 設置形態

- (1) 課程 単位制による全日制の課程
- (2) 学科 普通科
- (3) 学校規模 全日制の課程 720名(18学級規模)
- (4) 修業年限 3年(他校での在籍期間を加えることができる)  
在学年限は原則として6年
- (5) 学期 2学期制
- (6) 履修形態 1日8時間の幅で設定された授業時間帯から、各自の進路希望や  
特性、興味・関心に基づく科目を選択  
学校間連携の推進による設定科目を選択  
社会人とともに学ぶ生涯学習講座として設置された科目を選択
- (7) 授業展開 90分4限を基本とし、必要に応じて弾力的な授業時間を設定  
生涯学習講座については、週2日から3日の昼間又は夜間とし、  
90分1限程度の展開を設定

#### <日課表> (予定)

1 校 時	8 : 4 5 ~ 1 0 : 1 5
2 校 時	1 0 : 3 0 ~ 1 2 : 0 0
昼 休 み	1 2 : 0 0 ~ 1 3 : 0 0
3 校 時	1 3 : 0 0 ~ 1 4 : 3 0
4 校 時	1 4 : 4 5 ~ 1 6 : 1 5

#### 5 入学者選抜

- (1) 募集の区分 一般募集(中学校卒業見込み者及び中学校既卒業者)  
中途退学者募集(高等学校における修得単位を有する者)
- (2) 選抜の区分 推薦入学  
学力検査等に基づく選抜

(3) 選考の方法

<推薦入学>

調査書、中学校の校長の推薦書、面接の結果を資料として総合的に選考する。

<学力検査等に基づく選抜>

事前に公表した「選考に当たって重視する内容」に基づいて調査書及び学力検査の結果を活用して総合的に選考する。

なお、面接及び実技検査を実施する場合は、その結果も選考の資料とする。

(4) 通学区域

すべての募集区分について、全県を通学区域とする。

## 6 教育課程

(1) 基本的方針

ア 高等学校在籍3年以上で、必修科目を履修し、高等学校学習指導要領に定められた卒業に要する単位（74単位以上）を修得することで卒業とする。

以前に在籍した高等学校の修得単位を卒業に必要な単位として認定する。

イ 幅広い授業時間帯を設け、各自の計画に基づく履修を可能にする。

ウ 各自の生活、進路に即した学習や体験的、実践的な学習を含め、教科横断的な分野による学習のまとまりとしての系を設置する。

また、生徒の進路希望に応じた多様な選択科目を設置する。

エ 学期の区分ごとの分割履修や校外での学習機会の提供など教育課程の弾力化を推進する。

オ 進路変更などの理由による転入学や再入学制度の活用による中途退学者の積極的な受け入れを推進する。

カ 生涯学習講座の設置による講座受講生の受け入れや学校間連携による一部科目の履修を行う他校生の積極的な受け入れを推進する。

(2) 特色ある教育展開の方針

教育の情報化の推進と自己の生き方を探求する活動の展開

○ すべての科目にわたり、自ら課題を解決し、表現する能力の育成をめざし、情報機器やインターネットを活用した教育を展開する。

○ 一人ひとりのあり方生き方を考えるためのライフプラン作成への支援を図るという観点から、情報、環境、福祉、健康、国際の分野の教育内容や教養的分野の教育内容を提供する。

(3) 編成方針

ア 科目等の構成

○ 必修科目、選択科目（系の科目及び自由選択科目）で構成する。

○ 単位制による多彩な教育の提供など、特色ある教育活動の展開を踏まえた総合的な学習の時間を設定する。

○ 社会人とともに学ぶ生涯学習講座を設置する。

#### イ 多様な選択科目の設置

○ 単位制の特性を生かし、一人ひとりの興味・関心と意欲を生かした個性的な教育を展開するため、多様な選択科目を設置する。

○ 選択科目は、生徒の科目選択の参考となるよう、特色ある分野の科目をまとめて学習のまとまり（系）として設定する「系の科目」と「自由選択科目」として設置する。

#### <設置科目等>

必 履 修 科 目

高等学校学習指導要領に示されている必修科目

選 択 科 目

系 の 科 目

特色ある分野の多様な選択科目

自 由 選 択 科 目

普通教科に関する標準的な科目及び生徒の特性に応じた科目

総合的な学習の時間

各自のテーマに基づいた「課題研究」やライフプランを作成する活動、体験学習の機会を設定

生 涯 学 習 講 座

生徒の受講も可とし、単位認定が可能な科目を設定

#### ウ 教育課程の弾力化

○ 2学期制による学期ごとの分割履修と修得単位の認定を行う。

○ 大学や専修学校などと連携して行う学習活動の成果による単位認定を行う。

○ 実用英語検定やワープロ検定など、技能審査の成果による単位認定を行う。

○ ボランティア活動、スポーツ・文化活動といった計画に基づいた体験活動など、学校外での学習成果による単位認定を行う。

○ 集中講座など、柔軟な履修形態による学習活動を展開する。



## (4) 教育課程表 (予定)

(○囲みの数字は単位数)

必修科目	選択科目	
	系の科目	自由選択科目
国語表現Ⅰ② 国語総合④	情報 ネットワーク	国語表現Ⅱ② 国語一般② 現代文④ 実践現代文② 古典④ 古典講読②
世界史A② 世界史B④ 日本史A② 日本史B④ 地理A② 地理B④		世界史特論② テーマ学習地理②
現代社会② 倫理② 政治・経済②		数学Ⅱ④ 数学Ⅲ④ 数学A② 数学B② 数学C② 高校数学入門② 微積分学入門②
数学基礎② 数学Ⅰ④	環境 サイエンス	物理Ⅱ③ 化学Ⅱ③ 生物Ⅱ③ 地学Ⅱ③ 応用物理② 応用化学② 応用生物②
理科基礎② 理科総合A② 理科総合B② 物理Ⅰ④ 化学Ⅰ④ 生物Ⅰ④ 地学Ⅰ④		
体育③ 保健②	福祉 サポート	生涯スポーツ② トレーニングアウトドアスポーツ②
音楽Ⅰ② 美術Ⅰ② 工芸Ⅰ② 書道Ⅰ②		音楽Ⅱ② 音楽Ⅲ② 美術Ⅱ② 美術Ⅲ② 工芸Ⅱ② 工芸Ⅲ② 書道Ⅱ② 書道Ⅲ②
オーラル・コミュニケーションⅠ② 英語Ⅰ④	健康 フィットネス	デザイン② 油絵② 木工② 音楽理論② ヴァルジェ② 声楽② 幼児教育音楽② 篆刻② 硬筆② 実用の書②
家庭基礎② 家庭総合④ 生活技術④		オーラル・コミュニケーションⅡ④ 英語Ⅱ④ リーディング④ 基礎からの英語② ライティング④ ラビットリーディング②
情報A② 情報B② 情報C②	国際 コミュニケーション	情報実習②
	教養 アーツ	日本文化探求② 横浜学② 演劇体験② ディベート② 映像メディア表現② 陶芸入門② ブーム・流行史②
		校外講座 技能審査 ボランティア講座 就業体験活動 スポーツ・文化活動
総合的な学習の時間 ③ 課題研究 (各年度のテーマ別研究)、ライフプランの作成等		

\* 必修科目は、学習指導要領に示された選択履修条件を満たすように履修

\* 年間最大履修単位数は原則として30単位以内

## <特色ある教育内容を提供するための系と主な科目>

### 情報ネットワーク系

生活に密着した基礎的な情報活用、情報ネットワーク、ワープロや表計算などのビジネスアプリケーション、マルチメディアの分野にわたる学習を通じて、これからの社会に必要な資質としての情報活用能力を育てる。

**パソコンライフ** … 日常生活にパソコンを生かすため、パソコンの基本的な使い方を習得し、インターネットを利用した情報収集、画像の処理などについて実習を通じて学ぶ。

**マルチメディアの活用論** … さまざまなソフトを融合して活用することやインターネットでの情報発信をめざした情報の収集・加工・編集を学ぶ。

**デジタルアーツ** … パソコンを用いた画像処理、描画、デザインや作曲、音づくりなど、デジタル表現の基礎を学ぶ。

### 環境サイエンス系

身のまわりの環境から、地球規模にわたる環境に関することまで、さまざまな環境について、野外調査や観察・体験学習などを通じて、科学的な視点に基づいて総合的・横断的に学び、環境に関する知識の習得や環境課題に対応する資質を育てる。

**環境科学** … 自然環境の構成要素としての大気・水・土壌について学び、あわせて、自然環境と人間社会とのかかわりを学ぶ。

**エコライフ** … ごみ処理の問題を考えることや食品添加物の調査など、環境にやさしい生活を送るための知識・技能を身につける。

**園芸** … 土壌づくり、草花・野菜栽培などの野外の実習体験を通じて、園芸全般にわたる知識・技能を身につける。

### 福祉サポート系

福祉に関する基礎的・基本的な知識や技能について学び、福祉社会のあり方についての理解を深めるとともに、福祉施設との交流や体験学習を通じて、ボランティアマインドやこれからの福祉社会に生きる実践的な能力を育てる。

**福祉基礎** … 福祉に関する基礎的な実習をとおして、福祉に関する知識・技能を身につける。

**福祉援助技術** … 点字・手話の基礎的な知識・技術を学び、福祉施設などでの実習を通じて視聴覚障害者などへの理解を深め、援助技術を高める。

**救急法講座** … 基本的な救急法に関する知識を習得し、応急手当や緊急時の対応方法などについて学ぶ。

### 健康フィットネス系

食、心、体の健康をテーマとして、健康についての幅広い知識の習得を図り、各種のトレーニングなどの体験学習を通じて、現代社会に求められる健康づくりに関する実践的な能力を育てる。

**フィットネス** … ウォーキング、ジョギング、エアロビクス、各種トレーニングによる健康の維持・増進に関する理論と実践方法を学ぶ。

**コミュニケーション  
トレーニング** … 自分自身との対話やよりよい対人関係を築くための体験学習を通じて、心の健康を維持・増進するとともに、集団の中での人間関係について学ぶ。

**フードデザイン** … 栄養・献立・調理・テーブルコーディネートなど、食を総合的にデザインする知識・技術を学ぶ。

### 国際コミュニケーション系

異なる文化・言語・社会について学ぶことを通じて、国際社会に対する理解を深めるとともに、体験学習を通じて、コミュニケーション能力の向上を図り、自ら考え行動する国際人としての基本的な資質や能力を育てる。

**海外事情** … 映像、新聞、雑誌、インターネットなどの利用や外国の人々との交流を通じて、外国の生活、習慣、地理、歴史などについて幅広く学習する。

**中国語入門** … 中国語の基本的な語彙・語法・慣用表現を学び、初歩的な日常会話の修得をめざすとともに、現代の中国事情について学ぶ。

**コンピュータ・LL演習** … コンピュータやLISなどを利用することにより、理解力や表現力を高めながら、英語の総合的な運用能力を身につける。

### 教養アーツ系

文化・教養・芸術など幅広い分野にわたる多様な学習テーマを設け、探求（リサーチ）、表現（プレゼンテーション）、創作（クリエイション）などの活動を通じて、自ら学ぶ態度を育てるとともに、学習成果を創造的に表現する能力を育てる。

**日本文化探求** … 日本の文化的題材を取り上げ、その歴史や文化的意義をさぐり、日本文化全体への理解を深める。

**演劇体験** … 演劇や朗読などをとおして、自己を表現することの意味、さまざまな自己表現のあり方を学ぶ。

**ブーム・流行史** … ブーム・流行について、テーマを設けて、その変化の意味を探究し、主体的なものの見方を学ぶ。

#### (5) 学習指導の工夫

- 個別の学習を重視し、小集団学習やゼミナール形式の学習を充実させるとともに、各自の学習内容に基づいたきめ細かな指導ができるよう配慮する。
- 幅広い教科・科目において情報機器やインターネット、教育用デジタルコンテンツ（コンピュータで利用する学習素材）などの活用による学習指導を充実する。
- 総合的な学習の時間においては、一人ひとりのあり方生き方を考えるためのライフプランの作成を支援するとともに、各自のテーマに基づいた課題研究や体験学習などを通じて、課題解決力育成の目標を達成できるよう指導する。

#### (6) 生徒指導等の工夫

- 学校生活全般にわたり、希望に応じて、生徒一人ひとりが教員を選び、個別に相談や支援を受けることができるチューター制を実施する。
- さまざまな個性を相互に尊重し、自己の確立をめざすため、異年齢集団による特別活動を行うことや、テーマ選択別の特別活動を組織するなどの工夫を行う。
- 一人ひとりの生徒の学習計画や生活面での指導にあたるため、個別の科目選択指導や進路指導をきめ細かく行うとともに、カウンセリングなどの相談体制を充実する。

#### (7) 授業展開の工夫

- 一人ひとりの生活スタイルに応じて学習することや特色ある教育内容を集中して学ぶことが可能となるよう、授業時間帯を午前・午後といった複数のゾーンに区分し、それぞれのゾーンにおいて、基本的科目、特色科目の履修が可能となるよう配慮する。



<履修例>

Aさんの場合：英語や国際系の科目を集中して学習。卒業後は進学して専門分野をさらに深めたい。

将来の国際分野での仕事につながる国際コミュニケーション系の科目を選択し、さらに実践的な英語の力を伸ばすため、専門学校での校外学習も。

1年次

	月	火	水	木	金
1	保健／体育	数学Ⅰ	情報A		数学Ⅰ
2	海外事情	オーラルⅠ	総合学習 LHR	体育	家庭基礎
3	英語Ⅰ	世界史A	英語Ⅰ	国語総合	国語総合
4				理科総合A	

2年次

	月	火	水	木	金
1	ライティング	オーラルⅡ	音楽Ⅰ	英語Ⅱ	コンピュータ・LL演習
2	英語Ⅱ	日本史A	総合学習 LHR	保健／体育	ライティング
3	体育	現代文		現代文	理科総合B
4			オーラルⅡ		

3年次

	月	火	水	木	金
1		体育	中国語入門	ライティング	専門学校で校外学習
2	ライティング	日本文化紹介	総合学習 LHR	現代社会	
3	スペイン語入門	国際ビジネス			
4					

科 目	必履修科目										自由選択科目					系の科目					校外講座	総合的な学習の時間	単位数合計				
	国語総合	現代社会	世界史A	日本史A	数学Ⅰ	理科総合A	理科総合B	体育	保健	音楽Ⅰ	オーラルⅠ	英語Ⅰ	家庭基礎	情報A	現代文	オーラルⅡ	英語Ⅱ	ライティング	ライティング	コンピュータ・LL演習				海外事情	中国語入門	日本文化紹介	国際ビジネス
	④	②	②	②	④	②	②	⑧	②	②	②	④	②	④	④	④	④	④	②	②	②	②	②	②	③	②	77

Bさんの場合：理数分野を中心に、応用・発展的な科目を学習。卒業後は理科系の大学に進みたい。

午前から午後にかけての学習時間帯で、数学Ⅱ・数学Ⅲ、微積分学入門や物理分野と化学分野など、数学・理科について幅広く選択。

1年次

	月	火	水	木	金
1	国語表現Ⅰ	英語Ⅰ	理科総合A		保健／体育
2	英語Ⅰ	体育	総合学習 LHR	家庭基礎	美術Ⅰ
3	世界史A	オーラルⅠ	数学A	情報B	数学Ⅰ
4				数学Ⅰ	

2年次

	月	火	水	木	金
1	保健／体育	数学Ⅱ	化学Ⅰ	体育	物理Ⅰ
2	地理A	物理Ⅰ	総合学習 LHR	数学Ⅱ	英語Ⅱ
3	英語Ⅱ	数学B	国語表現Ⅱ	加算演習	化学Ⅰ
4					

3年次

	月	火	水	木	金
1		物理Ⅱ	数学C		数学Ⅲ
2	体育	数学Ⅲ	総合学習 LHR	化学Ⅱ	現代社会
3	ライティング		微積分学入門	加算演習	ライティング
4					

科 目	必履修科目										自由選択科目										系の科目		校外講座	総合的な学習の時間	単位数合計					
	国語表現Ⅰ	現代社会	世界史A	地理A	数学Ⅰ	理科総合A	物理Ⅰ	化学Ⅰ	体育	保健	美術Ⅰ	オーラルⅠ	英語Ⅰ	家庭基礎	情報B	国語表現Ⅱ	数学Ⅱ	数学Ⅲ	数学A	数学B	数学C	微積分学入門				物理Ⅱ	化学Ⅱ	ライティング	英語Ⅱ	プログラミング
	②	②	②	②	④	②	④	④	⑧	②	②	②	④	②	②	②	④	④	②	②	②	②	②	②	④	④	②	②	③	81

Cさんの場合:生活スタイルや目的にあわせた時間帯で学習。興味ある福祉や健康など、生活に関する科目を学びたい。  
 昼をはさんだ時間帯を中心に時間割を作成し、集中講座などの柔軟な学習の機会も活用。空いている時間は  
 予習や興味あるテーマの自己学習など、時間を有効に。

1年次					2年次					3年次							
	月	火	水	木	金		月	火	水	木	金		月	火	水	木	金
1		フィットネス				1				福祉基礎		1		基礎介護			
2	書道 I	国語総合	総合学習 LHR	体育	オーラル I	2	保健 / 体育	日本史 A	総合学習 LHR	体育	古典	2		体育	総合学習 LHR	現代社会	国語表現 II
3	数学基礎	理科基礎	家庭基礎	国語総合	英語 I	3	オーラル II	現代文	英語 II	現代文	オーラル II	3	リーディング	食文化	リーディング	校外講座	地理 A
4	保健 / 体育			英語 I	情報 A	4	英語 II		古典		理科総合 B	4	世界史 B		世界史 B		

科 目	必履修科目													自由選択科目						系の科目					校外講座	総合的な学習の時間	単位数計		
	国語総合	現代社会	世界史 B	日本史 A	数学基礎	理科基礎	理科総合 B	体育	保健	書道 I	オーラル I	英語 I	家庭基礎	情報 A	国語表現 II	現代文	古典	地理 A	オーラル II	英語 II	リーディング	福祉基礎	基礎介護	フィットネス				食文化	救急法(集中講座)
	④	②	④	②	②	②	②	⑧	②	②	②	④	②	②	④	④	②	④	④	④	④	②	②	②	②	①	③	②	80

Dさんの場合:午前中は学校で学習。午後は校外の文化活動に集中したい。  
 4年間で卒業する計画。工芸Ⅱ・工芸Ⅲ、陶芸、器楽、演劇、フィットネスなど、総合的な芸術・文化活動につながる科目を選択。

1年次					2年次					3年次					4年次								
	月	火	水	木	金		月	火	水	木	金		月	火	水	木	金		月	火	水	木	金
1	国語表現 I	情報 A	英語 I	理科基礎	保健 / 体育	1	工芸 II	現代社会	陶芸入門	体育	数学基礎	1	理科総合 A	政治経済	倫理	パソコンライフ	古典講読	1	演劇体験	英語 II	ブーム流行史	生涯スポーツ	
2	英語 I	体育	総合学習 LHR	家庭基礎	工芸 I	2	保健 / 体育	世界史 A	総合学習 LHR	日本史 A	国語表現 II	2	体育	リーディング	総合学習 LHR	工芸 III	リーディング	2	実用英語	器楽	総合学習 LHR	英語 II	フィットネス
3						3						3						3					
4						4						4						4					

科 目	必履修科目													自由選択科目						系の科目					校外講座	総合的な学習の時間	単位数計			
	国語表現 I	現代社会	世界史 A	日本史 A	政治経済	倫理	数学基礎	理科基礎	理科総合 A	体育	保健	工芸 I	英語 I	家庭基礎	情報 A	国語表現 II	古典講読	生涯スポーツ	工芸 II	工芸 III	器楽	英語 II	リーディング	実用英語				ブーム流行史	演劇体験	パソコンライフ
	②	②	②	②	②	②	②	②	②	⑧	②	②	④	②	②	②	②	②	②	②	②	④	④	②	②	②	②	②	④	74

## 7 施設設備

- 汲沢高等学校施設の改修により、必要な施設設備等を整備する。
- 教育内容の特色や多様な選択科目展開に必要な各種の学習室の整備を行う。
- フレキシブルスクールの展開に関する施設として、ロッカースペース、ラウンジコーナー、カウンセリングルーム、情報管理室などの整備を行うほか、両校の統合にともなう記念室の整備を行う。

### <学習施設の概要>

一般学習室、小集団学習室、コンピュータ学習室A・B、  
LL（CALL）学習室、福祉実習室、マルチメディア学習室、多目的学習室、  
プレゼンテーションルーム、物理実験室、化学実験室、生物・地学実験室、  
音楽室、美術室、工芸室、書道室、被服室、作法室、調理室、視聴覚室、図書室、  
体育館、武道場、トレーニングルーム、プール、弓道場、グラウンド

## 8 教職員組織及び運営

- フレキシブルスクールの教育活動の展開に必要な職員配置を行う。
- 通常の組織に加え、フレキシブルスクール運営のための組織を設置する。
- 学校間連携に必要な組織を設置する。
- 生涯学習講座運営のための組織を設置する。

## 9 学習センター機能の提供

- (1) 生涯学習講座の設置
  - 社会人の生涯学習を支援するとともに、高校在籍生徒もともに学ぶ生涯学習講座を設置する。
- (2) 聴講生の受け入れ
  - 高等学校の一部の科目の履修を希望する社会人の積極的な受け入れを推進する。
- (3) 学校間連携の推進
  - 学校間連携により一部科目の履修を希望する他校生の積極的な受け入れを推進する。

## 資料「再編対象校の記録」

### 【凡例】

- 本資料は再編対象校について、当該校の卒業生数、教育活動の特色、校章とその由来などを記載するとともに、新校の教育活動の特色、校章とその由来などを記載した。なお、二俣川看護福祉高校、白山高校、西湘高校及び定時制のみ改編の高等学校については記載していない。
- 作成に当たっては、各校の学校要覧、公式ホームページ、『わたくしたちの県立・市立高校』、『輝けきみの明日』などを参考にした。



## 横浜桜陽高等学校の開校（平成 15 年 4 月 1 日）

### 汲沢高等学校（全日制 普通科）

〔開校〕 昭和 54 年 4 月 1 日

〔所在地〕 横浜市汲沢町 973

〔卒業生総数〕 8,007 名

〔教育目標・教育活動の特色等〕

○朝 8 時半にベネチアのサン・マルコ寺院の鐘と同じ音色の「汲沢の鐘」が鳴り渡り、8 時 50 分から授業が始まる。

○6 クラス 8 展開  
平成 13 年度新入生から導入

○多くの選択科目、特色ある科目  
「マルチメディアの活用論」「福祉基礎」「異文化理解」「フィットネス」等

○一人ひとりを大切に、厳しくかつきめ細かな進路指導

〔校章の由来〕

県の木「いちょう」を図案化。末広りの 3 枚の葉に、可能性豊かなものの集う様を象徴、一人ひとりが無限の可能性に向かって伸びゆく願いを託している。



### 豊田高等学校（全日制 普通科）

〔開校〕 昭和 55 年 4 月 1 日

〔所在地〕 横浜市飯島町 178

〔卒業生総数〕 6,048 名

〔教育目標・教育活動の特色等〕

○ユニークな学校行事

・歩け歩け、湘南ウォーク大会  
・実感、体験を大切にした修学旅行  
・年 3 回のヤングライダーズスクール

○多様な選択科目

・1 年生から自由選択の講座  
・「地球環境科学」「英語を楽しむ」「デッサン」「実用の書」「被服」等

○みんな頑張っている部活動

・弓道場があり、インターハイや全国選抜大会に県代表を送った輝かしい歴史

〔校章の由来〕

校名トヨ田を円の中に型どり、直線は強固な精神力を示し、4 つの扇形は、高い知性・健康な身体・豊かな情操・愛の精神の広がりを示している。



### 横浜桜陽高等学校（フレキシブルスクール 全日制 単位制普通科）

〔所在地〕 神奈川県横浜市汲沢町 973

〔教育活動の特色〕 単位制のシステムを最大限生かした柔軟な学びで 240 通りの高校生活を応援します。

○自分で作る時間割 1 日 90 分 4 こまの中に 120 科目以上の科目を設定。自分の学びをデザイン

○特色ある系の科目 6 つの系には「IT ライセンス」「横浜の自然」「園芸入門」「福祉援助技術」「障害者スポーツ」「フィットネス」「中国語入門」「演劇体験」等の特色ある科目

○オープンな学びの場 高大連携等での校外講座やボランティア活動等の学校外活動も単位認定

〔校章の由来〕

横浜と桜陽の頭文字 Y と O をベースに「桜陽」の名称から桜の花びらと輝く太陽を表現し、一人ひとりの輝きと成長への願いを込めたもの。ダイナミックな「カーブのライン」はフレキシブルスクールの柔軟な校風と明るく未来への希望と可能性の広がりを表象している。



## 相模原総合高等学校の開校（平成 15 年 4 月 1 日）

### 大沢高等学校（全日制 普通科）

〔開校〕 昭和 55 年 4 月 1 日

〔所在地〕 相模原市大島 1226

〔卒業生総数〕 6,792 名

〔教育目標・教育活動の特色等〕

- 部活動の充実 1 年全員入部、男子バレー部全国大会
- 福祉教育の充実 福祉委員会、福祉 LHR、ボランティア同好会など
- 朝の読書活動

〔校章の由来〕 いかなる条件の下でも、たくましく伸びやかに成長繁茂する唐楓を象ったもの。また、3 枚の葉は、知・心・体の象徴である。



### 相模原総合高等学校（全日制 総合学科）

#### 教育方針

- 生きる力の育成（進路意識の明確化、将来設計力、望ましい職業観・勤労観）
- 学ぶ力の育成（基礎学力、自ら学び自ら考える力）
- 自律し自立する力の育成（規範意識の醸成、情報発信力）

#### 教育活動の特色

- すべての教育活動でキャリア教育を行う。
- 総合学科の特色
  - ・将来の職業選択を視野に入れた進路への自覚を深めさせる学習の重視
  - ・個性を生かした主体的な学習を通して学ぶことの楽しさや成就感を体験させる学習の重視
- 朝の読書活動

#### 校章の由来

唐楓に囲まれた高校をかたどったもの。本校の前身である大沢高校の良き伝統を引き継ぎながら新たなながら学校作りを目指す心意気の象徴として校章を継承した。



藤沢工科高等学校の開校（平成 15 年 4 月 1 日）

藤沢工業高等学校（全日制 機械科・建設科・電気科）

〔開校〕昭和 48 年 4 月 1 日

〔所在地〕藤沢市今田 744

〔卒業生総数〕6,603 名

〔教育目標・教育活動の特色等〕

心身ともに健全、かつ豊かな人の育成・自己の才能を伸ばし、自主性と創造性豊かな人の育成・技術と技能を尊重し、スペシャリストとして社会に貢献できる人の育成

○入学の時点で専門の学科毎に募集、基礎・基本を修得後に学科毎に分かれ学習

○多様な資格取得に挑戦可能

〔校章の由来〕

校名を連想させる「藤」の葉と工業の象徴である「やっこ」を組み合わせている。「藤」の葉の先の鋭さは学問・技術に対する姿勢を、又「やっこ」の互いに交差している様は、協調を表している。そして各の数は、本校の三つの教育目標から由来する。



大船工業技術高等学校（全日制 機械科・電気科）

〔開校〕昭和 48 年 4 月 1 日

〔所在地〕鎌倉市岡本 1,370

〔卒業生総数〕2,975 名

〔教育目標・教育活動の特色等〕

中学における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて高等普通教育及び工業に関する専門教育を施すことを目的とする。

○機械科・電気科とも各学年 3 クラスの小規模で家庭的な雰囲気の中で創造性や理解力を深める親身な学習を保証

○時代感覚を身につけた実践的技術者育成一般の工業高校よりも実習単位を多く設置すると共に、少人数の班別編成を行い、能力、関心、習熟度に応じた学習が可能。

〔校章の由来〕

県の花である山百合の花に大船の「大」、工業の「工」の字をそれぞれ図案化したもので、6 つの花弁は、本校の 6 つの教育目標を象徴し、将来優れた工業人に成長することを表現している。



藤沢工科高等学校（全日制 総合技術科）

〔所在地〕藤沢市今田 744

〔教育方針〕 ○ものづくりを通して工業の意義や役割を理解させる。

○主体性と協調性を兼ね備えた人間を育成する。

○専門性の深化や進学に対応した教育を実践する。

○総合的な視野をもち、環境問題など社会の変化に対応できる人間を育成する。

○地域社会とのふれあいを大切にし、地域との共生をめざした教育を実践する。

〔教育活動の特色〕

○一人ひとりの適性や進路希望に応じて専門的な系を選択し、個性を生かした学習が出来る。多様な進路希望や学習目的に応じ、専門分野を深める事や進学して継続的に学ぶ事が可能

○ものづくりの視点を重視し、創意工夫を生かす実践的な技術者になるための学習が出来る。

〔校章の由来〕

工科の「工」の字を円の構成で全体的に表現し、円は総合的、地球環境への優しさ等を示しています。また、円が 6 つに分割されている構図は、6 つの系がお互いに共存していることを表している。本校の教育目標に対応させ、これからの新しい時代を幅広い視野と創造性豊かな感性によって切り拓き社会に貢献できる優れた人格を形成しようという願いが込められている。



## 平塚工科高等学校の開校（平成 15 年 4 月 1 日）

### 平塚工業高等学校（全日制 機械科・ 電気科・化学科）

〔開校〕昭和 14 年神奈川県立第二工業学校として創立。昭和 15 年県立平塚工業学校と改称し、昭和 21 年県立平塚中学校と組織変更。昭和 23 年県立平塚高等学校設置、昭和 39 年県立平塚工業高等学校と改称。

〔所在地〕平塚市黒部丘 12-7

〔卒業生総数〕14,428 名

〔教育目標・教育活動の特色等〕

教育基本法、学校教育法に基づき、民主主義教育の徹底を期し、真理と平和を希求する人間を育成することを方針とする。

○充実した施設設備による実習に基づく実社会で役立つ技術の習得

〔校章の由来〕

本校の質実剛健・誠実の伝統を簡素な形で、あざなえる縄をもって表現したもので、全校一致して前進するという意味がこめられている。



### 平塚西工業技術高等学校（全日制 機械科）

〔開校〕昭和 48 年 4 月 1 日

〔所在地〕平塚市桜ヶ丘 7-1

〔卒業生総数〕3,634 名

〔教育目標・教育活動の特色等〕

急速な社会や工業技術の進展に即応できる幅広い教養と知識を身につけ、併せて工業人としてすぐれた技術をもつ中堅技術者の養成を目指す。

○機械技術、メカトロニクス、自動車の三系

○資格取得のために講習会を実施

製図検定・ガス溶接技能者・アーク溶接技能者・情報技術検定・ラジオ音響技能検定・デジタル技術検定・危険物取扱者・計算技術検定など

〔校章の由来〕

「平塚」の「平」と「西端」の「西」の文字を台座とし、全体的には豊かに、しかもその突端は鋭くあらゆる空間を指向するように図案化したもの。



### 平塚工科高等学校（全日制 総合技術科）

〔所在地〕平塚市黒部丘 12-7

#### 教育方針

憲法及び教育基本法の本質に則り、科学技術の進展を担う幅広い教養、技術、技能を身につけるとともに、社会についての正しい理解と健全な判断力を養い、以って、社会の発展に貢献できる人材を育成する。

#### 教育活動の特色

○新しいタイプの工業高校で、全員「総合技術科」の生徒として入学し、一年では全員共通の科目を履修。2年では、「機械系、自動車系、電気系、環境化学系、理工系」を選択。3年では、系に応じたコースに分かれる。2年次の理工系以外の系から理工系への移動可能

○理工系コースは大学の一般受験の挑戦が目標で、数・理・英をより充実させるカリキュラムを設ける。資格取得のための講習会も数多く開催

○部活動では社会部がソーラーカーレースで全国優勝。電気部やアマチュア無線部など工業系の部躍が目立つ。

#### 校章の由来

本校の英語の正式名称は Hiratsuka High School of Science and Technology ということから、H と S と T をデザイン化した。背景のブルーは湘南の海をイメージしている。





## 横浜南陵高等学校の開校（平成 15 年 4 月 1 日）

### 横浜日野高等学校（全日制 普通科）

〔開校〕昭和 40 年 4 月 1 日

〔所在地〕横浜市港南区日野中央 2-26-1

〔卒業生総数〕12,518 名

〔教育目標・教育活動の特色等〕

豊かな教養、円満な人格、強固な意志

○1・2 年次は共通科目で固定し、3 年次は文化系・理科系への進路に対応した大幅な必修選択科目と自由選択科目を設定

○3 年次の選択科目は 20～30 人の小集団学習

○合唱コンクール 日野高祭（文化の部・体育の部）

○男女ハンドボール部、モダンダンス部、アメリカンフットボール部、放送特別委員会などは関東大会や全国大会に出場

〔校章の由来〕

地名そのものをデザインしたもの。地域の期待がこの由緒ある地名の文字に象徴されて、緑のスクールカラーとともに明確であり、また、親しみやすい校章でもある。



### 野庭高等学校（全日制 普通科）

〔開校〕昭和 50 年 4 月 1 日

〔所在地〕横浜市港南区野庭町 1660

〔卒業生総数〕9,951 名

〔教育目標・教育活動の特色等〕

知恵を育てよう、友愛を誓おう、勇気を発揮しよう。

○校風は教師、生徒、家庭の密接な連携

○1 年次は共通科目で国語・数学・英語の単位を増やし、基礎学力を充実、2 年次より選択制を導入し、3 年次は大幅な選択科目を設置した自由選択制

〔校章の由来〕

野庭の「の」を型どったもの。この紋様は、また「巴」ともよばれるもので、太陽の運行をあらわすとも、水の流れを示すともいわれる。太陽と水と野と、人間の生活の原点にしっかり基礎をおこうとの思いがこめられている。



### 横浜南陵高等学校（全日制 普通科 一般・健康福祉コース）

〔所在地〕横浜市港南区日野中央 2-26-1

〔教育方針〕

21 世紀を生き抜くための豊かな教養と健康な心と身体を持った人間の育成をめざします。

〔教育活動の特色〕

全日制普通科の中に、一般コースと健康福祉コースがあり、豊かな教養 幅広い知識や考え方を身につけ仲間づくりを進める。

〔校章の由来〕

「南陵」の背景に 3 枚の銀杏の若葉で横浜の Y とし、校名を表している。銀杏は、神奈川の県の木であり、校庭に大きく育ち学び舎を彩っており、伝統を守り、この地に芽吹いた若木が大木に成長することを願うものである。



## 横浜旭陵高等学校の開校（平成 16 年 4 月 1 日）

### 都岡高等学校（全日制 普通科）

〔開校〕 昭和 55 年 4 月 1 日

〔所在地〕 横浜市旭区上白根町 1161-7

〔卒業生総数〕 7,678 名

〔教育目標・教育活動の特色等〕

「人間性の伸長」「個性と能力の充実」「自主自立の精神の育成」

○基礎学力の伸長

○ユニークで多様な選択科目

「Zoology(ズーオロジー)」「ボキャブラリービルディング」「スクリーンイングリッシュ」

「生涯スポーツ」「パソコン活用講座」等

○選択科目の授業は 30 人以下

○多様な学校行事

みやこ祭(文化祭)・陸上競技大会・球技大会・マラソン大会・文化部合同発表会

○陸上部 19 年連続インターハイ出場

〔校章の由来〕

桔梗の花をモチーフとして学問文化のペンを五弁に構成。さらに、花冠を都岡の T で、芯を O で表し、都岡生の団結と発展を表現している。



### 中沢高等学校（全日制 普通科）

〔開校〕 昭和 52 年 4 月 1 日

〔所在地〕 横浜市旭区中沢 1-24-1

〔卒業生総数〕 7,603 名

〔教育目標・教育活動の特色〕

自分の行動に責任の持てる人間の形成を大切に、生徒一人ひとりが自主的で個性豊かな人間として成長することをめざす。

○基礎学力の充実

小集団学習・学校独自の漢字検定

○学校独自の科目の設定

「ワープロ入門」「文学入門」「生活と環境」

○仲間と楽しむ学校行事

中沢祭・春と秋の遠足・球技大会

○地域に愛され魅力ある学校

創立 20 周年中庭整備・保育園児との交流事業

〔校章の由来〕

中沢のナカを、未来に向かって羽ばたく鳥の姿に型どり、教育方針である知・徳・体の融合調和を直線と曲線で組み合わせで表現している。



### 横浜旭陵高等学校（全日制 単位制普通科）

〔所在地〕 横浜市旭区上白根町 1161-7

〔教育目標〕

生徒の個性を伸長し、叡智と実践力に富む人格の育成につとめ、社会の有為な形成者として必要な資質に秀でた人材を養成することを目標とする。

〔教育方針〕

○単位制の学びのシステムを生かし生徒一人ひとりの基礎学力を充実し、個性と能力の伸長を図る。

○多様な学習形態、自主的・主体的な高校生活の中で、自主自立の精神と責任感を養う。

○現代社会の要請に応え、また、地域に密着した特色ある教育活動を通じて社会性を培う。

〔教育活動の特色〕

特色ある系の科目（「Zoology」、「保育と児童文化」、「社会福祉基礎」、「環境の科学」、「文学に親しむ」）、少人数学習、3 コースに分かれての修学旅行、キャリアカウンセリング制度の活用。

〔校章の由来〕

丸は昇る朝日（旭）、曲線は横浜の Y をデザインしたもの。2 つのデザインの組み合わせで、伸びゆく人を形作っている。



## 三浦臨海高等学校の開校（平成16年4月1日）

### 初声高等学校(全日制 普通科)

〔開校〕昭和59年4月1日

〔所在地〕三浦市初声町入江274-2

〔卒業生総数〕6,796名

〔教育目標・教育活動の特色等〕

- 個性の伸長と、知・徳・体の調和のとれた創造力豊かな人間を育成する。
- 三浦半島の自然、海の地域性を踏まえた教育活動の展開
- 個性、適性、能力に応じた弾力的な学習指導、およびライセンス取得講座開設
- 国際的感覚の養成と国際化社会に対応できる人材育成のため、実用英語の指導
- 地域性を生かしたクラブ、部活動重視
- 地域の文化、体育、海洋、水産、農業関連施設との連携、野外教育活動の重視・特色ある教育施設、モチーフ「太陽と海」

〔校章の由来〕太陽と鷗に、初声の「H」を图案化したもの。鷗が太陽に向かって大海原を飛翔する姿は、未来への挑戦と若人の意気・希望を象徴している。



### 三崎高等学校(全日制 普通科)

〔開校〕昭和8年4月三崎町立三崎実科女学校として創立。昭和10年独立校舎落成、三崎日の出2番地に移転。昭和18年三崎高等女学校と改称。昭和23年三崎町立三崎高等学校となり、昭和25年神奈川県立三崎高等学校となる。昭和28年現在地に移転。

〔所在地〕三浦市初声町下宮田5

〔卒業生総数〕14,394名

〔教育目標・教育活動の特色等〕

多様な個性と関心および進路を尊重し、必要な学力の充実・向上をはかる。また、健康の増進につとめ、責任を重んじ、節度ある人間を育成する。

○小集団学習

○「マリンスポーツ」等の特色ある科目

○社会人や地域の人材の学校への活用

〔校章の由来〕八咫鏡は真心を写し、波線は社会の荒波を象徴。そして、彩る紺碧はそれを乗り越えて完成された海のような人格の深さを示している。



### 三浦臨海高等学校(全日制 単位制普通科)

〔所在地〕三浦市初声町入江274-2

#### 教育目標

恵まれた自然と自由な環境の中で主体的に学び、国際的な視野と豊かな心をもって自らの夢を実現する人を育成する。

#### 教育活動の特色

- 単位制だからできる 自ら主体的に学ぶ授業
- 考える力をはぐくむ 自分の今と未来を考えるキャリアガイダンス
- テーマで選ぶ研修旅行 国際平和（沖縄）郷土文化（地域探索）国際理解（語学研修）
- 環境問題への取り組み 環境系の授業 太陽光発電システム
- 地域とのつながり 郷土系の授業 三浦市との教育連携 地域企業での就業体験
- 国際理解を進める 国際系の授業 姉妹校交流（オーストラリア）スタディツアー

#### 校章の由来

三浦の自然（空・海・大地）の中で育まれた情熱をもって自由な世界に大きく飛翔する若い力を表現した。白地に3本線は、「空」（空色）、「大地」（緑）、「海」（青色）を象徴し、新時代に出発するにふさわしい自由な精神をデザイン化した。



## 小田原高等学校の開校（平成 16 年 4 月 1 日）

### 小田原高等学校（全日制/定時制 普通科）

〔開校〕明治 34 年小田原町緑に神奈川県第二中学校として創立。大正 2 年県立小田原中学と改称し、大正 3 年八幡山（現校地）に移転。昭和 23 年県立小田原高等学校と改称。平成 13 年には 100 周年を迎えた。

〔所在地〕小田原市城山 3-26-1

〔卒業生総数〕25,988 名

〔教育目標・教育活動の特色等〕

〔校訓〕至誠無息 堅忍不拔

- 各 HR には 2 人の教員が配置され、各学年には約 20 人の教員が学年所属
- 進路希望に合わせた選択授業（30 科目）
- アメリカの高校との姉妹校交流
- 小田高祭 クラス単位の演劇発表
- 部活動 1, 2 年生は全員が部に所属する。

〔校章の由来〕

本校の名物「榿林」に由来し、その「榿の葉」を校章とした。山上高くそびえ立ち、風雪に耐え、幾星霜を経て、なお健在である大樹を示している。



### 小田原城内高等学校（全日制 普通科

一般・外国語コース /定時制 普通科）

〔開校〕明治 40 年小田原町立小田原女学校として創立。翌年、小田原町立小田原高等女学校と改称。昭和 23 年県立小田原女子高等学校となる。昭和 25 年小田原城内高等学校と改称、定時制課程開設。平成 15 年 100 周年記念式典挙行。

〔所在地〕小田原市南町 1-6-34

〔卒業生総数〕24,884 名

〔教育目標・教育活動の特色等〕

古い伝統と新しさを求める気風とが調和

○外国語コース Native による授業

○カナダとの姉妹校提携等の海外交流

○演劇部、茶道部、箏曲部、児童部、アーチェリー部、少林寺拳法部、モダンダンス部、家庭クラブでは全国代表として米に留学

〔校章の由来〕

徳をあらわす真澄の鏡に、当地ゆかりの梅花の小枝を配している。梅の花は、清楚と気品をあらわし、これにちなんで、卒業生・在校生を窓梅会員と称している。



### 小田原高等学校（全日制/定時制 単位制普通科）

〔所在地〕小田原市城山 3-26-1

〔教育目標〕

「高い知性と教養を持った、明日を担う人材の育成」「豊かな発想と創造性を備えた人間の育成」及び「健康で心豊かな人間の育成」

〔教育活動の特色〕

- 110 年の伝統を踏まえた新しい教育システムの確立（小田高グランドデザイン）
- 単位制システムによる学力向上の取組み（小田高学力スタンダード）
- 単位制システムによる進学重点の取組み（小田高進路ストーリー）
- 教科外活動の充実による人間形成の取組み（調和の取れた人間形成）

〔校章の由来〕

昭和 23 年新制高校発足とともに「神中」を改め、生徒の公募により、榿林「榿の葉」をとって校章とした。榿の木の強健な性とその生命力は、賛美と畏敬の念を抱かせるところから、質実剛健を期する小田高健児の理想を具現化したもの。



**川崎高等学校の開校（平成 16 年 4 月 1 日）**

**川崎高等学校（全日制/定時制 普通科）**

〔開校〕昭和 2 年 4 月 1 日  
 昭和 2 年川崎中学校として創立。昭和 23 年  
 県立川崎高等学校となる。

〔所在地〕川崎市川崎区渡田山王町 22-6

〔卒業生総数〕20,523 名

〔教育目標・教育活動の特色等〕

- 真理の探究・豊かな情操・明るく健康
- 在日外国人生徒教育方針(平成 2 年制定)
  - 生徒主体の柏葉祭、スポーツ大会運営
  - クラブ協議会のもとに自主的な部活動

〔校章の由来〕

原形は、昭和 2 年 4 月 21 日に制定され、戦  
 後、中央の文字が高に変わった。旧制第一高  
 等学校にあやかり、「文」を意味する橄欖  
 （かんらん）と「武」を表す柏葉をあしらい、  
 文武両道をあらわしている。



**川崎南高等学校（全日制 普通科）**

〔開校〕昭和 54 年 4 月 1 日  
 〔所在地〕川崎市川崎区小田栄 2-3-1

〔卒業生総数〕8,301 名

〔教育目標・教育活動の特色等〕

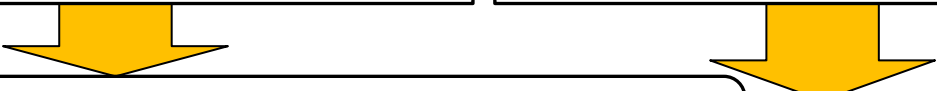
- 活気あふれる楽しい学校づくり
- 個性を伸ばす教育
  - ・多くの選択科目の設置
  - ・小集団学習
  - ・体育は種目選択
- 生徒の健康と安全を考えて
  - 耐寒強歩大会・スケート教室

○地域とのふれあい行事

- 輝南祭(文化祭)と一緒にグランドゴルフ
- 活発な部活動 ボランティアワークス  
 相撲同好会 チアリーディング部 等

〔校章の由来〕

3本の縦線は、川崎市の「川」、「南」と併せ  
 て川崎南高校を意味する。躍動する若さと  
 無限に伸びる向上心とを象徴し、  
 ふちどりの白は純粹さ、輝きを  
 あらわしている。



**川崎高等学校（フレキシブルスクール 全日制/定時制 単位制普通科）**

〔所在地〕川崎市川崎区渡田山王町 22-6

〔教育方針〕

全日制と定時制を一体化して学習時間帯とカリキュラムを共有する柔軟な学びのシステムを有するフレキシブルスクールとして「自ら課題を見つけ、自ら学び、考え、問題を解決する、資質・能力」を育て「個性の伸長を図りつつ、自己の可能性を開拓していく」ための教育を行う。

〔教育活動の特色〕

- 学びの時間が“Flexible” 1日12時間の幅で設定された授業時間帯から科目選択
- 学びの方法が“Flexible” 小集団学習やゼミナール形式の学習、集中講座、中国と姉妹校提携
- 学びの場所が“Flexible” 大学や専門学校での学習
- 学びの対象が“Flexible” 社会人聴講制度や公開セミナーの実施

〔校章の由来〕

3枚の柏葉、円冠を為す楠葉、3粒の橄欖（かんらん）の実により構成されている。  
 橄欖（かんらん）の実を本校が根付き育まれてきた川崎の川の字に配し、すくすくと  
 広がる3枚の柏葉は自ら学び、自ら行い、自らを高める学び舎を象徴している。  
 楠葉の円冠は若々しさと生命力を表している。





## 鶴見総合高等学校の開校（平成 16 年 4 月 1 日）

### 平安高等学校（全日制 普通科）

〔開校〕 昭和 58 年 4 月 1 日

〔所在地〕 横浜市鶴見区平安町 2-28-8

〔卒業生総数〕 4,976 名

〔教育目標・教育活動の特色等〕

- 豊かな心とおもいやり、自主性と教養、心身ともに健康で調和のとれた人間づくり
- 苦手な教科がよくわかる授業、得意なところを伸ばす指導、社会や学校での約束が守れるなど、一人ひとりきめ細かな指導
- 1年次における英語、数学の少人数指導、木工、陶芸、情報処理等特色ある選択科目
- 陸上競技大会・耐寒健脚大会

〔校章の由来〕

「平安」の文字を図案化し、船の舵の形と重ねた。舵は、青春の堅実な進路を、金色の円は、調和と健やかさを、紫は、平安文化の地と雅びを、象徴している。



### 寛政高等学校（全日制 普通科）

〔開校〕 昭和 55 年 4 月 1 日

〔所在地〕 横浜市鶴見区寛政町 28-2

〔卒業生総数〕 4,977 名

〔教育目標・教育活動の特色等〕

- 漢字、英単語、計算など基礎からの積み上げを重視した指導
- 日本語を母語としない生徒のために、国語や地理などで特別授業
- 1年次は全クラス、2・3年次は選択科目で少人数クラスの実施
- パソコン、英会話、工芸など多様な選択科目の設置

〔校章の由来〕

寛政の寛を図案化したもの。三方に張り出した翼は頭と心と体を表し、調和を保ちながら限りなく発展する姿を象徴している。



### 鶴見総合高等学校（全日制 総合学科）

所在地 横浜市鶴見区平安町 2-28-8

#### 教育方針

- 社会の構成員としての「生きる力」
- 多文化共生の体験を通じた「相互理解」
- 選択・決定を通じて「自己責任」に基づいて行動する態度
- 「調和」のとれた、「心身ともに健康」な人間の育成

#### 教育活動の特色

##### ○キャリア教育

未来探索Ⅰ、Ⅱ、Ⅲという3年間を通じたキャリア科目を通じて、職場体験など、進路実現にむけて必要な知識や態度を身につける。

##### ○カリキュラム上の特色

基礎学力だけでなく、体験、探求型授業にも対応する90分授業。豊かな情操、落ち着いた授業への環境づくりのために毎朝10分の「朝の読書」。外国籍生徒も多く、日本語を母語としない生徒への支援や積極的な国際交流など、多文化共生に取り組む。

#### 校章の由来

「T」「S」は「鶴見」と「総合」を意味し、背景は黄色で元気さと快活さを表している。「T」と「S」の組み合わせは無限記号（∞）をイメージに配し、背景の黄色と合わせて、生徒みんなが自由に活動的に無限の可能性を發揮できるよう願いがこめられている。



## 横浜清陵総合高等学校の開校（平成 16 年 4 月 1 日）

### 清水ヶ丘高等学校（全日制 普通科）

〔開校〕昭和 49 年 4 月 1 日

〔所在地〕横浜市南区清水が丘 41

〔卒業生総数〕10,121 名

〔教育目標・教育活動の特色等〕

○地域にねざした学校

地元中学対象「サッカー教室」やケアプラザでのボランティア活動等

○幅広い選択制と確実な大学進学

多様な選択科目、重点的な外国語教育等

○盛んな部活動、42 部 6 委員会による活動

インターハイ、関東大会出場等

○恵まれた環境

緑豊かな丘の上、市内随一の広いグラウンド

〔校章の由来〕

羽ばたく三羽のかもめ・・・飛躍

山ゆりの花・・・・・・・・清純

共鳴する 3 つの鐘・・・・・・・・友愛



### 大岡高等学校（全日制 普通科）

〔開校〕昭和 55 年 4 月 1 日

〔所在地〕横浜市南区大岡 2-29-1

〔卒業生総数〕6,890 名

〔教育目標・教育活動の特色等〕

○教育方針

・個性、適性に応じた教育の充実

・知力、体力の調和のとれた育成

・健全な常識、豊かな情操の養成

○基礎学力の充実

1 年次は数学、英語で 1 クラス 20 人

○多彩な選択科目

2、3 年次は、「幼児教育音楽」、「生涯スポーツ」等 24 の選択科目を設置

○ていねいな進路相談

〔校章の由来〕

県の木「いちょう」の末広がり葉に、若者の未来への可能性を託し、5 枚の葉の輪形の組み合わせで人の和を、また、葉の間隙の大的字で校名を表している。



### 横浜清陵総合高等学校（全日制 総合学科）

所在地 横浜市南区清水が丘 41

#### 教育方針

- 夢に向かってチャレンジする力を育てる。
- 社会の変化に対応し、時代を切り拓く力を育てる。
- 自ら課題を発見し、主体的に解決する力を育てる。

#### 教育活動の特色

○キャリア教育の特徴

1 年「産業社会と人間」、2 年「コミュニケーション」、3 年「探求」により、社会で活躍する人材の育成、より高いレベルでの進路実現

○特色ある選択科目

情報科学、生涯スポーツ、芸術表現、ライフデザイン、自然科学、人文国際の系列選択科目や普通教科の選択科目、大学や専門学校との連携科目など豊富に設置

#### 校章の由来

総合学科高校である本校の理念のもとに集う人々が、現在から未来へ、この場所から世界へと「時空」を拡げながらスパイラル的に夢を表現していく姿を現している。



## 金沢総合高等学校の開校（平成 16 年 4 月 1 日）

### 富岡高等学校（全日制 普通科）

- 〔開校〕 昭和 51 年 4 月 1 日  
〔所在地〕 横浜市金沢区富岡東 6-34-1  
〔卒業生総数〕 11,262 名  
〔教育目標・教育活動の特色等〕
- 進路に応じた多様なカリキュラム  
1 年少人数クラス。2・3 年選択科目の充実
  - きめ細かい進路指導  
3 年間一貫した指導
  - 実社会で通用するひとになるために  
検定試験の奨励やコンピュータの活用
  - 部活動の充実  
女子バスケット部やダンス部の全国大会での活躍

#### 〔校章の由来〕

白い波が富岡の T、波の中から生まれた学校を表している。太陽の中に高校の高を抱き、その背景は、学  
年色を示す空である。



### 東金沢高等学校（全日制 普通科）

- 〔開校〕 昭和 54 年 4 月 1 日  
〔所在地〕 横浜市金沢区富岡東 2-6-1  
〔卒業生総数〕 9,130 名  
〔教育目標・教育活動の特色等〕
- 自主的に学習し、積極的に真理を探究する  
習慣の養成
  - 多彩な選択科目と高大連携
  - 気力・体力の充実、強健な心身の育成  
・充実した学校生活を過ごす生き生き部活動  
・アーチェリー部、女子バスケット部の活躍
  - 個性の開発・伸張、誠実・責任感、実践意  
欲をもつ人間の育成
  - 品位、寛容の精神、心豊かな情操

#### 〔校章の由来〕

「盾」は強固で不屈の精神力、「東」は、校名の頭文字と太陽の躍り出る東方の洋上を現し、新鮮で明るい心をもってほしいと願っている。



### 金沢総合高等学校（全日制 総合学科）

〔所在地〕 横浜市金沢区富岡東 6-34-1

#### 教育方針

- 自分の可能性を生かし、自分で考え、自分の人生をつくっていく。
- 広い視野と深い人間理解のもと、人々共に社会をつくっていく。

#### 教育活動の特色

- 新たな主体の育成 自らの人生や共に生きる人間社会を作る主体となる。
- 開かれた学校システム 家庭・地域との連携を深め、個に応じたオープンなカリキュラムを編成する。
- 意欲を喚起する授業 問題解決やコミュニケーション能力を育てる授業。
- 新たな知的主体の実現 広い視野をもち、自分で考え、自分の人生を歩む主体となる。

#### 校章の由来

金沢総合の” K ” と ” S ” の文字をベースに、自由に羽ばたく鳥をイメージしている。前を向き、大きく羽を広げている姿に、常に明るく前向きでいてほしいという思いを込めている。



## 麻生総合高等学校の開校（平成16年4月1日）

### 柿生西高等学校（全日制 普通科）

〔開校〕 昭和53年4月1日

〔所在地〕 川崎市麻生区片平1778

〔卒業生総数〕 6,655名

〔教育方針・教育活動の特色等〕

- 学習習慣の定着と基礎学力の充実
  - ・基礎学力充実のための小集団学習
  - ・幅広い選択科目の開講
- 基本的な生活習慣の確立とマナーの向上
- 進路意識の向上と進路希望の実現
  - きめ細やかな進路指導
- 地域との連携推進と開かれた学校づくり

〔校章の由来〕

文字をその起源までさかのぼり図案化。それは、自己の学習の目的・意味を根本から吟味し、自身の中に独自の文化を築く誓いの印を意味している。



### 柿生高等学校（全日制 普通科）

〔開校〕 昭和51年4月1日

〔所在地〕 川崎市麻生区王禅寺303-1

〔卒業生総数〕 9,303名

〔教育方針・教育活動の特色等〕

- 学ぶ力、学習習慣、基礎学力の定着・充実
  - 一人ひとりの疑問に答える小集団学習
- 規範意識の向上、基本的な生活習慣の確立
  - いのちと健康の尊重
- 進路意識の向上、進路希望の実現
- 開かれた学校づくりの推進、保護者・地域・関係団体との連携の深化

〔校章の由来〕

八咫鏡に白梅と光芒を組み合わせて作られたもので、八咫鏡は心を映し、白梅は真心を表している。そして光芒は心の強さを表現したものである。



### 麻生総合高等学校（全日制 総合学科）

〔所在地〕 川崎市片平1778

#### 教育方針

- 環境に柔軟に対応し、仕事を創造的に遂行し、生活を豊かにしていくことのできる人間の育成（十年後の自分を目指して、行き先ではなく、生き方を描く）
- 柔軟な教育による「個の確立」、知識を広め自己実現に結びつく「知の発展」、社会の形成者となるための社会性の獲得

#### 教育活動の特色

<三つの総合で豊かな学び>

- 「学びの総合」…ガイダンス科目でキャリア学習（「産業社会と人間」、「総合」、「課題研究」）  
数多くの選択科目で専門学習（情報ビジネス、健康福祉、人間社会、自然環境、表現創造、地域国際の6系列）
- 「学び方の総合」…講義だけでなく体験や実習を大幅に取り入れた授業
- 「学びの場の総合」…大学・短大・専門学校との連携授業、英検などの技能審査、夏休み等の集中講座

#### 校章の由来

6枚ある麻の葉は、総合学科の核となる総合選択科目が6系列で構成されていることを表している。また、6方向に伸びる葉には、生徒が自らの可能性を限りなく広げていってほしいという願いも込められている。麻の葉の中には、「麻生総合」を表す「AS」の文字を伝統的な書体のアルファベットであしらい、歴史に学ぶ姿勢を持ちながら、常に新しいことに取り組む意欲がこめられている。



## 藤沢総合高等学校の開校（平成 16 年 4 月 1 日）

### 長後高等学校（全日制 普通科）

- 〔開校〕 昭和 58 年 4 月 1 日  
 〔所在地〕 藤沢市長後 1909  
 〔卒業生総数〕 5,691 名  
 〔教育目標・教育活動の特色等〕
- 生徒が意欲と関心を持って取り組める授業
  - 厳しさと暖かさをもって生徒に接し、自立を促し、やる気と元気を育成
  - 開かれた学校づくりを推し進め、保護者や地域との信頼関係の構築
  - 1年次の必修科目「ガイダンス」など、将来設計のための「自分さがし」ができる学校

#### 〔校章の由来〕

梅の花は、近くの長後天満宮になじみ深いものであり、同時に CHOGO の C を配し、花卉に五つの教育目標をたくしたものである。



### 藤沢北高等学校（全日制 普通科）

- 〔開校〕 昭和 52 年 4 月 1 日  
 〔所在地〕 藤沢市天神町 2-6  
 〔卒業生総数〕 9,798 名  
 〔教育目標・教育活動の特色等〕
- 学校目標  
誠実・努力・健康を目標に、知・徳・体の調和の上に格調高い人格の形成
  - 地域との交流・連携  
学校行事や部活動の活性化
  - 生徒指導の充実  
生徒指導をさまざまな教育活動と関連づけた指導方法の充実
  - 養護学校との交流会、引地川交流会
  - 手話講習会などのふれあい教育

#### 〔校章の由来〕

知・徳・体を頂点とする山に向かって、翼を拡げて飛び立とうとする若鳥を表したものである。



### 藤沢総合高等学校（全日制 総合学科）

〔所在地〕 藤沢市長後 1909

#### 〔教育方針〕

- 自立した個（広い視野をもって自ら判断し、責任ある行動をとることができる）
- 総合的な知（知識や技能を活用し、新たな可能性を拓くことができる）
- 共生する心（個々の人格と個性を尊重し、共に生きていくことができる）

#### 〔教育活動の特色〕

- 個を生かす多彩な教育  
実践的・体験的学習、一人ひとりの希望に応じた多様な選択科目の設置など弾力的な教育課程の編成。産業社会と人間、課題研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲなどのキャリア教育
- 特色ある教育活動の展開  
生活科学、環境科学、人間科学、ビジネス、生活福祉、人文国際系列等
- 特別活動の活性化・ガイダンス機能の充実

#### 〔校章の由来〕

自立した個（白抜きピース）が総合的な知（楕円）の中で共生する心を形作ることをデザイン化したものである。





## 厚木清南高等学校の開校（平成 17 年 4 月 1 日）

### 厚木南高等学校（全日制/定時制/通信制 普通科）

〔開校〕 昭和 55 年 4 月 1 日

〔所在地〕 厚木市岡田 1-12-1

〔卒業生総数〕 13,676 名

〔教育目標・教育活動の特色等〕

- 学力の充実をめざす教育課程
- 三課程の連携交流
- 盛り上がる南校祭（三課程合同）・体育祭（6月）
- すぐれた芸術にじかに触れる芸術鑑賞会

〔校章の由来〕

放物線で厚木ミナミの M をデザイン化したものである。



### 厚木清南高等学校（フレキシブルスクール 全日制/定時制/通信制 単位制普通科）

#### 教育目標

解決困難な課題を抱える 21 世紀の日本および国際社会の中で、主体的に学び感性を豊かに他者と共に生きることを通して、自律した有為な人間を育成する。

#### 教育方針

- 生徒一人ひとりが学ぶ内容を選び、自らに適した形で深く学修を進めることにより、自らの可能性を見出し個性の伸長を図ることのできる教育
- 多様な学習者が共に学ぶ場において、コミュニケーション能力を伸ばすとともに、他者への理解を深めることによって、社会の一員としての自覚を育成
- 国際・情報・科学・芸術等の諸分野において、多様な内容の生涯学習の機会を県民に提供
- 本校の学び方と学びの内容を活かそうとする者の、連携・編入学等における受け入れ
- 文化・スポーツの充実した諸活動の場を形成

#### 教育活動の特色

- 全日制・定時制の 12 時間の時間帯に通信制の学びのシステムを加えた、全国で唯一の 3 課程一体の単位制普通科高校、フレキシブルスクール
- 一人ひとりが綿密なガイダンスのもとで、学習計画をデザインする、個別の時間割を作成

#### 校章の由来

大空の下、清流、相模川のながれをモチーフとして、無限に発展していくダイナミズムを表す。空の色は伸びゆく様子、水の色はたゆみない努力を続けるようすを象徴している。



## 神奈川総合産業高等学校の開校(平成 17 年 4 月 1 日)

### 相模台工業高等学校(全日制 機械科・電気科・ 化学科/定時制 機械科・電気科)

〔開校〕 昭和 37 年 4 月 1 日

〔所在地〕 相模原市文京 1-11-1

〔卒業生総数〕 15,408 名

〔教育目標・教育活動の特色等〕

○機械科と電気科はさらに機械技術・電子機器・エネルギー制御及び電気・電子・情報の各コースに分化

○平成 6 年 第 73 回全国高校ラグビーフットボール選手権大会初優勝

平成 7 年 第 74 回全国高校ラグビーフットボール選手権大会 2 連覇

平成 12 年 第 12 回全日本ロボット相撲大会全日本の部全国大会準優勝

〔校章の由来〕

中央の工高の文字は、大空をさして伸びゆく理想と限りない創造の精神を表し、この理想実現のために、友愛と協力の姿を左右の塊で表している。



### 相模原工業技術高等学校(全日制 機械科)

〔開校〕 昭和 48 年 4 月 1 日

〔所在地〕 相模原市光が丘 2-18-1

〔卒業生総数〕 4,133 名

〔教育目標・教育活動の特色等〕

○1 年次は機械についての共通の基礎教育を行い、2 年次以降は電子機械、情報技術、自動車技術の 3 コースに分かれる。

○希望者には講習会を行い、製図検定・ガス溶接技能者・アーク溶接技能者・情報技術検定・ラジオ音響技能検定・デジタル技術検定・危険物取扱者・計算技術検定などの資格が取得可能

〔校章の由来〕

校章の輪郭は、相模の「さが三つ」、若さの「ワカサ」を図案化し、また、コンパスは技術を、その V 字形は職業 (Vocation) を表現している。



### 神奈川総合産業高等学校(単位制による全日制 総合産業科/定時制 総合学科)

〔所在地〕 相模原市南区文京 1-11-1

〔教育方針〕

新たな産業の創出や科学技術の進展に主体的に関わる人材の育成

〔教育活動の特色〕

○新しいタイプの単位制の工業高校で、1 年次は全員同じ科目を学習。2 年次から自動車系・機械系・電気系・環境化学系・理工系に分化。3 年次にはさらに 8 コースに分かれ、専門分野の学習を深める。理工系・コースは大学の一般受験の挑戦が目標で、数・理・英をより充実させるカリキュラムを設置

○資格取得のための講習会も数多く開催

○部活動では社会部がソーラーカーレースで全国優勝。電気部やアマチュア無線部など工業系の部の活躍が顕著

〔校章の由来〕

全日制・定時制生徒、教職員の投票で選ばれたデザイン。創立当初から LiSA のイメージとして使われていた蝶を中心に(羽にイニシャルが散りばめられている)英語表記の校名がぐるりと囲んだ斬新なデザインである。



## 横浜緑園総合高等学校の開校（平成 20 年 4 月 1 日）

### 岡津高等学校（全日制 普通科）

〔開校〕 昭和 52 年 4 月 1 日

〔所在地〕 横浜市泉区岡津町 2667

〔卒業生総数〕 10,877 名

〔教育目標・教育活動の特色等〕

○開放的で自由な校風

自主・自立の精神を基調に、明るく、たくましい個性の伸長、自由でのびのびした校友づくり

○自由選択制と多様な選択科目

2 年次で必修選択、3 年次では、多くの実習科目を含む大幅な自由選択

○多様な学校行事

体育祭、緑園祭、合唱祭、男子ラグビー大会、女子ハンドボール大会など

〔校章の由来〕

柏尾川にちなみ結び柏を校章に、三つ葉は、重厚・堅実・若さの校風、知・徳・体の調和、職員・父母・生徒の協力、緑色は希望、白ぶちは純真を表している。



### 和泉高等学校（全日制 普通科）

〔開校〕 昭和 55 年 4 月 1 日

〔所在地〕 横浜市和泉区泉町 2563

〔卒業生総数〕 7,421 名

〔教育目標・教育活動の特色等〕

○「探求・錬磨・友愛」を目標に、行き届いた指導で、希望あふれる教育の実現

○英語、数学などで小集団学習

○3 年次では、自然科学、福祉、文化教養、国際理解の 4 類型に分かれた選択科目群 プラス自由選択による学習

○朝の読書活動

○1 年次からのていねいな進路指導

〔校章の由来〕

泉の無限を願い、単純簡潔具体具象。写実力燦然の字姿を校風として求め、甲骨文字より象形文字、篆書より明朝活字体と端正な校章の字姿に至る。



### 横浜緑園総合高等学校（全日制 総合学科）

所在地 横浜市泉区岡津町 2667

教育方針

- 学びへの意欲の向上と成就感を体験させる学習活動
- 個別の学習指導や学習ガイダンス機能の充実
- キャリア教育の推進とともに個別の進路指導の充実
- 地域教育力を活用し、生徒の興味・関心などに応じた多彩な学習内容の展開
- 部活動・学校行事・生徒会活動など、異年齢集団による豊かな人間関係づくりを展開

教育活動の特色

- キャリア学習 MIRAI 1 年次（産業社会と人間）、2 年次（総合）、3 年次（総合）
- 6 系列の多彩な選択科目 文化教養、国際理解、自然環境、情報ビジネス、生活福祉、健康スポーツ
- 自分の枠を広げるグリーンアクション、部活動、スタッフ活動、地域貢献活動、ボランティア活動

校章の由来

県の鳥であるカモメを用い、横浜の Y に見立てた。大きく翼を開いて飛び立つ姿から、大空を舞うカモメのように自由に社会に羽ばたき、力強く未来を開いてほしい、という思いが込められている。また、横浜の港のカラーであるブルーとグリーンをあわせたことで、緑あふれる街、緑園都市のイメージをプラスした。



## 秦野総合高等学校の開校（平成 20 年 4 月 1 日）

### 秦野南が丘高等学校（全日制 普通科 一般・生涯スポーツコース）

〔開校〕 昭和 56 年 4 月 1 日

〔所在地〕 秦野市南が丘 1-4-1

〔卒業生総数〕 9,433 名

〔教育目標・教育活動の特色等〕

○教育目標

- ・基礎学力の充実・向上を図り、個人の能力・適性に応じた指導を徹底
- ・健全な体力・気力の育成
- ・自然・文化を愛する豊かな情操と誠実で思いやりある人格の育成

○習熟度別・少人数学習、多様な選択科目

「伝統文化」、「天体観測」、「救急法」など

○ボランティアバンク等地域に開かれた学校

〔校章の由来〕

南が丘の頭文字mをデザイン化し、上手のmは丹沢山系を、下部は水系をあらわす。構図は3つの正方形を組み合わせ、生徒を中心に、学校、家庭の協力を表している。



### 大秦野高等学校（全日/定時制 普通科）

〔開校〕 大正 15 年 4 月 10 日、秦野町立実科女学校として創立。昭和 25 年 4 月 県立大秦野高等学校となる。昭和 56 年男女共学実施。平成 7 年創立 70 周年記念式典挙行。

〔所在地〕 秦野市桜町 2-1-7

〔卒業生総数〕 16,529 名

〔教育目標・教育活動の特色等〕

○めざす学校・めざす教育

- ・明るく楽しく生き生きと自己の能力・才能を伸長する学校
- ・生徒の将来に責任を持つ教育
- ・未来を担う、知徳体豊かに力を備えた人材を一人ひとり大切に育む学校

○30 人編成など少人数クラスでわかる授業

○自己を理解し、将来を設計する学び

〔校章の由来〕

八咫鏡（やたのかがみ）は「学んで人の鑑とならん」の意欲を、交差直線は、秦野にゆかりのある豪族波多野氏の“二本箸の切り違い紋”を表している。



### 秦野総合高等学校（全日/定時制 総合学科）

所在地 秦野市南が丘 1-4-1

教育方針

- 確かな学力と豊かな創造力の育成
- 礼節を知り、何事にも情熱を傾け、努力研鑽を惜しまない態度の育成
- 豊かな情操と誠実で思いやりのある人格の形成
- 地球環境の改善・保全および持続可能な社会をめざす積極姿勢の育成

教育活動の特色

- 総合学科の学び 生涯スポーツ、造形表現、自然環境、生活福祉、人文国際、情報科学の 6 系列などから、自分の興味や進路に応じた幅広い科目選択
- ボランティア活動 全生徒がボランティアバンクに登録、地域の福祉や防犯に貢献。単位認定制度
- 恵まれた環境 県内唯一の天文台設備。丘陵上で風光明媚。周辺は幼、小、中など文教地区
- 部活動 陸上、女子ソフトテニス、合唱部等の全国大会など部活動活発

校章の由来

秦野南が丘と大秦野が統合されたので、上部に二つの「秦」を図式化して配置した。そして、上部は丹沢山系の山並み、下部は、なだらかに流れる水無川をイメージしている。全体のイメージは、秦野総合高等学校を中心に水滴が落ちて波紋が広がるように社会の中に影響を与えてくれるという意味をもっている。



## 横浜国際高等学校の開校（平成 20 年 4 月 1 日）

### 六ツ川高等学校（全日制 普通科 一般・情報科学コース）

〔開校〕 昭和 62 年 4 月 1 日

〔所在地〕 横浜市南区六ツ川 1-731

〔卒業生総数〕 4,733 名

〔教育目標・教育活動の特色等〕

#### ○情報科学コース

- ・一人一台のコンピュータを使い、教員 2 名体制で情報教育を行う。
- ・プログラミング、データベース、インターネット、ホームページ作成等の学習

#### ○国際理解教育

英語を重点科目として学習するとともにドイツ語、フランス語、中国語を選択可

○「県立高校百校計画」における百校目相当の高等学校として開校した。

〔校章の由来〕

校名の由来から、六つの谷川が合い力に満ちた大河となって流れるさまをデザインしたもので、団結と連帯をあらわしている。



### 外語短期大学附属高等学校 （全日制 貿易外語科）

〔開校〕 昭和 40 年 4 月 1 日

〔所在地〕 横浜市磯子区岡村 4-15-1

〔卒業生総数〕 6,621 名

〔教育目標・教育活動の特色等〕

#### ○自由と自律

○「外国語」や「国際」に関する専門教育

- ・多数の英語の選択科目を履修
- ・ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語の中から 1 科目必修選択
- ・「インターナショナル コミュニケーション」必修＋「国際関係」「国際理解」「国際情報理解」等の選択科目

○きめ細かい帰国生徒教育 ○ノーチャイム

○English Camp の実施 ○α 祭（文化祭）

〔校章の由来〕

Language（言語）の L を図案化し文字の最初の文字である α

にも通じさせ、世のさきがけ

の意味も表すものとして定められた。



### 横浜国際高等学校（単位制による全日制 国際情報科）

〔所在地〕 横浜市南区六ツ川 1-731

#### 〔教育方針〕

自主自立の精神を涵養し、豊かな人間性を育み、冷静な判断力を備えた品格ある生徒を育成

#### 〔教育活動の特色〕

- 単位制による全日制的課程 神奈川県唯一の国際情報科
- 各年次 4 クラス 480 名（帰国生徒特別枠を含む）50 分 7 限を基本とした弾力的な授業時間
- 進路希望や興味・関心に基づく科目選択
- 高度な英語教育 第二外国語必修選択 英語合宿
- 国際教育、外国の姉妹校との交流
- 充実した ICT 教育

#### 〔校章の由来〕

「YIS」と円（地球）を基本に、未来に向かって飛躍・躍動する生徒の姿をイメージし、全体のフォルムで、「自主・努力・創造」「高い知性・豊かな感情・強い意思」「豊かさ」と優しさを育てながら、夢に向かってチャレンジする姿をイメージしてデザインされた。





## 海洋科学高等学校の開校（平成20年4月1日）

三崎水産高等学校《全日制 本科（漁業生産科・食品産業科・水産工学科・情報通信科）・  
専攻科（漁業生産科・水産工学科・情報通信科）》

〔開校〕昭和19年4月1日

〔所在地〕横須賀市長坂1-2-1

〔卒業業者数〕6,661名

〔教育目標・教育活動の特色等〕

○校訓

海に親しみ、海を理解しよう

○本科には漁業生産・食品産業・水産工学・情報通信の各科、専攻科に漁業生産・水産工学・情報通信の各科がある。

○実習船「湘南丸」（646トン）、「わかしお」（19トン）を保有。その他13艘を保有し、訓練に使用

〔校章の由来〕

水産系大学及び他の水高のそれと同様、水産の「水」の字をかたどった図案であり、中に神奈川の「神」を入れてある。



海洋科学高等学校《単位制による全日制 本科（海洋科学科）・

専攻科（漁業生産科・水産工学科・情報通信科）》

教育方針

校訓として「海を知り、海を守り、海を拓く」を掲げる。

教育活動の特色

○スペシャリストとして、将来、海洋関連産業で活躍できる人材の育成

○海洋を学びの場とし、海洋におけるさまざまな体験学習や学校生活などにおいて協調性、自立性心豊かな人間性、望ましい社会性を育成

○大型実習船、湘南丸による約2ヶ月の乗船実習

○マリンスポーツ実習

校章の由来

東西南北の四方向を示す星型で地球全体をあらわし、その上の錨は、地球の大海原を航海する船・海洋をイメージした。外側の青は空を、内側の緑は、海を作る山をイメージしたもので、海・空・陸の自然を表現した。



## 横須賀明光高等学校の開校（平成 20 年 4 月 1 日）

### 久里浜高等学校（全日制 普通科）

〔開校〕 昭和 59 年 4 月 1 日

〔所在地〕 横須賀市佐原 4-20-1

〔卒業生総数〕 6,058 名

〔教育目標・教育活動の特色等〕

○黒船ゆかりの地として、基礎学力の充実をはじめ、広く国際社会人としての個性豊かな人材を育成する。

○総合学習的な学習の時間の充実

○福祉教育の充実

○多様な選択科目

「社会福祉基礎」「ボランティア学習」「文書処理基礎」「テーマ日本史」「テーマ地理」「テーマ世界史」「教養社会」「ラピッドリーディング」「スポーツ実践研究」等

〔校章の由来〕

黒船の舵輪を周囲に配し、内側に大洋を表す波頭をもって、久里浜高校に学ぶ生徒が、無限の可能性を秘めて大海原にのり出す願いが込められている。



### 岩戸高等学校（全日制 普通科）

#### 一般・外国語コース

〔開校〕 昭和 61 年 4 月 1 日

〔所在地〕 横須賀市岩戸 5-6-5

〔卒業生総数〕 5,298 名

〔教育目標・教育活動の特色等〕

世界に開かれた視野を培い、国際性に富む人間を育成する。

○地域に根ざした自然科学教育の展開・実用的英語教育と国際理解教育

○アメリカや韓国の高校との姉妹校交流

○国際理解教室、視聴覚室、LL教室（語学演習室）、セミナー室、自然科学教室、コンピュータ室（情報教育教室）の整備

〔校章の由来〕

「岩戸」の頭文字「I」を三つ組み合わせた。「I」に本校の目指す、Independence（自主）、Intelligence（知性）、Internationality（国際性）を表徴している。



### 横須賀明光高等学校（単位制による全日制 国際科・福祉科）

〔所在地〕 横須賀市佐原 4-20-1

〔教育方針〕

日本文化を発信し異文化を受信できる人の育成

〔教育活動の特色〕

○専門学科である「国際科」・「福祉科」を設置。専門学科ながら、幅広い進学希望に対応するため多様な選択科目を設置し、単位制による教育課程を編成している。

○各自の学習目的や進路希望に応じた科目を選択し、履修する。特に 2 年次以降、1/2 以上の時間帯で個別の科目選択が可能

○国際科・福祉科ともにコミュニケーション能力を身につけることを目指す。

〔校章の由来〕

右上にある形は、学校名「明光」の「光」の部分イメージして描かれ、周りから中心付近に伸びていく渦は、国際科・福祉科で共通に育成する能力である「コミュニケーション」がイメージされている。

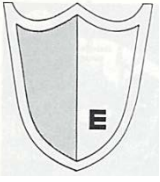


**弥栄高等学校の開校（平成 20 年 4 月 1 日）**

**弥栄東高等学校（全日制 普通科  
一般・音楽・美術コース）**

〔開校〕 昭和 58 年 4 月 1 日  
 〔所在地〕 相模原市弥栄 3-1-9  
 〔卒業生総数〕 6,833 名  
 〔教育目標・教育活動の特色等〕  
 ○隣接する弥栄西高との連携（授業、部活動）  
 ○約 100 科目の選択科目を両校生徒が選択  
 ○野外音楽堂での弦楽 4 重奏の発表などアカデミックな雰囲気  
 ○美術コースの発表会 絵画・塑像の展示  
 動画と人とのコラボレーションなど

〔校章の由来〕  
 盾の形は、弥栄の頭文字 Y を二つ組み合わせたもので、右に E を配して東高を表し、東西 2 校が連携して、お互いに助け合い、個性を伸ばしつつ発展していく姿を表している。



**弥栄西高等学校（全日制 普通科  
一般・体育・外国語コース）**

〔開校〕 昭和 58 年 4 月 1 日  
 〔所在地〕 相模原市弥栄 3-1-8  
 〔卒業生総数〕 6,839 名  
 〔教育目標・教育活動の特色等〕  
 ○隣接する弥栄東高との連携（授業、部活動）  
 ○WE フェスティバル（文化祭）、体育祭、球技大会は東西一緒に行う。  
 ○外国語コース、体育コースの発表会  
 ○メリーランド州ハイポイント高校との姉妹校提携、ホームステイの実施

〔校章の由来〕  
 盾の形は、弥栄の頭文字 Y を二つ組み合わせたもので、左に W を配して西校を表し、東西 2 校が連携して、お互いが助け合い、個性を伸ばしつつ発展していく姿を表している。



**弥栄高等学校（単位制による全日制 国際科・芸術科・スポーツ科学科・理数科）**

〔所在地〕 相模原市中央区弥栄 3-1-8  
 〔教育方針〕  
 教えを生きた学びに発展させ、自立自尊の人間を育成

〔教育活動の特色〕  
 ○国際科・芸術科（音楽専攻・美術専攻）・スポーツ科学科・理数科の集合型専門高校、キャリア教育・部活動・異年齢・学科間交流を推進する。  
 ○神奈川県学力向上推進及び特色ある高校づくり推進事業で「スーパーサイエンスハイスクール」指定を受ける。  
 ○高等学校教育力向上推進事業において、「スペシャリスト人材育成」および「理数科学教育」の指定を受ける。

〔校章の由来〕  
 盾は、弥栄の「y」を合わせたもので心身の調和を表すもの。左に弥栄ブルー、右に学科色のストーンを配置した。弥栄に集う若人は、心豊かで、世界に開かれた視野をもってほしい。弥栄高校はそのような人間像を「弥栄びと」と名付け、校章に託した。



## 横浜栄高等学校の開校（平成 21 年 4 月 1 日）

### 上郷高等学校（全日制 普通科）

〔開校〕 昭和 58 年 4 月 1 日

〔所在地〕 横浜市栄区上郷町 555

〔卒業生総数〕 8,022 名

〔教育目標・教育活動の特色等〕

#### ○教育目標

- ・適性と創造性の開発をはかる。
- ・心身の鍛練をはかる。
- ・奉仕の精神の育成をはかり、他人を尊重する人間をつくる。

#### ○ふれあい教育

- ・夏期フィールドワーク（体験学習）
- ・せせらぎ交流会（三世代交流事業）
- ・青年海外協力隊 OB の方々との交流会
- ・福祉技術講習会

#### ○上郷祭（6 月体育祭・9 月文化祭）

〔校章の由来〕

教育目標の「適性の開発」、「心身の鍛練」、「奉仕の精神」を 3 本の線に託し、この精神を踏まえた本校の躍進する姿を翼になぞらえ、それを形象化した。



### 港南台高等学校（全日制 普通科）

〔開校〕 昭和 48 年 4 月 1 日

〔所在地〕 横浜市港南区港南台 9-18-1

〔卒業生総数〕 11,518 名

〔教育目標・教育活動の特色等〕

#### ○清新澁澗とした校風を樹立する。

#### ○興味や適性を考えたきめ細かい進路指導

#### ○総合的学習の時間（5 分野 24 講座の設置）

英字新聞を読む、自然観察入門、保育園実習、合唱、異文化研究、囲碁の世界等

#### ○多彩な行事

港南祭、デイキャンプ、芸術鑑賞会、スポーツ大会、スケート教室、尾瀬自然教室、スキー教室、百人一首大会、合唱コンクール

〔校章の由来〕

神奈川県立・港南台・高校の頭文字「K」と清新澁澗とした校風を県木であるいちょうをあしらひ、デザイン化している。そして、その全体は、人体の躍動的な動きを表出している。



### 横浜栄高等学校（全日制 単位制普通科）

〔所在地〕 横浜市栄区上郷町 555

#### 〔教育方針〕

確かな学力の伸長 ・ 豊かな人間性の涵養 ・ 健やかな心身の育成

#### 〔教育活動の特色〕

○個性を伸ばし、自分の生き方・学び方を見つけよう。

30 人編成クラス ・ 45 分×7 時限授業

○出会いを大切にし、感動ある高校生活を送ろう。

部活動・学校行事の充実 ・ 夏季体験学習

○目的をもって学習し、確かな進路を選択しよう。

学習キャンプ ・ 3SDay (Special Self-Study Day) ・ きめ細かい進路指導

#### 〔校章の由来〕

横浜の頭文字「Y」の形を成長する双葉と鳥の翼に見立て「きらめく」「ときめく」「はばたく」を象徴している。また翼が自らの力で起こす風を「栄」の頭文字「S」で描き生徒が互いに支え合いながら未来創造空間を築いていく様子を表現している。



## 小田原総合ビジネス高等学校の開校(平成 20 年 4 月 1 日)

### 小田原城東高等学校(全日制 商業科・ 国際経済科・情報処理科)

〔開校〕 県立小田原女子高等学校は大正 10 年足柄実科女学校として足柄村多古に創立。昭和 26 年 3 月県立小田原女子高等学校となる。県立小田原商業高等学校は昭和 2 年私立小田原商業学校として小田原市幸町に創立。昭和 26 年 4 月両校を統合して県立小田原城東高等学校となる。

〔所在地〕 小田原市東町 4-12-1

〔卒業生総数〕 22,080 名

〔教育目標・教育活動の特色等〕

- 商業科では簿記会計・計算事務・商業法規・タイプライターなどに重点をおく。
- 情報処理科では簿記会計・商業法規の他にコボルやフォートラン、ベーシックなどの言語も学習

〔校章の由来〕

校章は波とペンと聖火をあしらい、世界の朝を呼ぶ太平洋と勉強へのあくなき意欲、スポーツマンシップの涵養の願いを象徴している。



### 湯河原高等学校(全日制 普通科)

〔開校〕 昭和 55 年 4 月 1 日

〔所在地〕 足柄下郡湯河原町吉浜 1576-31

〔卒業生総数〕 5,848 名

〔教育目標・教育活動の特色等〕

- 相模灘に臨む校舎に展示ホールや対談コーナー、二つの海洋科学教室を設置
- 第 1 海洋教室には大型水槽 3 基、予備水槽 1 基を備える。第 2 海洋教室には風速計・風向計の自動記録装置、水波実験装置、海底地形模型などを備え、それぞれ海洋生物の観察・調査や気象・海象などについて学習
- 入学時より、不得意・苦手な教科科目をなくす授業展開

〔校章の由来〕

椿の若葉をデザインしたもので、三枚の葉に知・徳・体の調和的発達を託すとともに、気力、体力、学力の充実向上の願いがこめられている。



### 小田原総合ビジネス高等学校 (全日制 総合ビジネス科)

〔所在地〕 小田原市東町 4-12-1

#### 教育方針

新しい時代のビジネスに対する望ましい心構えや理念・倫理観・正義感を身につけ、問題発見・解決提案の能力を持ち、自立とチャレンジの精神に富んだ、創造力豊かな次世代を担う人材としての資質を養成

#### 教育活動の特色

高校入学時「総合ビジネス科」で生徒募集、2年次から「流通」「会計」「情報」「国際」「教養」の 5 系から一つを選択。ビジネス(商業)科目の基礎・基本を学習した後、自分の興味・関心や進路希望に応じた科目選択

#### 校章の由来

波は相模灘をあらわし、世界の朝を呼ぶ太平洋にのぞんだ本校の環境の明美さを示し、ペンは勉強へのあくなき意欲を象徴し、聖火は国際オリンピック大会で、もやされる神聖の聖火として、スポーツによる心身の鍛錬を求めている。





## 平塚湘風高等学校の開校（平成 21 年 4 月 1 日）

### 神田高等学校（全日制 普通科）

- 〔開校〕昭和 55 年 4 月 1 日  
〔所在地〕平塚市田村 3-13-1  
〔卒業生総数〕7,643 名  
〔教育目標・教育活動の特色等〕
- 3つの類型選択科目群の設置
    - ・国際情報・ビジネス系・人文科学・表現系
    - ・生活・福祉・環境系
  - 1学年から「自由選択科目」
  - 1学年では「職業と自分（産業社会と人間）」を学習。福祉講話、施設訪問等を通じて自分の進路を考える。
  - 検定取得を目指す ワープロ検定、ペン字漢字、簿記等
  - 文化祭（9月）、マラソン大会（11月）
  - ウエイトリフティング部インターハイ、国民体育大会出場

#### 〔校章の由来〕

校名のイニシャル、その直線は剛毅を、曲線は優美を表し、調和のとれた人格の形成を目指す。また、曲線の先端は天と地の悠久性を表している。



### 五領ヶ台高等学校（全日制 普通科 一般・外国語コース）

- 〔開校〕昭和 52 年 4 月 1 日  
〔所在地〕平塚市片岡 991-1  
〔卒業生総数〕11,459 名  
〔教育目標・教育活動の特色等〕
- 生涯教育を見据えた教育
  - 「総合的な時間（ディスカバリータイム）」では国際文化等7つのテーマで参加体験を中心とした授業を展開
  - CALL 教室や語学研修室を使った授業
  - 海外姉妹校交流 英語合宿 ホームステイ
  - 大学との連携・交流
  - 陸上競技大会（6月）、五領祭（9月）、スポーツフェスティバル（9月）、外国語フェスティバル（10月）、マラソン大会（11月）、百人一首大会（1・2年）

#### 〔校章の由来〕

山鳩の多く棲む五領ヶ台丘陵に高く飛翔する若人を表現している。校名の頭文字 G に由来して造形された。



### 平塚湘風高等学校（全日制 単位制普通科）

所在地 平塚市田村 3-13-1

校訓 自主・自律 誠実 創造

#### 教育目標

自主・自律の精神に満ち、誠実さと努力をと尊ぶ、たくましく心豊かな創造者を育成する。

#### 教育方針

- 自主的・意欲的で真摯な学習態度を育成し、確かな学力の定着と進路希望の実現を目指す。
- 特色ある分野に多様な科目を設置し、体験的な学習を重視しながら個性の伸長と創造性の育成を目指す。
- 文化・スポーツ活動を推進し、豊かな情操と健やかな身体を育む。
- 地域社会との連携や特色ある学校行事等を活性化させ、コミュニケーション能力に富み、礼儀正しく澁刺とした明るく爽やかな人格の形成を目指す。
- 国際理解教育を推進し、共に学び行動することにより国際的な視野と豊かな心を育む。

#### 校章の由来

校訓である「自主・自律」と「誠実」の精神を天に伸びゆく2本の柱に象徴させ、「創造」をS字形の吹きぬける風で描き、湘南の地で希望と期待を胸に学ぶ姿を表現したもの。全体を平塚の「H」、湘南の「S」を組み合わせた形にまとめている。



## 座間総合高等学校の開校（平成 21 年 4 月 1 日）

### 栗原高等学校（全日制 普通科）

〔開校〕 昭和 56 年 4 月 1 日  
〔所在地〕 座間市栗原 2487  
〔卒業生総数〕 7,614 名  
〔教育目標・教育活動の特色等〕  
豊かさを培う。

#### ○授業

- ・丁寧でわかりやすい授業
- ・1年次の「国語総合」、「オーラルコミュニケーション」は15名クラス
- ・「数学Ⅰ」「英語Ⅰ」は習熟度別クラス

#### ○キャリア教育

- ・自己理解、進学体験学習の実施等

#### ○ボランティア活動

- ・近隣小学校でのレクレーションボラなど

#### 〔校章の由来〕

菱型の四辺に囲まれた中に校名「クリ」の字を表し、辺は教育方針の「賢さ」・「遅しさ」・「優しさ」と、それらの調和を角で表している。



### ひばりが丘高等学校（全日制 普通科 一般・国際教養コース）

〔開校〕 昭和 62 年 4 月 1 日  
〔所在地〕 座間市ひばりが丘 3-58-1  
〔卒業生総数〕 5,729 名  
〔教育目標・教育活動の特色等〕  
国際理解教育を推進し、実践的な語学力を高める。  
○アメリカ及びオーストラリアに姉妹校  
○「フランス語」「スペイン語」「中国語」「国際関係史」「時事問題」「LL」等の特色ある科目  
○「県立高校百校計画」における百校目相当の高等学校として開校

#### 〔校章の由来〕

大空にヒバリが天高く翔る姿を図案化したもので、空の青色は宏大無辺の大空と若人の無限の可能性、ひばりの白色ははげがれのない清楚な心を表している。



### 座間総合高等学校（全日制 総合学科）

所在地 座間市栗原 2487

#### 教育方針

- 向学心に富み、感性豊かに自立し、国際社会に寄与する人材の育成
- キャリア教育のより充実した支援 = 強い目的意識に基づいた進路への意思決定支援
- 国際理解教育の積極的な展開 = 語学だけでなく国際的視野の育成

#### 教育活動の特色

- 多様な進路、特に進学に対応したカリキュラム  
= 学力向上、進学重視の選択科目設定。また、就職希望者への手厚い支援
- 少人数教育 = 1年次 30人クラスなど
- サポート7 = 半期完結型の数学、英語（ハイクラスとスタンダードの別あり）の補習授業
- 多彩な外国語教育 = 3年間で最大 35 単位分の外国語授業

#### 校章の由来

座間市の市花であるひまわりの花を純化した「黄色い円」の内側にデザイン化した地球を配す。座間市を代表する文字として「Z」を地球の左半分に配す。外円と内円の間到校名の略称「ZAMASOGO」（座間総合）を配す。左右に教育活動の柱である「国際理解教育」と「キャリア教育」を象徴する二つの星を置く。



## 藤沢清流高等学校の開校（平成 22 年 4 月 1 日）

### 大清水高等学校(全日制 普通科)

〔開校〕 昭和 54 年 4 月 1 日

〔所在地〕 藤沢市大鋸 1450

〔卒業生総数〕 10,566 名

〔教育目標・教育活動の特色等〕

「チーム大清水」で学業と部活動の高いレベルでの両立を目指す。

- 朝の読書活動 ○ジャストタイム
- NPO との協働で太陽光発電設備設置、サイエンスパートナーシップ事業、文化庁の学校への芸術家派遣事業
- 川沿いの菜の花、ひまわりを育てる「クリーン・グリーン」活動等での大清水小学校・大清水中学校との三校連携事業
- 神奈川県活ドリム大賞連続受賞
- 女子ソフトテニス部全国大会出場
- 男子女子サッカー部関東大会同時出場

〔校章の由来〕

円形のふちどりは、アルファベットの「O」で「大」に通じ、中ほどの「S」は、「清水」の「S」、  
「H」は「高校」の「H」を表している。



### 藤沢高等学校(全日制 普通科)

〔開校〕 大正 14 年 2 月、藤沢実科女学校として創立。昭和 3 年に藤沢高等女学校、昭和 16 年に藤沢市立藤沢高等女学校と校名改称。昭和 26 年 4 月に県立藤沢高等学校となる。

〔所在地〕 藤沢市本町 4-8-50

〔卒業生総数〕 16,919 名

〔教育目標・教育活動の特色等〕

- 2 年次より、自由選択科目設置
- 小集団学習(国・0C1)、習熟度別授業(英数)
- 特色ある科目「気功」「環境科学」「器楽」
- 藤高検定
- 文教大学等との高大・高専との連携
- 箏曲部全国大会連続出場、全国高等学校総合文化祭日本音楽部門文化連盟賞受賞(21)
- 藤高祭(9 月)、球技大会(12 月)、遠足 2 回

〔校章の由来〕

高等女学校時代は八咫鏡の形の上に、向上心を象徴する上り藤(沢)を配し、その中に「高女」。現在は鏡がなくなり文字は「高」の一字になった。



### 藤沢清流高等学校（全日制 単位制普通科）

所在地 藤沢市大鋸 1450

**教育目標** 自律・自立・協働

**教育宣言** 私たちは、世界や人との豊かなつながりを持つ自立した社会人を育てるために、質の高い教育を提供し、生徒が自らを鍛える教育環境をつくります。

**教育活動の特色** 一人ひとりを鍛える単位制高校（学業と部活動の高いレベルでの両立）

- キャリアをつくる 必履修科目「セルフプレゼンテーション」で学習に向かうモチベーションを高める、「朝の読書活動」、大学や NPO との連携、系の科目「教育実践」「美術館学入門」等
- 学びをつくる 探究科目群で第一志望の進路実現、自習教室（3 部屋）、SPP 事業
- 生きるをつくる 部活動実践推進事業（メンタルトレーニング、スポーツ栄養指導）、清流祭等

**校章の由来**

「キャリア」と「学び」を学校の前を流れる境川の流れに例えて描き、「生きる」を河原に咲く草花に託し、生徒の個性と才能の伸長を図る学校を表現している。草花が作る円に「地球」のイメージを重ね合わせ、キーワードは、「グローバル社会」「地球環境」「国際交流」、そして、ひたむきな小さな草花が、大きな地球的規模にまで広がっていくイメージを表現している。



## 相模原青陵高等学校の開校（平成 22 年 4 月 1 日）

### 相武台高等学校(全日制 普通科)

- 〔開校〕 昭和 54 年 4 月  
 〔所在地〕 相模原市新磯野 468  
 〔卒業生総数〕 10,171 名  
 〔教育目標・教育活動の特色等〕  
 豊かな個性・平和と連帯・地域に信頼される学校
- 基礎的な学力、知識を身に付けるための必修科目を核に、多くの選択科目を用意
  - 3年の総合的な学習の時間では各自のテーマに取り組む。
  - 少人数学習 ティームティーチング 校外学習 補習
  - フォスタープラン等の福祉活動
  - 体操部インターハイ・国体出場、水泳部関東大会出場 ○体育祭、青陵祭

#### 〔校章の由来〕

ケヤキが天に向かって腕を伸ばし掌を広げる樹形は、若者の憧憬の象徴であり、校章にデザインされたケヤキの3枚の葉には「三知」の意を託している。



### 新磯高等学校(全日制 普通科)

- 〔開校〕 昭和 61 年 4 月  
 〔所在地〕 相模原市新戸 2607-2  
 〔卒業生総数〕 5,382 名  
 〔教育目標・教育活動の特色等〕  
 高い知性と豊かな情操をそなえ心身ともに健康で良識ある社会人としての資質を育成する。
- 少人数授業や進路希望に合わせた多くの選択科目で基礎学力の充実
  - 進路ノート「道標（みちしるべ）」を使ったきめ細かい進路指導
  - 時代のニーズに対応した選択科目の充実
  - 開かれた学校づくりの推進の一環としての「陶芸」の開講、スポーツフェスタ、縄河祭

#### 〔校章の由来〕

本校の周辺から出土する縄文土器をモチーフに校名の頭文字 A を組み入れ、4つの円に知性・情操・健康・良識の教育目標を表現している。



### 相模原青陵高等学校(全日制 単位制普通科)

所在地 相模原市新磯野 468

学校目標 共感と自立をこころに刻み新しい多様性のある社会を担う中核となる人材の育成

教育活動の特色 <Set Out for Radiant Air 翔びたて輝く空へ！>

- SORA の学び 朝 15 分のデイリーワーク 週 1 回のグループワーク 習熟度少人数学習
- 表現教育 特色ある系の科目「ミュージカルアーツ」「ダンスアーツ」「メディアアーツ」「芸術と科学」「保健福祉実習」「Web ページデザイン」「ネットワーク技術」等
- 多文化共生教育 特色ある系の科目「多文化フィールドワーク」「日本語と文化」「多言語理解 A・B」「多言語と多文化社会学」「アジア文化理解」、CEMLA 多文化学習活動センター活動
- 部活動 多文化交流部、吹奏楽部、野球部、サッカー部、ボクシング部、チアリーディング部等

#### 校章の由来

SORA は相武台、新磯両校の生徒による SI(スクールアイデンティティ)プロジェクトが考案した本校の愛称で、Set Out for Radiant Air～翔びたて輝く空へ～のキャッチフレーズの頭文字である。



## 川崎工科高等学校の開校（平成 22 年 4 月 1 日）

### 川崎工業高等学校(全日制 機械科・電気科・化学科)

[開校] 昭和 16 年 4 月 県立川崎工業学校創立  
昭和 23 年 4 月 県立川崎工業高等学校と改称  
昭和 24 年 9 月 川崎市立工業高等学校と合併

[所在地] 川崎市中原区上平間 1700-7

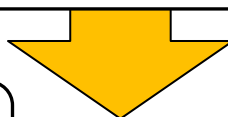
[卒業生総数] 16,400 名

[教育目標・教育活動の特色等]

- 多くの職業資格の取得
- 全国レベルの技術教育を展開

[校章の由来]

戦後の学制改革によって、学校名を「県立川崎工業学校」から「県立川崎工業高校」に改称。同時に、旧校章の羽の形を平和の象徴である鳩のそれに変え「工高」の文字も丸みを持たせている。



### 川崎工科高等学校(全日制 総合技術科)

#### 教育方針

- 工業技術・技能を幅広く学習し、明日の科学技術分野を担う人材の育成
- 生徒の多様な進路希望や学習目的に対応した教育活動の展開
- 総合技術科の誇りと昭和 16 年創立の伝統を生かした学校づくりの推進

#### 教育活動の特色

- 1 年次はじっくり工業分野の基礎・基本を学習し、自己の興味・関心や特性の発見
- 2 年次より 6 つのコース<機械エンジニア><電気テクノロジー><食品サイエンス>  
<ロボットシステム><情報メディア><環境エンジニア>から選択し、専門分野を深めつつ継続的な学習を展開

#### 校章の由来

私の「I」と工業の「i」に現校章のモチーフである鳥の翼を組み合わせ、幅広い知識と技術・技能を身につけることで自分を見つけ、世界に羽ばたく様子を表現。川崎の頭文字「K」の形にまとめ、空色に新しい自分を、青色に未来への希望をターコイズグリーンに深い向学心を象徴させた。





## 吉田島総合高等学校の開校（平成 22 年 4 月 1 日）

### 吉田島農林高等学校（全日制 普通科・園芸科学科・環境土木科）

- 〔開校〕 明治 40 年 足柄上郡立農業補習学校として創立  
明治 42 年 足柄上郡立農林学校として認可  
大正 3 年 県に移管  
昭和 5 年 県立吉田島農林学校と改称  
昭和 23 年 県立吉田島農林高等学校と改称

〔所在地〕 足柄上郡開成町吉田島 281

〔卒業生総数〕 14,111 名

〔教育活動の特色〕

- 二宮金次郎の教え「至誠勤労」を校訓に、社会に貢献できる人材の育成
- 農場実習などを通じた命の尊さ、多くの選択科目等による興味関心の伸張及び深い知識の習得

〔校章の由来〕

「稲の花」を模したもので、おしべは若者の英知を、めしべは希望を表し、社会に貢献する人となることを願って創られたものである。



### 吉田島総合高等学校（全日制 総合学科）

〔教育方針〕

- 平和を愛し、民主主義に徹する人間を育成する。心身ともに健康な人間を育成する。
- 豊かな情操と高い教養とを身につけさせる。
- 勤労を重んじ、実行力のある人間を育成する。

〔教育活動の特色〕

- 屋外授業（実習、実験、観察、調査等）
- 園芸デザイン、地域環境、ライフデザイン、人文国際、科学情報の 5 系列から選択科目
- 少人数編成
- 充実した進路
- 恵まれた自然
- 演習林、宿泊寮など充実した施設・設備。農産物・加工品即売会など

〔校章の由来〕

校章変更なし





「県立高校改革推進計画」関連年表

年度	月 日	国の動向	月 日	本県の動向
昭和 46	6月11日	中央教育審議会「今後における学校教育の総合的な拡充整備のための基本的施策について(答申)」(第3の教育改革)		
昭和 59	8月21日	臨時教育審議会設置(～昭和62年8月20日まで)		
昭和 60	6月26日	臨時教育審議会「教育改革に関する第一次答申」(六年制中等学校、単位制高等学校)		
昭和 61	4月23日	臨時教育審議会「教育改革に関する第二次答申」(教育における地方分権の推進、学校の管理・運営の改善)		
昭和 62	4月1日	臨時教育審議会「教育改革に関する第三次答申」(高等学校入学者選抜方法の改善、開かれた学校と管理・運営の確立)		
	8月7日	臨時教育審議会「教育改革に関する第四次答申(最終答申)」(六年制中等学校、単位制高等学校、高等学校の修業年限の弾力化等、後期中等教育の多様化)		
平成 3	4月19日	中央教育審議会「新しい時代に対応する教育の諸制度の改革について(答申)」		
平成 4	6月29日	高等学校教育の改革の推進に関する会議 第一次報告「高等学校教育の改革の推進について」(学年の区分によらない教育課程の編成・実施、学校間連携等)		
	8月28日	高等学校教育の改革の推進に関する会議 第二次報告「高等学校入学者選抜の改善について(中間まとめ)」		
	1月26日	高等学校教育の改革の推進に関する会議 第三次報告「高等学校入学者選抜の改善について」		

年度	月 日	国の動向	月 日	本県の動向
平成 4	2月12日	高等学校教育の改革の推進に関する会議 第四次報告「総合学科について」		
	3月22日	学校教育法施行規則の一部を改正する省令等(H5.3.10公布)について通達(単位制高校, 調査書なしの高校入学者選抜, 高校間連携, 総合学科開設等)		
平成 8	1月24日	教育改革プログラム策定(中高一貫教育等)		
平成 9	6月1日	中央教育審議会「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について(第二次答申)」(「飛び入学」、中高一貫教育等)	4月24日	「県立高校将来構想検討協議会」設置(~平成10.9.30)
	8月5日	教育改革プログラム改訂(中高一貫教育等)	3月30日	県立高校将来構想検討協議会「これからの県立高校のあり方について」(協議経過の中間まとめ)を公表
平成 10	6月26日	「中高一貫教育制度の導入に係る学校教育法等の一部改正について(通知)」	5月下旬 ~ 6月上旬	県内3会場で「高校フォーラムかながわ'98」(テーマ「将来の県立高校を考える」)開催
	9月1日	中教審(答申)「今後の地方教育行政の在り方について」	9月21日	県立高校将来構想検討協議会「これからの県立高校のあり方について」答申
	11月24日	「学校教育法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係政令の整備に関する政令及び学校教育法施行規則等の一部を改正する省令等の公布について(通知)」(中高一貫教育関係)	9月25日	「県立高校改革推進計画検討会議」設置
	3月29日	文部科学省「高等学校学習指導要領」改訂(「総合的な学習の時間」新設等)告示	10月21日	「これからの県立高校のあり方について(答申)」の冊子発行
平成 11			4月1日	「神奈川県教育委員会特色ある高校づくり推進事業実施要綱」(改正版)施行

年度	月 日	国の動向	月 日	本県の動向
平成 11	9月21日	文部科学省「教育改革プログラム」改訂（中高一貫教育の推進等）	6月22日	県教育長、県議会で県立高校改革における新タイプ校の形態や校数等統合再編の具体的方向を表明
			6月下旬	県立高校紹介ホームページ「はいすくーる・わんだーらんど」開設
			6月30日	「県立高校改革推進計画(仮称)骨子案」公表
			7月下旬	県内6会場で「高校フォーラムかながわ'99」(テーマ「将来の県立高校を考える」)開催
			8月16日	「活力と魅力ある県立高校をめざして一県立高校改革推進計画(案)一」公表
			9月～10月	「県立高校改革推進計画案」に関するPTA説明会(12会場)、中学進路指導担当者説明会(12会場)実施
			10月	県立高等学校長会「高校改革対策特別委員会」発足
			10月14日	県議会「教育改革推進に関する決議」を可決
			11月25日	「活力と魅力ある県立高校をめざして 県立高校改革推進計画」公表
			11月29日	「県立高校改革推進会議」(計画推進部会・再編推進部会)設置
			12月16日	中教審(答申)「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」
1月17日	中高一貫教育推進会議(報告)「中高一貫教育の推進について～500校設置に向けて～」	2月10日	「神奈川県立高等学校における転入学・編入学の取扱いについて」を県立高校長に通知(積極的な理由に基づく進路変更による転・編入学機会の拡大)	



年度	月 日	国の動向	月 日	本県の動向
平成 11	1月21日	「学校教育法施行規則」一部改正(民間人等校長・教頭の登用、学校評議員制度の導入、職員会議の補助機関化)	3月28日	「神奈川県立高等学校の管理運営に関する規則」改正(職員会議の補助機関化)
平成 12	12月1日  12月22日  1月6日	教課審(答申)「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について」(絶対評価、観点別評価)  教育改革国民会議が最終報告書提出(小中高で奉仕活動、教員評価制度等を提言)  中央省庁再編整備(文部省と科学技術庁を文部科学省に改編)	4月1日	県立衛生短期大学附属二俣川高校に福祉科設置
			5月11日	県中高一貫教育研究会議「中高一貫教育についての研究報告」を公表(6年制の中等教育学校を提言)
			9月27日	県教育長、県議会で「県立高校再編整備計画の中で民間校長の登用の方向」表明
			10月4日	県立高校改革推進計画に基づき「新校設置基本計画案」公表
平成 13	4月27日	高等学校生徒指導要録の改善等について通知(観点別評価等)	6月	「これからの県立高校 県立高校改革推進計画の取組」(パンフレット)配布
	2月21日	中教審(答申)「新しい時代における教養教育の在り方について」「今後の教員免許制度の在り方について」「大学等における社会人受入れの推進方策について」	8月1日	平成14年度から県立衛生短大附属二俣川高校「衛生看護科」廃止「看護科」新設公表
			9月4日	2003年度開校5校及び県立衛生短大附属高校の校名募集の発表
			10月12日	平成15年度開校5校の「新校設置計画」策定(フレキシブルスクール1校、総合学科高校1校、総合技術高校2校、専門コース設置校1校)
			3月6日	汲沢高校・豊田高校(統合校)、岩崎学園と高専連携調印

年度	月 日	国の動向	月 日	本県の動向
平成 14	4月	完全学校週5日制実施	4月1日	平成15年度開校予定新校の開校準備室設置
	4月1日	小・中学校「学習指導要領」全面实施	4月	全県立高校で学校評議員制度導入
			4月	白山高校国際教養コースを国際教養コースと美術コースに再編
			4月	学校評価システムの試行開始
	7月29日	中教審(答申)「青少年の奉仕活動・体験活動の推進方策等について」	8月21日	平成15年度開校等の6高校の校名案発表
	8月5日	中教審(答申)「大学の質の保証に係る新たなシステムの構築について」「大学院における高度専門職業人養成について」	9月25日	県立高校初の民間人校長採用決定
			10月	平成16年度開校9校の「新校設置計画」策定(単位制普通科高校3校、フレキシブルスクール1校、総合学科高校5校)
			10月22日	「神奈川県立の高等学校等の設置に関する条例」の一部改正により、横浜南陵・横浜桜陽・平塚工科・藤沢工科・相模原総合高校設置
	11月12日	文部科学省、全国一斉学力テスト高校3年対象(教育課程実施状況調査)	10月29日	「神奈川県立の高等学校等の設置に関する規則」の一部改正
	11月14日	中央教育審議会中間報告「新しい時代にふさわしい教育基本法と教育振興基本計画の在り方について」	11月1日	平成15年度開校の校長、教頭、教諭、事務職員、技能職員の兼務辞令を発令
1月23日	中教審(答申)「大学設置基準等の改正について」	12月6日	茅ヶ崎北陵高校改編見直し発表	
3月20日	中教審(答申)「新しい時代にふさわしい教育基本法と教育振興基本計画の在り方について」	12月12日	神奈川県公立高等学校入学者選抜制度改善方針(案)発表	
		1月16日	県立高等学校長会長、県教育長へ「県立高校改革推進計画：後期計画への提言」を提出	
平成 15	4月1日	「高等学校学習指導要領」実施(学年進行)	4月1日	横浜南陵・横浜桜陽・平塚工科・藤沢工科・相模原総合高校開校

年度	月 日	国の動向	月 日	本県の動向
平成 15			4月	県立高校における社会人聴講制度本格実施
			7月	「これからの県立高校 ― 県立高校改革推進計画の取組 ―」(パンフレット)配布
			8月24日	県立高等学校長会高校改革対策特別委員会「第1回県立高等学校新タイプ校学校相談会」開催
	10月7日	中教審(答申)「初等中等教育における当面の教育課程及び指導の充実・改善方策について」	10月	県教育委員会、パンフレット「未来を探しに」配布
			10月14日	神奈川県立の高等学校に係る通学区域改正方針の策定(学区撤廃)
	10月7日	中教審(答申)「初等中等教育における当面の教育課程及び指導の充実・改善方策について」	10月14日	平成17年度開校3校の「新校設置計画」策定(フレキシブルスクール1校、総合産業高校1校、専門コース設置校1校)
	12月16日	中教審(答申)「新たな留学生政策の展開について」	10月21日	「神奈川県立の高等学校等の設置に関する条例」の一部改正により、鶴見総合・横浜清陵総合・横浜旭陵・金沢総合・川崎・麻生総合・藤沢総合・三浦臨海・小田原高校設置
	12月26日	小・中・高等学校「学習指導要領」盲・ろう・養護学校小学部・中学部・高等部「学習指導要領」を一部改正	10月28日	「神奈川県立の高等学校等の設置に関する規則」の一部改正
	1月28日	キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議(報告)「～児童生徒一人一人の勤労観・職業観を育てるために～」公表	11月1日	平成16年度開校校の校長(県立横浜清陵総合高校長は県立学校初の民間人校長)、教頭、教諭、事務職員、技能職員の兼務辞令を発令
	2月6日	中教審(答申)「大学設置基準等の改正について」		
3月4日	中教審(答申)「今後の学校の管理運営の在り方について」			

年度	月 日	国の動向	月 日	本県の動向
平成 16	4月	国立大学法人化	4月1日	鶴見総合・横浜清陵総合・横浜旭陵・金沢総合・川崎・麻生総合・藤沢総合・三浦臨海・小田原高校開校
			4月1日	「神奈川県立高等学校の管理運営に関する規則」等の一部改正(学校評価及び公表の制度化)
			4月	「神奈川県立高等学校学習状況調査」(抽出調査)開始
	6月9日	「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」を一部改正(コミュニティスクール)	6月30日	平成17年度入学者選抜における横浜翠嵐・外語短大付属・平塚江南高校の学校独自問題導入を公表
			7月2日	「神奈川県立の学校通学区規則を廃止する規則」(学区撤廃)公布
			7月2日	「神奈川県立の高等学校の入学者の募集及び選抜要綱」(学区撤廃)発表
			7月22日	「県立高校改革推進計画 後期実施計画(骨子案)」公表
			7月	「未来をさがしに ー新しいタイプの高校ー」(パンフレット)配布
			8月21日	県立新タイプ校・専門コース設置校合同学校説明会・相談会開催
			10月4日	「県立高校改革推進計画 後期実施計画(案)」を公表
			10月26日	「神奈川県立の高等学校等の設置に関する条例」の一部改正により、神奈川総合産業・厚木清南高校設置
			10月26日	「神奈川県立の高等学校等の設置に関する規則」の一部改正
	1月28日	中教審(答申)「子供を取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について」、「我が国の高等教育の将来像」	11月1日	平成17年度開校(神奈川総合産業・厚木清南高校)の校長、教頭、教諭、事務職員の兼務辞令を発令

年度	月 日	国の動向	月 日	本県の動向
平成 16			12月20日	「県立高校改革推進計画 後期実施計画」策定（2組の再編統合保留）
			3月24日	「県立高校改革推進計画 後期実施計画」の保留分（2組の再編統合）決定
平成 17	4月22日	中教審教員養成部会（報告） 「特殊教育免許の総合化について」	4月1日	神奈川総合産業・厚木清南高校開校
			4月1日	西湘高校に理数コース設置
			4月	「生徒による授業評価」全県立高校で実施
			4月	「キャリア教育実践推進プラン」公表
	10月26日	中教審（答申）「新しい時代の義務教育を創造する」	5月 ～6月	民間人校長公募（10月採用、H18.4 学校赴任）
	12月8日	中教審（答申）「特別支援教育を推進するための制度の在り方について」	7月7日	「キャリア教育実践推進モデル校」（13校）指定
			10月4日	「県立学校の管理運営に関する規則及び県立の盲学校、聾学校及び養護学校の管理運営に関する規則」の一部改正（新たな学校運営組織・教員の新たな職に係る制度見直し）
	1月17日	「教育改革のための重点行動計画～どの子どもにも豊かな教育を～」公表	3月27日	平成19年度開校の定時制総合学科3校の「新校設置計画」公表
	3月27日	「義務教育諸学校における学校評価ガイドライン」策定		
平成 18	6月21日	学校教育法等の一部を改正（特別支援教育への移行）	4月	全国初の教育職給料表の統一（高校・小中学校）、総括教諭の設置
	7月11日	中教審（答申）「今後の教員養成・免許制度の在り方について」	9月17日 ～18日	2006 神奈川県公立高校説明会
	10月10日	教育再生会議設置	10月18日	平成20年度開校8校の「新校設置計画」策定（総合学科高校2校、総合ビジネス高校1校、国際情報高校1校、海洋科学高校1校、集合型専門高校2校、通信制単独校1校）



年度	月 日	国の動向	月 日	本県の動向
平成 18	12月22日	改正教育基本法公布・施行		
	1月24日	教育再生会議（第1次報告） 「社会総がかりで教育再生を ～公教育再生への第一歩～」		
	1月30日	中教審（答申）「次代を担う自 立した青少年の育成に向け て」		
	3月10日	中教審（答申）「教育基本法の 改正を受けて緊急に必要とさ れる教育制度の改正につい て」		
	3月22日	大学への早期入学及び高等学 校・大学間の接続の改善に関 する協議会報告書「～一人一 人の個性を伸ばす教育を目指 して～」	3月22日	平成21年度開校の中等教育 学校2校の「新校設置計画」 及び「入学者決定方針」策定
	3月29日	中教審（答申）「今後の教員給 与の在り方について」		
平成 19			4月1日	「県立教育施設再整備10か 年計画」（「まなびや計画」）ス タート
			4月	「学力向上推進及び特色ある 県立高校づくり推進事業」開 始
	4月24日	「平成19年度全国学力・学習 状況調査」実施	4月	全県立学校に副校長制導入
	6月1日	教育再生会議（第2次報告） 「社会総がかりで教育再生を ～公教育再生に向けた更なる 第一歩と「教育新時代」のた めの基盤の再構築～」	5月27日	公私協調事業「神奈川の高校 展2007」スタートアップイベ ント「全公立展」開催
			6月1日	教育財務課に「まなびや計画 推進室」設置
	6月27日	学校教育法の一部改正（特別 支援学校、副校長その他新し い職の設置、学校評価と情報 提供に関する規定の整備）	6月1日	高校教育課に「高校教育企画 室」設置
	6月27日	地方教育行政の組織及び運営 に関する法律の改正（教育委 員会の責任体制の明確化、教 育における地方分権の推進 等）	6月25日	「学習意欲を高める全日制課 程の新たな学校のしくみづく り」にかかる基本計画案公表

年度	月 日	国の動向	月 日	本県の動向
平成 19	6月27日	教育職員免許法及び教育公務員特例法の改正（教員免許更新制導入等）	6月25日	「中・高・大連携によるこれからの教育実践モデルの構築基本構想案」公表
			8月16日	「かながわ教育ビジョン」策定
			10月16日	平成21年度開校4校の「新校設置計画」策定（単位制普通科高校2校、単位制普通科高校定時制課程1校、総合学科高校1校）
			10月17日	「神奈川県立の高等学校等の設置に関する規則」の一部改正により、横浜国際・横浜緑園総合・横浜修悠館・海洋科学・横須賀明光・小田原総合ビジネス・弥栄・秦野総合高校設置
			10月30日	「神奈川県立の高等学校等の設置に関する規則」の一部改正
			10月20日～21日	公私協調事業「神奈川の高校展2007」メインイベント「公私合同説明・相談会」開催
	12月25日	教育再生会議（第3次報告）「社会総がかりで教育再生を～学校、家庭、地域、企業、団体、メディア、行政が一体となって、全ての子供のために公教育を再生する」（学校の責任体制の確立、学校の情報公開等）	12月19日	「学習意欲を高める全日制課程の新たな学校のしくみづくり」～クリエイティブスクール～実施計画策定・公表
	12月19日	「中・高・大連携によるこれからの教育実践モデルの構築実施計画」策定・公表		
	1月17日	中教審（答申）「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」		
	1月31日	教育再生会議「社会総がかりで教育再生を（最終報告）～教育再生の実効性の担保のために～」公表		
2月15日	「幼稚園教育要領」小学校及び中学校「学習指導要領」改定案公表			

年度	月 日	国の動向	月 日	本県の動向
平成 19	2月19日	中教審(答申)「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について」		
平成 20	4月18日	中教審(答申)「教育振興基本計画について―「教育立国」の実現に向けて―	4月1日	横浜国際・横浜緑園総合・横浜修悠館・海洋科学・横須賀明光・小田原総合ビジネス・弥栄・秦野総合高校開校
			4月	「神奈川県立高等学校学習状況調査」(悉皆調査)開始
			5月31日	公私協調事業「神奈川の高校展2008」スタートアップイベント「全公立展」開催
	7月1日	「教育振興基本計画」閣議決定	8月3日 ～28日	公私協調事業「神奈川の高校展2008」メインイベント「公私合同説明・相談会」開催
	10月6日	中教審(答申)「大学設置基準等の改正について」	10月2日	「神奈川県・愛川町連携型中高一貫教育基本計画案」「座間方面定時制単独校(多部制)新校設置基本計画案」公表
			10月17日	「神奈川県立の高等学校等の設置に関する条例」の一部改正により、横浜栄・平塚湘風・座間総合高校、平塚中等・相模原中等教育学校設置
			10月21日	平成22年度開校4校の「新校設置計画」策定(単位制普通科高校2校、総合学科高校1校、総合技術高校1校)
			10月30日	神奈川県立の高等学校等の設置に関する規則」の一部改正
			10月30日	「神奈川県立中等教育学校の管理運営に関する規則」公布
			12月22日	「神奈川県・愛川町連携型中高一貫教育基本計画」「座間方面定時制単独校(多部制)新校設置計画」公表
平成 21	4月1日	学校保健法等の一部改正(「学校保健安全法」に改称等)	4月1日	横浜栄・平塚湘風・座間総合高校、平塚中等・相模原中等教育学校開校。湘南高校(定時制)改編

年度	月 日	国の動向	月 日	本県の動向
平成 21	4月1日	教員免許更新制の導入	5月16日	公私協調事業「神奈川の高校展2009」スタートアップイベント「全公立展」開催
	4月21日	平成21年度全国学力・学習状況調査実施	8月2日 ～27日	公私協調事業「神奈川の高校展2009」メインイベント「公私合同説明・相談会」開催
			10月16日	「神奈川県立の高等学校等の設置に関する条例」の一部改正により、川崎工科・藤沢清流・相模原青陵 相模向陽館・吉田島総合高校の設置
			10月30日	「神奈川県立の高等学校等の設置に関する規則」の一部改正
平成 22	4月1日	「公立高等学校に係る授業料の不徴収及び高等学校等就学支援金の支給に関する法律」施行	4月1日	川崎工科・藤沢清流・相模原青陵・相模向陽館・吉田島総合高校開校
	4月20日	平成22年度全国学力・学習状況調査	4月	シチズンシップ教育の試行・準備（模擬投票（全校）、年間指導計画の完成等）
	5月11日	小学校・中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善について（通知）	6月12日	公私協調事業「神奈川の高校展2010」スタートアップイベント「全公立展」開催
			8月1日 ～21日	公私協調事業「神奈川の高校展2010」メインイベント「公私合同説明・相談会」開催
			8月	今後の高校教育のあり方検討プロジェクト会議「県立高校改革推進計画 10年間の成果と課題ーこれからの県立高校のあり方を考えるためにー」公表
			12月	今後の高校教育のあり方検討プロジェクト会議「ーこれからの県立高校のあり方ー【中間報告】」公表
	11月30日	中学校学習指導要領一部改正	12月	入学者選抜制度検討協議会「入学者選抜制度の改善について【協議経過の中間まとめ】」

年度	月 日	国の動向	月 日	本県の動向
平成 22	1月31日	中教審(答申)「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」	12月	「横浜保土ヶ谷方面総合ビジネス科・総合技術科併置校【商工高等学校】新校設置計画案」公表
			3月	今後の高校教育のあり方検討プロジェクト会議「これからの県立高校のあり方【最終報告】」公表
平成 23	4月1日	小学校新学習指導要領、全面実施(「小学校新学習指導要領の全面実施について」文部科学省大臣通知)	4月	シチズンシップ教育、全県立高校で本格実施
	4月22日	「公立義務教育諸学校の学級編制及び教員定数の標準に関する法律及び地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正	6月4日	公私協調事業「神奈川の高校展2011」スタートアップイベント「全公立展」開催
			8月2日 ～20日	公私協調事業「神奈川の高校展2011」メインイベント「公私合同説明・相談会」開催
			10月	「神奈川県公立高等学校入学者選抜制度改善方針」公表
	11月	「高等学校キャリア教育の手引き」作成・配布	10月	「新校設置計画【商工高等学校】[総合ビジネス科・総合技術科併置]新校設置計画」公表
			12月19日	「県立高校改革の取組みについてー専門教育の推進と多部制定時制高校の新設ー」公表
			2月29日	「横浜港南方面 多部制定時制高校 基本構想案」公表